2025年度
未来教室科目
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧 ［発行日：2025/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈Ｓ〉：サティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【A0048】消費者法Ⅰ ［大澤　彩］春学期授業/Spring 1
【A0049】消費者法Ⅱ ［大澤　彩］秋学期授業/Fall 3
【A0090】労働法総論・労働契約法［藤木　貴史］春学期授業/Spring 4
【A0091】労働基準法［藤木　貴史］秋学期授業/Fall 6
【A0092】労働法総論・労働契約法［沼田　雅之］春学期授業/Spring 8
【A0093】労働基準法［沼田　雅之］秋学期授業/Fall 10
【A0249】ジェンダー論Ⅰ ［中野　洋恵］春学期授業/Spring 12
【A0522】コミュニティ政策（日本）［名和田　是彦］春学期授業/Spring 14
【A0733】平和・軍事研究Ⅱ ［権　鎬淵］秋学期授業/Fall 16
【A0777】平和・軍事研究Ⅰ ［権　鎬淵］春学期授業/Spring 17
【A0898】アメリカ政治史Ⅰ ［中野　勝郎］春学期授業/Spring 18
【A0899】アメリカ政治史Ⅱ ［中野　勝郎］秋学期授業/Fall 19
【A3482】文化地理学（１）［吉野　裕］春学期授業/Spring 20
【A3483】文化地理学（２）［川添　航］秋学期授業/Fall 21
【A6226】Race, Class and Gender I: Concepts &Issues ［Daiki Hiramori］秋学期授業/Fall 22
【A6241】Foundations of Finance ［Shiaw Jia Eyo］秋学期授業/Fall 23
【A6255】International Security ［Takeshi Yuzawa］秋学期授業/Fall 24
【A6325】Race, Class and Gender II: Global Inequalities ［Daiki Hiramori］春学期授業/Spring 25
【A6600】（GO用）Race, Class and Gender I: Concepts &Issues ［Daiki Hiramori］秋学期授業/Fall 26
【A6601】（GO用）Race, Class and Gender II: Global Inequalities ［Daiki Hiramori］春学期授業/Spring 27
【A6606】（GO用）International Security ［Takeshi Yuzawa］秋学期授業/Fall 28
【B3717】減災工学［丸山　喜久、矢部　正明、藤村　和也、吉見　雅行、室野　剛隆、山崎　敦広、土屋　修一、山本　浄二、門屋　博行、田中　孝幸、永野　正千、外園　明成］年間授業/Yearly 61
【B3717】減災工学［丸山　喜久、矢部　正明、藤村　和也、吉見　雅行、室野　剛隆、山崎　敦広、土屋　修一、山本　浄二、門屋　博行、田中　孝幸、永野　正千、外園　明成］年間授業/Yearly 63
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3717】減災工学［丸山　喜久、矢部　正明、藤村　和也、吉見　雅行、室野　剛隆、山崎　敦広、土屋　修一、山本　浄二、門屋　博行、田中　孝幸、永野　正千、外園　明成］年間授業/Yearly 65
【C0243】平和学［松本　悟］秋学期授業/Fall 67
【C0942】フランス語圏の文化Ⅰ（思想）［大中　一彌］秋学期授業/Fall 68
【C1046】地域協力・統合［大中　一彌］秋学期授業/Fall 71
【C1056】国際関係研究Ⅳ ［石森　大知］秋学期授業/Fall 73
【C2201】現代社会論Ⅱ ［島袋　海理］春学期授業/Spring 74
【C2227】災害政策論［中川　和之］春学期授業/Spring 76
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C5110】産業・組織心理学Ⅱ ［今城　志保］秋学期授業/Fall 79
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C5111】キャリア開発論［武石　惠美子］秋学期授業/Fall 80
関連科目【C5298】就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合- ［武石　惠美子、佐藤　厚］秋学期授業/Fall 81
関連科目【C5299】就業応用力養成Ⅰ ［鈴木　美伸］春学期授業/Spring 83
関連科目【C5300】就業応用力養成Ⅱ ［鈴木　美伸］秋学期授業/Fall 85
学部共通科目【H7042】食品科学［三浦　豊］春学期授業/Spring 87
【K6066】金融論Ａ［武田　浩一］春学期授業/Spring 88
【K6067】金融論Ａ［高橋　秀朋］春学期授業/Spring 89
【K6068】金融論Ｂ［武田　浩一］秋学期授業/Fall 90
【K6069】金融論Ｂ［高橋　秀朋］秋学期授業/Fall 91

【K6108】現代ファイナンス入門Ａ［湯前　祥二］春学期授業/Spring 92
【K6109】現代ファイナンス入門Ｂ［湯前　祥二］秋学期授業/Fall 93
【K6150】国際関係論Ａ［冨永　靖敬］春学期授業/Spring 94
【K6151】国際関係論Ｂ［冨永　靖敬］秋学期授業/Fall 96
【K6314】地球環境論A ［山﨑　友紀］春学期授業/Spring 98
【K6315】地球環境論B ［山﨑　友紀］秋学期授業/Fall 99
【K6356】自然環境論A ［山﨑　友紀］春学期授業/Spring 100
【K6357】自然環境論B ［山﨑　友紀］秋学期授業/Fall 101
【N1116】国際協力論［小林　尚朗］春学期授業/Spring 102
【N1155】NPO論［渡真利　紘一］秋学期授業/Fall 103
【N1159】災害支援論［青木　信夫、正谷　絵美］春学期授業/Spring 105
【N6155】NPO論（SSI）［渡真利　紘一］秋学期授業/Fall 107
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2323】経済学ＬＡ［鈴木　誠］春学期授業/Spring 109
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2324】経済学ＬＢ［鈴木　誠］秋学期授業/Fall 111
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6501】スポーツ科学Ａ［西村　一帆］春学期授業/Spring 113
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6502】スポーツ科学Ｂ［西村　一帆］秋学期授業/Fall 115
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6505】スポーツ科学Ａ［佐藤　優希］春学期授業/Spring 117
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6506】スポーツ科学Ｂ［佐藤　優希］秋学期授業/Fall 119
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6507】スポーツ科学Ａ［白井　隆長］春学期授業/Spring 121
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6508】スポーツ科学Ｂ［白井　隆長］秋学期授業/Fall 123
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6509】スポーツ科学Ａ［武井　敦彦］春学期授業/Spring 125
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6510】スポーツ科学Ｂ［武井　敦彦］秋学期授業/Fall 127
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6511】スポーツ科学Ａ［佐藤　優希］春学期授業/Spring 129
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6512】スポーツ科学Ｂ［佐藤　優希］秋学期授業/Fall 131
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6513】スポーツ科学Ａ［吉田　康伸］春学期授業/Spring 133
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6514】スポーツ科学Ｂ［吉田　康伸］秋学期授業/Fall 134
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6517】スポーツ科学Ａ［中澤　史］春学期授業/Spring 135
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6518】スポーツ科学Ｂ［中澤　史］秋学期授業/Fall 137
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6519】スポーツ科学Ａ［魚住　智広］春学期授業/Spring 139
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6520】スポーツ科学Ｂ［魚住　智広］秋学期授業/Fall 140
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6529】スポーツ科学Ａ［西村　一帆］春学期授業/Spring 141
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6530】スポーツ科学Ｂ［西村　一帆］秋学期授業/Fall 143
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6538】スポーツ科学Ａ［朝比奈　茂］春学期授業/Spring 145
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6539】スポーツ科学Ｂ［朝比奈　茂］秋学期授業/Fall 147

LAW300AB（法学 / law 300）

消費者法Ⅰ

大澤　彩

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちの消費生活では、契約トラブル、悪質商法、食の安全など、日々様々な法律問題が生じている。このような法律問題を考える上で必要となってくるのが、消費者法と呼ばれる領域の法知識・考え方である。本講義は消費者法についての考え方、知識を身につけ、日常生活における法律問題を考える際に必要なリーガルマインドを有した「消費者」になることを目的とする。
学習にあたっては、民法はもちろん、消費者契約法・製造物責任法などの特別法、さらには消費者行政に重要な役割を果たしている行政機関や行政規制の役割、民事訴訟を中心とした紛争解決制度の現状など、様々な分野にわたる知識・理解・関心が求められる。
消費者法Ⅰでは、主に契約をめぐる法的問題につき、民法のみならず消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の内容とともに学ぶ。それにより、消費者契約をめぐるトラブルに対処するための法解釈・適用の在り方を理解することができる。
「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（商法中心コース）・（労働法中心コース）」「文化・社会と法コース」に属する。

【到達目標】
民法の契約総論、各論部分のみならず、消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の知識を身につける。
契約トラブルなどの日常的な消費者問題に対して民法・各種特別法がいかなる役割を果たしているのかについて、法律の規定のみならず判例・学説をもとに理解する。これによって、民法の特に総則・債権法部分の発展的な学習を行うこともできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
①授業日2日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。レジュメに「事前課題」をのせることもある。受講生はこの事前課題やレジュメ、教科書、さらには裁判例集を読んで予習しておくこと。②授業日は、受講者がすでに教科書を読んでいることを前提に、発展的な解説を行う。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、授業開始前・終了後にも受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	消費者法とは何か①	消費者法とは何か。消費者基本法。教科書Unit1
第2回	消費者法とは何か②	消費者・事業者概念。教科書Unit2
第3回	消費者契約の締結過程の適正化①契約の成立	消費者契約の成立、契約締結上の過失。教科書Unit3
第4回	消費者契約の締結過程の適正化②民法の役割	民法の錯誤、詐欺。教科書Unit4
第5回	消費者契約の締結過程の適正化③消費者契約法	消費者契約法4条など。教科書Unit5
第6回	消費者契約の締結過程の適正化④交渉力の不均衡	民法の強迫、消費者契約法4条など。教科書Unit6
第7回	消費者契約の内容の適正化①中心的債務：公序良俗	公序良俗規定と消費者取引。教科書Unit7
第8回	消費者契約の内容の適正化②不当条項規制その1	民法による不当条項規制、約款論。教科書Unit8
第9回	消費者契約の内容の適正化③不当条項規制その2	消費者契約法8条～10条。教科書Unit9
第10回	消費者契約と特定商取引法①	特定商取引法の概要。教科書Unit11
第11回	消費者契約と特定商取引法②	クーリングオフ、通信販売規制、過量販売規制など。教科書Unit12
第12回	消費者取引とシステム責任論①割賦販売法	割賦販売法の概要、抗弁の接続。教科書Unit13
第13回	消費者取引とシステム責任論②名義貸し、不正利用、預金トラブル	クレジットカードの不正利用、預金トラブル。教科書Unit14
第14回	消費者取引と不法行為法	消費者取引における不法行為法の役割。教科書Unit15

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業2日前までにアップするレジュメや教科書を使って予習すること。また、教科書や消費者法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に解説を行う。
講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりで教科書の指定箇所や消費者法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。
また、新聞やテレビ、インターネット等で日頃から私たちの日常生活におけるトラブルについてのニュースを見聞きしておくことも重要である。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大澤彩『消費者法』（商事法務、2023年）
このほかに、オリジナル教材『消費者法裁判例集』を作成し、使用する予定。詳細は初回授業で指示するため、それまでは購入しないこと。

【参考書】
中田邦博＝鹿野菜穂子編『基本講義消費者法（第5版）』（日本評論社、2022年）
河上正二＝沖野眞巳編『消費者法判例百選（第2版）』（有斐閣、2020年）
松本恒雄＝後藤巻則編『消費者法判例インデックス』（商事法務、2017年）
大村敦志『消費者法（第4版）』（有斐閣、2011年）

【成績評価の方法と基準】
学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）を行う。この学期末試験による評価を100％とする。
以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの記述が詳細なので、レジュメの内容や授業ではもう少しかみ砕いた説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

【その他の重要事項】
・レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話を聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。
・学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。
・契約法（Ⅰ～Ⅳ）・不法行為法の講義をすでに受講、ないしは同時に受講していることが望ましい。

・消費者問題に直接取り組む弁護士のみならず、消費者問題に対する対処が求められており、そのための部署も設けられている国・地方公共団体の職員を目指す学生、さらには、近年コンプライアンス意識が一層顕著になっているすべての企業で働くことになる学生にとっても重要な科目である。
秋学期に開講される「消費者法Ⅱ」も合わせて受講することが望ましい。
SDG s の観点からも受講することをお勧めする。
学生向けに消費者法を学ぶことの意味について書いた、拙稿「消費者法－私達＝「消費者」のよりよい消費生活のために」法学教室487号（2021年）別冊付録掲載を読んで欲しい。

【Outline (in English)】
We learn the consumer law, especially, the consumer contract law. The goals of this course are to comprehend this law.
Before /after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand tne course content.
Final grade will be calculated according to the term-end examination(100%).

LAW300AB（法学 / law 300）

消費者法Ⅱ

大澤　彩

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
消費者法Ⅰの理解をもとに、消費者取引における物・サービスの品質・安全に関する法制度を学ぶ。また、消費者取引のうち、特殊な法的問題をはらむ数種の取引類型をとりあげ、民法、特別法が果たす役割を学ぶ。さらに、行政組織、訴訟手続など消費者法を形成している制度についても理解を深める。
「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（商法中心コース）・（労働法中心コース）」「文化・社会と法コース」に属する。

【到達目標】
物・サービスの品質、安全についての民事ルール、業法ルールの知識を身につける。
消費者取引のうち、特に問題となることが多い取引類型につき、民法、特別法が果たしている役割を理解する。
消費者問題に関連する行政規制、訴訟法の知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
①授業日2日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。レジュメに「事前課題」をのせることもある。受講生はこの事前課題やレジュメ、教科書、さらには裁判例集を読んで予習しておくこと。②授業日は、受講者がすでに教科書を読んでいることを前提に、発展的な解説を行う。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、授業開始前・終了後にも受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	消費者取引の対象①物の品質	民法の規定との関係。教科書Unit16
第2回	消費者取引の対象②物の安全性（1）	製造物責任①。教科書Unit17
第3回	消費者取引の対象③物の安全性（2）	製造物責任法。教科書Unit18
第4回	消費者取引の対象④品質・安全性に関する行政規制	食品表示法などの行政規制。教科書Unit19
第5回	消費者取引の対象⑤サービス契約論	民法の規定・特定商取引法。教科書Unit20
第6回	消費者取引・各論①悪質商法	悪質商法の各類型についての説明。教科書Unit21
第7回	消費者取引・各論②金融商品	金融商品トラブルをめぐる民事判例および特別法。教科書Unit22
第8回	消費者取引・各論③建築取引	建築トラブルをめぐる民事判例。教科書Unit23
第9回	消費者取引・各論④電子商取引	インターネット取引でのトラブル。教科書Unit24
第10回	消費者保護制度論①行政機関の役割	消費者庁、国民生活センターの役割。教科書Unit25
第11回	消費者保護制度論②消費者紛争解決制度その1	ADR制度、消費者団体訴訟。教科書Unit26
第12回	消費者保護制度論③消費者紛争解決制度その2	集団的消費者被害救済について。教科書Unit26
第13回	消費者取引と市場の公正	独禁法と消費者法の関係、景品表示法について。教科書Unit27
第14回	消費者・事業者の活動	消費者団体の役割、公益通報者保護法。教科書Unit28

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業2日前までにアップするレジュメや教科書を使って予習すること。また、教科書や消費者法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に解説を行う。
講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりで教科書の指定箇所や消費者法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。
また、新聞やテレビ、インターネット等で日頃から私たちの日常生活におけるトラブルについてのニュースを見聞きしておくことも重要である。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大澤彩『消費者法』（商事法務、2023年）
このほかに、オリジナル教材『消費者法裁判例集』を作成し、使用する予定。詳細は初回授業で指示するため、それまでは購入しないこと。

【参考書】
中田邦博＝鹿野菜穂子編『基本講義消費者法（第5版）』（日本評論社、2022年）
河上正二＝沖野眞巳編『消費者法判例百選（第2版）』（有斐閣、2020年）
松本恒雄＝後藤巻則編『消費者法判例インデックス』（商事法務、2017年）
大村敦志『消費者法（第4版）』（有斐閣、2011年）

【成績評価の方法と基準】
学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）を行う。この学期末試験による評価を100％とする。
以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの記述が詳細なので、レジュメの内容や授業ではもう少しかみ砕いた説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

【その他の重要事項】
・レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話を聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。
・学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。
・消費者問題に直接取り組む弁護士のみならず、消費者問題に対する対処が求められており、そのための部署も設けられている国・地方公共団体の職員を目指す学生、さらには、近年コンプライアンス意識が一層顕著になっているすべての企業で働くことになる学生にとっても重要な科目である。
SDGｓの観点からも受講することをお勧めする。
学生向けに消費者法を学ぶことの意味について書いた、拙稿「消費者法－私達＝「消費者」のよりよい消費生活のために」法学教室487号（2021年）別冊付録掲載を読んで欲しい。

【Outline (in English)】
We learn consumer law, especially, the safety and the the quality of the goods and the service. The goals of this course are to comprehend this law.
Before /after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand tne course content.
Final grade will be calculated according to the term-end examination(100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

労働法総論・労働契約法

藤木　貴史

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律2年A-G・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようにさまざまな規制を行う法分野です。
　労働法総論・労働契約法では、個別的労働法の枠組み部分を扱います。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が強いので、継続して履修することを強く勧めます。
　この科目は選択必修科目であり、全てのコースに属しています。
〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の3点です。
①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる
〈注意〉この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または秋学期の「労働基準法」の単位を取得できていない場合、３年生以降、火曜４限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。

【到達目標】
①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・対面での講義を予定しています。ただし、オンラインに変更となる可能性があります。
・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働法の意義／労働法の体系／労働法と紛争解決
第2回	労働者の自由と権利	労働憲章／未成年保護／寄宿舎規定
第3回	労働法のプレーヤー	労働者性／使用者性・事業／労働組合・過半数代表者／労働法の法源
第4回	労働契約規制（1）	本体的権利義務／使用者の付随義務
第5回	労働契約規制（2）	労働者の付随義務
第6回	労働契約規制（3）	労働基準法上の規制／国際的労働契約
第7回	労働契約の開始	労働契約の成立／内定（内々定）／試用期間
第8回	労働契約の終了（1）	合意解約と辞職／定年／解雇制限
第9回	労働契約の終了（2）	解雇権濫用法理
第10回	懲戒	懲戒処分の種類／根拠と限界
第11回	労働条件の決定（1）	労働契約・労使慣行／就業規則
第12回	労働条件の決定（2）	就業規則と労働契約法
第13回	労働条件の決定（3）	就業規則の不利益変更
第14回	労働紛争の実態	労働紛争の実態を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［予習］（1時間程度）
・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
・内容を忘れた場合、前回の該当箇所にさかのぼって教科書を読み直しましょう。
［復習］（3時間程度）
・LMS上の小テストを解きましょう。
・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
・その回で取り扱われた判例について、(i)どういう事件だったか、(ii)裁判所はどういうルールを設定したか、(iii)裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】
藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所　2020年）
大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）

【参考書】
日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2025年版）』
三省堂『デイリー六法』

【成績評価の方法と基準】
到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために中間テスト、期末テストを、それぞれ実施します。
［小テスト］3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
［中間テスト］2割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）
［期末テスト］5割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】
授業資料については比較的評価が高かったので継続して利用します。中間テストに対するフィードバックはより素早く行えるように準備します。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
［関連科目］
・労働基準法との連続履修を強く勧めます。
・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）
［授業を受ける姿勢］
・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書・六法のみ持ち込みを認めます。
・六法／法令集も授業に必ず持ってくること。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【Outline (in English)】
1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.
In this lecture, students learn about the framework of individual labor &employment law. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.
2.Learning Objectives
(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.
(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.
(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.
3.Learning activities outside of classroom
< Before the class> (about 1 hour)
-Print out your resume from the LMS.
-Read the textbook for the part indicated in the resume.
< After the class> (about 3 hours)
-Take the quiz in LMS.
-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.
-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told
4.Grading Criteria /Policy
-Quiz(30%)
-midterm exam(20%)
-final exam(50%)

LAW200AB（法学 / law 200）

労働基準法

藤木　貴史

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律2年A-G・法律3〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようにさまざまな規制を行う法分野です。
　労働基準法では、労働条件に対する法規制や労働契約の展開を規律する法規制を学びます。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が高い授業ですので、連続して受講することを強く推奨します。
　この科目は、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目です。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されています。
〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の3点です。
①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる
〈注意〉この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または春学期の「労働法総論・労働契約法」の単位を取得できていない場合、３年生以降、火曜４限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。

【到達目標】
①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・対面での講義を予定しています。ただし、オンラインに変更となる可能性があります。
・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働契約法の復習／労働基準法の全体像
第2回	賃金（1）	賃金総論／最低法賃金／賃金支払いの4原則
第3回	賃金（2）	賞与／退職金／休業手当
第4回	賃金（3）	賃金債権の確保／休業手当／解雇と賃金
第5回	労働時間（1）	労働時間の定義／休憩・休日
第6回	労働時間（2）	時間外労働、休日労働／割増賃金／固定残業代
第7回	労働時間（3）	弾力的労働時間制度／裁量労働制／労働時間法制の適用除外
第8回	年次有給休暇	年休権の法的性質／計画年休制度／年休付与義務
第9回	人事制度（1）	配転／出向、転籍
第10回	人事制度（2）	昇進・降職／昇格・降格／人事考課
第11回	企業組織再編	合併／事業譲渡／企業分割
第12回	労災（1）	労災保険とは何か／通勤災害と労災保険
第13回	労災（2）	過労死・過労自殺／労災民訴
第14回	労働基準行政	労働基準の実情を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［予習］（1時間程度）
・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
・内容を忘れた場合、前回の該当箇所にさかのぼって教科書を読み直しましょう。
［復習］（3時間程度）
・LMS上の小テストを解きましょう。
・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
・その回で取り扱われた判例について、(i)どういう事件だったか、(ii)裁判所はどういうルールを設定したか、(iii)裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】
藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）

【参考書】
日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2025年版）』
三省堂『デイリー六法』

【成績評価の方法と基準】
　到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために中間テスト、期末テストを、それぞれ実施します。
・［小テスト］3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
・［期末テスト］7割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】
授業資料についてはおおむね良好な評価を得ているので、引きつづき利用を継続します。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
［関連科目］
・労働法総論・労働契約法との連続履修を強く勧めます。
・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）
［授業を受ける姿勢］
・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書・六法のみ持ち込みを認めます。
・六法／法令集も授業に必ず持ってくること。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【Outline (in English)】
1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.
In Labor Standards Law, students learn about laws and regulations governing working conditions and the development of labor contracts. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.
2.Learning Objectives
(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.
(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.
(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.
3.Learning activities outside of classroom
< Before the class> (about 1 hour)
-Print out your resume from the LMS.
-Read the textbook for the part indicated in the resume.
< After the class> (about 3 hours)
-Take the quiz in LMS.
-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.
-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told
4.Grading Criteria /Policy
-Quiz(30%)
-Final exam(70%)

LAW200AB（法学 / law 200）

労働法総論・労働契約法

沼田　雅之

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律2年H-N・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「労働法総論」部分については、労働法関連科目を通じた労働法の目的・必要性、すなわち基本原則について説明する。「労働契約法」部分については、解雇や労働条件の変更といった問題を扱う。2008年3月に施行された労働契約法の内容を説明し、関連する多くの判例法理を整理して講義する。
◆注意◆この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または秋学期の「労働基準法」の単位を取得できていない場合、３年生以降、火曜４限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。◆注意◆

【到達目標】
１．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
２．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的
な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト
〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
３．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題
（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
４．１～３で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガル
マインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・本講義は、対面授業とします。
・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（4月8日（火））で行います。
・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義内容や評価方法について。労働法の全体像について
第2回	労働法の法源と労働条件決定ルール	労働条件決定の多様なツールについて
第3回	労働関係のプレイヤー	労働者、使用者について
第4回	労働契約上の権利・義務	労働契約上当然にある権利・義務について
第5回	労働契約の終了（1）	解雇の手続き規制、法律上の解雇理由規制、労使の自主的ルールによる規制について
第6回	労働契約の終了（2）	解雇権の濫用について
第7回	労働関係の終了（3）	整理解雇について
第8回	労働関係の終了（4）	辞職、合意解約、定年、当事者の消滅について
第9回	懲戒	企業秩序遵守義務とその違反に関するルールについて
第10回	採用・採用内定・試用	採用内定の取消しや、試用期間後に本採用しないこと（本採用の拒否）に関するルールについて
第11回	就業規則と労働条件の変更	就業規則による労働条件の不利益変更法理について
第12回	人事（1）	同一使用者のもとでの労働者の異動である配転について
第13回	人事（2）	異なる使用者間の労働者の異動である出向・転籍について
第14回	紛争解決	労働関係の紛争解決手段について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エ
イデル研究所、2020年）
・プリント教材

【参考書】
・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】
試験（80点）
・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
Web小テスト（20点）
・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【【専門領域と研究業績】】
＜専門領域＞　社会法（社会保障法・労働法）
＜研究テーマ＞　非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
＜主要研究業績＞
【主な著書】
（編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
（編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
（分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19　第7巻」（すいれん舎）
（分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
（分担執筆）「ニューレクチャー労働法［第3版］」（成文堂）
（編著）「ファーストステップ労働法」（エイデル研究所）
（分担執筆）「講座労働法の再生第３巻　労働条件論の課題」（日本評論社）
（分担執筆）「労働者派遣と法」（日本評論社）
【主な論文】
「『同一労働同一賃金』と見直しが迫られる『あたりまえ』の処遇」（JP総研Research63号）
「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」（労働法律旬報2035号）

「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」（労働法律旬報2026号）
「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」（年金と経済41巻4号）
「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」（季刊労働者の権利349号）
「フランチャイズ店舗加盟店主の労組法上の労働者性」（労働法律旬報2014号）
・「労働契約申込みみなし制度における偽装請負と『免れる目的』」（法律時報94巻9号）
・「プラットフォームワーカーの自由と保障―『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」（世界960号）

【Outline (in English)】
1. Course Outline
The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.
The outline is as follows:
－1. A basic principles of labor law;
－2. A Labor Contract Act;
－3. A case law concerning the Labor Contract Act.
2. Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
－A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
－ B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test /legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
－ C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
－ D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.
3. Learning Activities Outside of Classroom
Lecture/Exercise（two-credits）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
4.Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
－a. Term-end examination: 80%
－b. Online quiz : 20%

LAW200AB（法学 / law 200）

労働基準法

沼田　雅之

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律2年H-N・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働法のうち、労働基準法とこれに関連する判例法理を扱う。

法律学科の選択必修科目の一つであり、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

「企業・経営と法（労働法中心）」コースをモデルとして履修計画をたてている者は、良好な成績で単位を修得することが強く求められる。

◆注意◆この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または春学期の「労働法総論・労働契約法」の単位を取得できていない場合、３年生以降、火曜４限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。◆注意◆

【到達目標】

１．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
２．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的
な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト
〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
３．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題
（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
４．１～３で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガル
マインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・本講義は、対面授業とします。
・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（9月23日（火））で行います。
・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・ガイダンス ・労働基準法の適用範囲と実効性の確保	講義内容や評価方法の説明について 労働基準法が定める基準を守らせるための手段について
第2回	労働基準法の労働者・使用者（1）	労働基準法上の「労働者」について
第3回	労働基準法の労働者・使用者（2）	労働基準法上の「使用者」について
第4回	労働者の人権	均等待遇原則、強制労働の禁止について
第5回	賃金（1）	賃金の定義、賃金支払規制について
第6回	賃金（2）	休業手当、最低賃金規制について
第7回	賃金（3）	賞与（ボーナス）、退職金に関する諸問題について
第8回	労働時間規制（1）	法定労働時間規制、労働時間の概念について
第9回	労働時間規制（2）	休日規制、時間外・休日労働、深夜業規制について
第10回	労働時間規制（3）	割増賃金、労働時間規制の適用除外について
第11回	フレキシブルな労働時間制度（1）	変形労働時間制・フレックスタイム制について
第12回	フレキシブルな労働時間制度（2）	事業場外労働のみなし時間制・裁量労働制について
第13回	休暇	年次有給休暇等について
第14回	労働者の安全衛生	労働安全衛生法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エ
イデル研究所、2020年）
・プリント教材

【参考書】

・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

試験（80点）
・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
Web小テスト（20点）
・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】

シラバスの内容を変更し、実務家の方による講演を実施することがあります。

【【専門領域と研究業績】】

＜専門領域＞　社会法（社会保障法・労働法）
＜研究テーマ＞　非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
＜主要研究業績＞
【主な著書】
（編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
（編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
（分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19　第7巻」（すいれん舎）
（分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
（分担執筆）「ニューレクチャー労働法［第3版］」（成文堂）
（編著）「ファーストステップ労働法」（エイデル研究所）
（分担執筆）「講座労働法の再生第３巻　労働条件論の課題」（日本評論社）
（分担執筆）「労働者派遣と法」（日本評論社）
【主な論文】

「『同一労働同一賃金』と見直しが迫られる『あたりまえ』の処遇」（JP総研Research63号）
「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」（労働法律旬報2035号）
「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」（労働法律旬報2026号）
「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」（年金と経済41巻4号）
「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」（季刊労働者の権利349号）
「フランチャイズ店舗加盟店主の労組法上の労働者性」（労働法律旬報2014号）
・「労働契約申込みみなし制度における偽装請負と『免れる目的』」（法律時報94巻9号）
・「プラットフォームワーカーの自由と保障―『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」（世界960号）

【Outline (in English)】
1. Course Outline
The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.
The outline is as follows:
－1. About a Labor Standards Act;
－2. A case law concerning the Labor Standards Act.
2. Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
－A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
－B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test /legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
－C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
－D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.
3. Learning Activities Outside of Classroom
Lecture/Exercise（two-credits）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
4.Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
－a. Term-end examination: 80%
－b. Online quiz : 20%

POL200AC（政治学 / Politics 200）

ジェンダー論Ⅰ

中野　洋恵

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目で、ジェンダーの視点から政治・政策を考察することを目的としています。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？ 一言でいえば、権威化され、硬直化した既成の観念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見過ごしてきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だといっても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。このジェンダー論Ⅰでは、ジェンダーとはどのような考え方なのか、その意味や意義、アプローチなどを学びます。いわばジェンダー論の基礎編になります。

【到達目標】
授業では、この「ジェンダー」を、現代社会を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政策を、従来にない新しい観点から再考することを目指します。すなわち、既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。そしてそれがそれがどのような政策につながっているのかを理解してほしいと考えます。このような学びを通して、学生にはこれまでの概念を批判的に問い直し、自分自身の解答に到達する能力を身につけることを目指します。政治や政策は机上の理論ではなく、私たちの政策に密接にかかわっています。だからこそ参画して変えていくことが可能になるのです。そのために、ものごとの本質を見抜く、能力を磨くことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
ジェンダーの視点から政治、政策の中心的な課題を問い直します。
(1)ジェンダー概念
本講義では、政治、政策の課題をジェンダーの視点から検討し、どのような変化がみられるのか、そのそしてその要因はどのような政治的、社会的と関わっているのかを理解します。
この作業の前提として、講義ではまずジェンダーとは何か、ジェンダーに基づく見方や考え方、またジェンダー分析の射程について学びます。従来、ジェンダーは男女の役割や関係を表す用語として用いられてきましたが、今にちでは様ざまな社会関係に応用され、また性の多様性を表現する概念に発展しています。
(2)様々な政策からジェンダー問題を理解する
1999年に可決された男女共同参画社会基本法、2020年12月に閣議決定された「第5次男女共同参画基本計画」をもとに様々な分野で推進されている政策を理解することによって．政策決定過程やあらゆるレベルの政策及びシステムをジェンダー平等にするための政策理念「ジェンダー主流化（Gender Mainstreaming）」概念を明確にします。
(3)ジェンダー平等を進めるために
平等であることに異議を唱える人はあまりいないと思います。また、平等は人権が尊重され、誰もが幸福に生きるため社会的基盤といっても良いでしょう。しかし、いまだに、性別、人種や民族、性的マイノリティ、障がいのある人びとが差別的に取り扱われているという現実があります。
どうすればいいのか、国内の動きや海外の動きを見ることによって考えます。

授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用して講義を進めます。課題ごとのレポートを提出していただきます。また、提出していただいた課題ごとのレポートについては授業の初めに，いくつか内容を取り上げ，全体に 対してフィードバックを行います。
レポートの提出は「学習支援システム」通じて行う予定です。
また、対話やグループワークなどを取り入れ、参加型の授業を試みます。
授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序：本講義の目的、講義の見取り図 講義の全体像の理解	本講義の概要、全体を通して学ぶべきこと、受講の姿勢
第2回	ジェンダーとは？ ①ジェンダーについての理解を深める	ジェンダーとは「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれついて の生物学的性別（セックス／sex）とは異なる。どうしてジェンダーについて考える必要があるかを理解する。
第3回	ジェンダーとは？ ②ジェンダーをめぐる最近の動向について考える	現在ジェンダーをめぐる課題が大きく取り上げられるようになっている。 多様性をどう考えるかLGBTQやパートナーシップ制度等に関する法制度の整備も進んでいる。政策の動向についても考察する。また、各地の裁判所で出された判決についても言及する。
第4回	家族とジェンダー	未婚化、少子化が進んでいる。家族を形成する結婚や子育ての状況が変化している。歴史的な動向を説明すると主に現状の問題を考えるとともに。少子化に対応する子育て支援施策(異次元の少子化対策)についてジェンダーの視点から考える。
第5回	教育とジェンダー①	一般に教育の場は男女平等だと言われている。問題はないのかを考える。 教育の中に潜むジェンダー問題を明らかにする。
第6回	教育とジェンダー②	「理系は男子が得意で女子は文系が得意」という言説について考える。内在しているアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）を理解する。
第7回	労働とジェンダー①	「女性の活躍」が政策課題になっている。女性の継続就労が当たり前になりつつある中の課題について言及する。 女性活躍推進法の改正によって、2022年から条件に該当する企業は「男女の賃金の差異」情報の公表が義務付けられることとなった。また、「年収の壁」を意識せず働くことができる環境づくりも進められている。このような動きの中で男女賃金格差問題を考える。

第8回	労働とジェンダー②	男女ともに働きやすい職場環境を作るために「ワーク・ライフ・バランス」の取組が進んでいる。2022年に男性の育児休業取得促進のための子の出生直後の時期における柔軟な育児休業の枠組みの創設された。男性が育児に関わることの意味と課題を考える。
第9回	メディアとジェンダー	インターネット、テレビ、新聞や雑誌など私たちのまわりは情報にあふれているがジェンダーのステレオタイプを再生産することが少なくない。メディアをジェンダーの視点で分析するとともに「メディア・リテラシー」を理解する。
第10回	女性に対するあらゆる暴力の根絶	女性に対する暴力は重大な人権侵害である。その予防と被害からの回復、暴力の根絶を葉来るためのはどうすべきかを考える。改正された刑法について説明し「性的同意」を考える。
第11回	政治とジェンダー	政策・方針決定過程への女性の参画の拡大は現在の日本において大きなジェンダー課題となっている、特に政治分野における女性の参画拡大を進めるためにはどのような方策がとられているかを理解する。2018年に施行された「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」についても言及する。
第12回	国内のジェンダー平等政策	ジェンダー平等を進めるためにどのような方策がとられてきたのかを「男女共同参画基本計画」を基に理解する。特に今年の12月には「第6次男女共同参画基本計画」が閣議決定されることが予定されているのでその内容についても説明する。
第13回	国際的に見たジェンダー平等の取組	世界の中でも日本のジェンダー平等のランキングは低い。SDGs、GGGI等の国際的な動向を踏まえ日本の課題を考える。ジェンダー平等が達成されていない分野を明確にし。その要因も考える。今年は第4回世界女性会議から30年が経過し、「北京+30」の取組の世界的なレビューが予定されている。国際的にみたジェンダー平等の達成と課題について説明する。
第14回	授業内試験	持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の下調べ、授業後のノート整理は不可欠です。また、理解を深めるために、紹介文献等を読むことを薦めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。

【参考書】
・三浦まり『さらば、男性政治』（岩波新書2023年）
・牧野百恵『ジェンダー格差』（中公新書2023年）
・関口洋平『イクメンを疑え！』
・第5次男女共同参画基本計画
http://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/4th/index.html
・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト　ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
http://wwwa.cao.go.jp/wlb/index.html
・女性に対する暴力
若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材
http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html
NWEC実践研究第９号「ジェンダーに基づく暴力」
・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト
http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html
・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html
・内閣府男女局　理工チャレンジ（リコチャレ）
http://www.gender.go.jp/c-challenge/
・科学技術振興機構　ダイバーシティ推進
http://www.jst.go.jp/diversity/index.html
・初等中等教育における男女共同参画
国立女性教育会館　https://www.nwec.jp/about/publish/kyoin-program.html

【成績評価の方法と基準】
内容ごとの課題レポートの提出（50%）
筆記試験（授業内試験、持ち込み不可）(50%)

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に注意を払い、受講へのモチベーションを高めるように努力します。ジェンダー平等に向けてどのような社会を構築することが持て目られるのかは様々な意見があります。現状の何が課題となっているのかをデータや理論から丁寧な説明を心がけます。意見交換の場の充実を検討します。

【Outline (in English)】
Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens.
Course outline
This course introduces gender concept, gender policy and gender issues in Japanese society to students taking this course.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand Japanese gender issues and develop the ability to think critically about social phenomena.
Lecture/Exercise（two-credits）
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

POL200AC（政治学 / Politics 200）

コミュニティ政策（日本）

名和田　是彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科の科目の中では行政・地方自治科目群に属します。「コミュニティ」及び「コミュニティ政策」とは何であるか、日本のそれはどういう特徴を持っているかを理解することが、この「コミュニティ政策（日本）」のテーマであり、到達目標です。結論から言うと、日本の「コミュニティ」は、欧米なら地方自治体等として政治制度の中に位置づけられているはずの身近な地域単位です。それが日本では長らく民間サイドに放置されてきました。高度成長期後にこうした「コミュニティ」を再び制度化する政策が試みられ、コミュニティは政治社会の構成要素となっていきました。そして、バブル経済崩壊の1990年代以降の厳しい時代においては独特な役割を期待され、また新たな法制度のもとに展開してきています。自治体内分権とか都市内分権といわれる仕組みがそれです。本講義は、都市内分権制度を中心に、日本特有の身近な地域社会の構造を解明することを目指しています。

【到達目標】
コミュニティ、自治体内分権（都市内分権）、協働といった政策用語が織りなす今日の日本のコミュニティ政策の概要と、その日本的特異性を、理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
コミュニティ政策はある意味で日本に特有なものです。それを理解するためには、日本と異なった構造をもつ国や比較的類似した国との比較の視点をもつことが不可欠です。外国の状況をそれとして扱うのは「コミュニティ政策（理論・国際比較）」の課題とし、本講義では、諸外国との比較を念頭に置きつつ、コミュニティ政策論の基礎理論を端緒的に提示し、それに基づいて日本のコミュニティとコミュニティ政策について概説します。
各回とも事前に講義資料を配付しますので、受講者は予習をして講義に臨んでください。また、講義中に受講者に投げかけをしたり議論をしたりしますので、受講者はそれに呼応して積極的に発言してください。数回程度リアクションペーパーまたは課題を提出していただきますが、それに対しては原則として次の回にコメントをいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説　コミュニティ政策というもの、地域的まとまりという発想	「地域的まとまり」の「重層構造」について、受講者の直感的了解を掘り起こし、講義の理論的基礎を獲得する。
第2回	自治会・町内会の構造と特質	自治会・町内会の理解抜きには日本のコミュニティは語れない。日本独自の地域組織とされる自治会・町内会の基本的な性格を、これまでの社会学等の研究に基づいて整理する。
第3回	自治会・町内会の構造と特質　続き	前回に引き続いて、自治会・町内会について整理する。
第4回	地域的まとまりを「運営」するための制度的諸条件	ミルトン・コトラーの考え方に学びながら、地域的まとまりを秩序づけるためには、どのような制度的条件が必要かを考える。そして、日本では、自治会・町内会が民間組織であるにもかかわらず、地域的まとまりを運営できてきたことを解明する。
第5回	コミュニティ政策の開始	昭和の大合併が終わったあと日本は経済の高度成長に入り、都市化の道を歩む。その結果生じた諸矛盾の激発がコミュニティ政策を促した。その最初の時期から１９７０年代の様子を概観する。
第6回	１９８０年代のコミュニティ政策とその転換	１９８０年代のコミュニティ政策はコミュニティ・センター自主管理が主柱であった。これがバブル経済の崩壊とともに変わってくる。この様子を、自治体内分権的な仕組みが登場してくることに即して明らかにすると同時に、地域集会施設の変容についても触れる。
第7回	日本型自治体内分権の成立	１９９０年代からいくつかの自治体で取組まれた新しいコミュニティ政策は、地方自治法に「地域自治区」制度が規定されるあたりからさらに加速してくる。この動きを日本型自治体内分権として捉える。
第8回	日本型自治体内分権と自治会・町内会	自治会・町内会は２０００年前後から特有の弱体化過程に入ったと私は見る。だからこそ自治体内分権という新しいコミュニティ政策が採用されるのであるが、にもかかわらずその制度が主要にあてにしているのは自治会・町内会である。そのため自治体内分権の実践には独特な困難が伴っている。このことをいくつかの実例に則して考察する。
第9回	日本型自治体内分権の類型的特徴	日本型自治体内分権は、参加と協働を基本理念とした、国際比較的に見ても特異な性格のものである。その類型的完成形を高松市の仕組みを分析することによって解明する。
第10回	日本型自治体内分権制度としての地域自治区制度の運用	地方自治法上の地域自治区制度を採用している自治体は多くないが、日本型自治体内分権としての特徴をよく観察できる重要な考察対象である。宮崎市を例にとって、日本型自治体内分権の「限界」について考察する。
第11回	日本型自治体内分権の事例研究	さらに考察材料を増やすために、どちらかといえば「参加」を重視して始まった上越市の地域自治区制度の運用とその変化を扱う。さらに、地域自治区制度ではない、独自の仕組みを設計して自治体内分権制度を行っている自治体の例も取り上げる。
第12回	日本型自治体内分権の限界と可能性	各地の事例を通じて読み取れる、日本型自治体内分権の限界を整理し、現在諸方面で構想されたり試行されたりしている限界突破の構想を吟味する。

第13回	現代日本のコミュニティ政策の総体的動向	以上を総括しつつ、現代日本の政策においてコミュニティがどのように見られ扱われているかを整理する。
第14回	現代コミュニティの展望	財政危機と不況の中で格差が拡大している。この状況のもとでコミュニティはどのような役割を果たせるのか、総務省や日本都市センターなどが行った全国調査をもとに私見を述べ、受講者と意見交換したい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料を事前に配布し、これに基づいて講義を行いますので、受講者はこれを予習・復習することが基本です。さらに、講義中に参考文献を紹介しますので、これも読んで学習してください。また、課題を何度か出すことを予定していますので、その際には、単に講義資料の該当箇所を復習するだけではなく、課題を解答するに必要な資料を自ら探して調べることも求められます。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しません。

【参考書】
講義の各回に扱うテーマについての文献はその都度示しますが、全体に関わる私の著作として次のものを挙げておきます。特に三つ目のものは、一般向けのブックレットですから、入門書として薦められます。
名和田是彦『コミュニティの法理論』（創文社、1998年）
名和田是彦編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）
名和田是彦『自治会・町内会と都市内分権を考える』（東信堂、2021年）

【成績評価の方法と基準】
成績は、何度か（２回または３回を予定）出題する課題と期末の試験によって判定します。課題の採点に当たっては、内容の正しさよりも、課題を受け止めてよく調べよく考えたかどうかを重視して採点します。社会科学においては、正解が複数ある、あるいは正解がはっきりしない、という場合もよくあります。どこかにある「正解」なるものを探す、という学習態度では身につきません。
成績判定に占める比重は、課題が全体で30％、期末の試験が70％と想定しています。

【学生の意見等からの気づき】
コロナ禍の間はほとんどオンライン授業であったため、頻繁に課題を出して、かつこれを採点するのみならず、次回授業で論評するという双方向的なやりとりがあり、私も多くを学ぶことができました。説明の仕方、提示の仕方によって思わぬ誤解が生じたりすることにも気づきました。今年度の講義資料は、これを生かしてブラッシュアップしたいと思います。課題を見ていると、学期中にグッと力をつけてくる受講者が何人かいて、励みになります。

【Outline (in English)】
I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. I will analyze the history and the recent tendency of Japanese community policy, paying special attention to international comparison with those in European, American and Asian countries, especially Germany.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 70%、Short reports : 30%.

POL300AD（政治学 / Politics 300）

平和・軍事研究Ⅱ

権　鎬淵

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の前半は、戦後日本の軍事政策の概要と歩みに関して分析や解説を行う。授業の後半は、日本をめぐる東アジアの軍事情勢を詳しく分析する。領土問題をはじめ、日本や東アジアの主要な軍事争点を解説する。
これらを通じて、国際政治における戦争と平和に関する専門知識と東アジア地域の軍事情勢に関する知識を身につける。

【到達目標】
平和や軍事問題に関する基礎知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチ、東アジア地域の情勢認識、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
主に教員の講義をもって授業を行うが、理解を助けるために各種の映像物を見せることもある。関係する展示会（例えば、国際航空宇宙展など）や記念施設への展覧や感想文を求めることもある。
毎回の授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小リポートに対する講評や解説も行う。
授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	終戦の状況と戦後日本のスタート	「過去の大戦」とは何か。戦争終結要因の分析、終戦の状況を解説
第2回	米国の対日占領政策	GHQの非武装政策、平和憲法、領土処理を解説
第3回	自衛隊創設と日本の主権回復	朝鮮戦争、自衛隊創設、サンフランシスコ講和条約、集団的自衛権問題を解説
第4回	日米安保Ⅰ	1951年の旧日米安保条約、日米行政協定を解説
第5回	日米安保Ⅱ	1960年の新日米安保条約を解説。極東条項と核戦争巻き込まれ論など。
第6回	領土問題1	北方四島について
第7回	領土問題Ⅱ	独島・竹島、尖閣諸島、沖縄について
第8回	シビリアンコントロール	天皇統帥権、軍政軍令分離論、シビリアンコントロールの意味
第9回	日本の核政策	非核３原則、核燃料リサイクル政策、T-1政策について
第10回	日本の軍事計画Ⅰ	一次防から「防衛大綱達成(1990年)」まで
第11回	日本の軍事計画	冷戦終結以降の軍事計画について
第12回	中国の軍事政策	中国の核戦力・通常戦力
第13回	北朝鮮の軍事政策	核とミサイル戦力 南の韓国に対する戦略
第14回	韓国の軍事政策	北に対する戦略 通常戦力、兵役制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）、記念施設、展示会を見て感想文を提出することを求めることがある。
本授業の準備・復習時間は、各２時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】
開講時に提示する。

【参考書】
開講時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加（10～20％）、課題（10～30％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
This course will explain and analyze the history of Japan's postwar military policy and the military situation in East-Asia surrounding Japan.
The aim of this course is to help students understand the correlation of war and peace , and the knowledge of Japan's military policy and military situation surrounding Japan.

POL300AD（政治学 / Politics 300）

平和・軍事研究Ⅰ

権　鎬淵

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世の中を知るために、いろいろなレンズが使われる。お金というレンズで世の中を分析すると、それまでに見えにくかった現象がより明確に理解できると同様に、軍事というレンズを通して世界を眺めると、それまでに見えなかったことが鮮明に見えてくるかも知れない。戦後の日本では軍事というレンズをもって国際および国内を観察するという試みを意図的に避けてきた一方、昨今の一部勢力には歪んだ見方が流行ったりして、大学生や教養人として健全たる軍事的な判断能力が求められる。

この科目は軍事というレンズで世界や国際秩序を理解する授業である。細かい軍事知識が説明される場合も多いが、それは「世界を知るため」の必要最小限にとどまる。「平和」を願うなら、「軍事」のことを考えなければならない。平和を理想だけに求めず、武力万能論にも走らず、「平和」を現実的に追求していくことを模索していく。

【到達目標】

平和や軍事問題に関する基礎的な見方や知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチに接し、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

世界の基本秩序は軍事力の力関係によって形づくられるが、その力関係の根本を作るのはやはり核兵器である。核兵器を語らずに世界秩序の基本を語ることはできない。武器というものは使われない時でも存在するだけで力を発揮しており、核兵器はなおさらである。

被爆経験のある日本ではこれまで正面で取り上げることがなかった、核兵器や核戦略のことを徹底的に分析する。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	軍事という観点から世界を見る。	軍事はなぜ重要なのか
第2回	原子爆弾と水素爆弾の構造	作る方法と作らせない方法も
第3回	核戦略序論	両方とも核を保有している場合、どう戦うのか？
第4回	相互確証破壊戦略	奇抜な内容の戦略が世界を支配する
第5回	限定的な核使用戦略	核兵器を使いやすくする戦略
第6回	Middle Powerの核戦略	イギリス、フランス、中国の核戦略の考え方。
第7回	冷戦終了後の核兵器状況	2024年の時点で、世界に1万2千発の核兵器が現存
第8回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第9回	北朝鮮の核	なぜ、北朝鮮は核兵器に固執するのか。
第10回	日本の冷戦時代の戦略	「非核3原則」「専守防衛」は表面的なだけで、実態とは全然異なる。
第11回	日本の核能力	核燃料リサイクル政策と今後取りうる核戦略の選択肢を説明する。
第12回	中国の核戦力	中国の核戦略、核戦力の詳細
第13回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第14回	ミサイル防衛	「飛んでくる弾を弾で落とす」戦略は有効か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）、記念施設、展示会を見て感想文を提出することを求めることがある。
本授業の準備・復習時間は、各２時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に開示する

【参考書】

授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（10～20％）、課題（10～20％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces the international political history, mainly based on arms race competition for supremacy in nuclear warfare between the United States, the Soviet Union, and their respective allies during the Cold War.
It introduces also contemporary big military issues, missile defense system and nuclear proliferation　issues.
The aim of this course is to help students understand international political situations with basic knowledge of nuclear warfare systems.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

アメリカ政治史Ⅰ

中野　勝郎

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国を理解するための前提について検討します。

【到達目標】
アメリカ合衆国を理解するのに必要な視点を構築することをめざします。
アメリカ合衆国は、理解することがむずかしい国です。この授業によって、「アメリカ合衆国とはなにか」という問いにたいする答えを出すことはできないと思いますが、その問いに答えるための補助線を身につけることはできると思います。
また、このような作業をとおして、日本に住むあなたたちが、自分たちの国や社会について思いを巡らせ、「自分たちは何者であるのか」を考える視点を築くための材料を得ることも、この授業の目的です。
The goal of this course is to enhance your understanding of how the U.S.has become what it is now.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本的には、教室での講義形式の授業をおこないます。
授業にかんする情報も、すべて、HOPPIIにアップします。
受講者は、毎回、質問・コメントなどがあれば、HOPPIIにアップしてください。
（すぐれたリアクションペーパーは、成績評価の際に加味します）
In-person lecture.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「アメリカ」と「合衆国」について考える
第2回	アメリカ史における「時間」1	「空間」という視点からアメリカを考える1
第3回	アメリカ史における「時間」2	「空間」という視点からアメリカを考える2
第4回	アメリカ史における「時間」3	「空間」という視点からアメリカを考える3
第5回	アメリカ史における「空間」1	「空間」という視点からアメリカを考える1
第6回	アメリカ史における「空間」2	「空間」という視点からアメリカを考える2
第7回	アメリカ史における「空間」3	「空間」という視点からアメリカを考える3
第8回	アメリカ史における「空間」4	「空間」という視点からアメリカを考える4
第9回	アメリカ史における「人間」1	「人間」という視点からアメリカを考える1
第10回	アメリカ史における「人間」2	「人間」という視点からアメリカを考える2
第11回	アメリカ史における「人間」3	「人間」という視点からアメリカを考える3
第12回	アメリカ史における「人間」4	「人間」という視点からアメリカを考える4
第13回	アメリカニズム	アメリカのナショナリズムについて考える
第14回	「文脈」的理解	アメリカ現代社会をアメリカ史の「文脈」において捉える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に適宜参考文献・資料を指示しますので、それを読むようにしてください。
授業以外の学習時間は各回4時間が標準です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
齋藤眞『アメリカとはなにか』（平凡社、1995）（旧版、『アメリカ史の文脈』（岩波書店）でも可）

【成績評価の方法と基準】
学期末試験(100％)
Grading will be decided on the term-end examination only.
なお、HOPPIIへのコメントが優れている場合には、期末試験の点数に加点して成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】
ノートを取りやすいように心がける。

【Outline (in English)】
This course aims to analyze several hallmarks of politics and society of U.S.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

アメリカ政治史Ⅱ

中野　勝郎

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国の政治を歴史的に考察します。
本学期は、第二次大戦以降現代までのアメリカ政治史がテーマです。

【到達目標】
リベラルな政治体制・政治秩序の確立・発展・崩壊という視点からアメリカ現代史を考察します。
The goal of this course is to elucidate a history of the liberal order since 1945.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本的には、教室での講義形式の授業をおこないます。
授業にかんする情報も、すべて、HOPPIIにアップします。
受講者は、毎回、質問・コメントなどがあれば、HOPPIIにアップしてください。
（すぐれたリアクションペーパーは、成績評価の際に加味します）
In-person lecture

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リベラルな体制の胎動１	冷戦の発生
第2回	リベラルな体制の胎動２	ニューディール・コンセンサスの確立
第3回	リベラルな体制への挑戦１	人種問題・対抗文化・反戦運動１
第4回	リベラルな体制への挑戦２	人種問題・対抗文化・反戦運動２
第5回	リベラルな体制の崩壊	「偉大な社会」計画とヴェトナム戦争の遺産
第6回	レーガン保守主義１	さまざまな保守主義
第7回	レーガン保守主義２	レーガン保守革命
第8回	冷戦の終結	冷戦の終結と新世界秩序の模索
第9回	民主党の変容	「第三の道」の模索
第10回	ネオコンの時代	ブッシュ・ジュニア政権時代の内政と外交
第11回	オバマ政権の誕生	「中道」の模索と分断化の進行
第12回	トランプの時代	トランプ政権誕生の背景と権威主義体制化
第13回	バイデン政権と民主党の分裂	リベラルの巻き返し？
第14回	トランプ化した共和党	わわわれはなにを見ているのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に適宜参考文献・資料を指示しますので、それを読むようにしてください。
授業以外の学習時間は各回４時間が標準です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
斎藤眞・古矢旬『アメリカ亜政治外交史[第二版]』（東京大学出版会、2012年）

【参考書】
久保文明・岡山裕『アメリカ政治史講義』（東京大学出版会、2022年）、その他の参考文献については、授業中に適宜紹介します。
資料は、コピーして配布するかHOPPIIにアップします。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験(100％)
Grading will be decided on the term-end examination only.
なお、HOPPIIへのコメントが優れている場合には、期末試験の点数に加点して成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】
ノートを取りやすいように心がける。

【その他の重要事項】
この授業は、アメリカ政治史Ⅰの続編です。できるだけ、両方の科目を履修するようにしてください。

【Outline (in English)】
American Political History from 1945

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

文化地理学（１）

吉野　裕

授業コード：A3482　｜　曜日・時限：火1/Tue.1
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は地理学分野のひとつである「文化地理学」をテーマにしています。文化地理学の研究対象は、たとえば、都市や集落の景観、言語、宗教、衣食住、社会集団、世界観（人々の空間のとらえ方）など非常に多様です。この授業では文化地理学の学問上の位置づけや、これがどのようなテーマで研究されてきたか、研究史にもふれながら紹介していきます。その際に、文化地理学の研究がいかなる方法・資料を用いて行われてきたかについても具体的に説明します。みなさんはこの科目を履修することにより、文化地理学の研究上の視野が極めて広く、なおかつ、その研究手法が非常に多様であることを深く理解するでしょう。

【到達目標】
①文化地理学の学問上の位置づけとその研究史について説明できる。
②文化地理学の視点でなされた研究の特徴、ならびに、その研究方法について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・授業形態：講義。
・毎回、リアクションペーパー（成績評価に使用します）に授業に関する質問・意見を記載し、これを提出していただきます。
　※質問・意見に関するフィードバックを次の授業で行います。
・毎回、資料を配付します。インターネットを通じての配布・配信はいたしませんのでご注意下さい（欠席された場合は、翌週、お声がけ下さい）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講上の注意事項と文化地理学の学問上の位置づけを確認しよう
第2回	文化地理学の歴史①	環境論とは何か？
第3回	文化地理学の歴史②	多様化する研究の視点
第4回	文化地理学の研究とその方法とは？	海外でのフィールドワークの紹介
第5回	「地域のとらえ方」について学ぼう①	等質地域と機能地域から地域構造を把握しよう
第6回	「地域のとらえ方」について学ぼう②	「農作物の世界的な旅」から分布が形成される仕組みを把握しよう
第7回	「地域のとらえ方」について学ぼう③	メンタルマップ・知覚と行動
第8回	「地域のとらえ方」について学ぼう④	好きな空間と嫌いな空間
第9回	文化地理学の研究の紹介①	言語
第10回	文化地理学の研究の紹介②	風土に根ざした生業・生活文化
第11回	文化地理学の研究の紹介③	宗教と人口
第12回	文化地理学の研究の紹介④	民俗
第13回	文化地理学の研究の紹介⑤	ジェンダー
第14回	試験・総括	試験の実施と授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①授業で学修した専門用語の定義を地理学の事典などで調べる。
②授業内容に関する図書などを探し、これらを読んで知識を獲得する。
毎回、授業の前後に上記①・②の準備学習・復習を行って下さい（合計4時間を毎回の標準とします）。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
・森　正人・中川　正『文化地理学ガイダンス　改訂版』ナカニシヤ出版、2022年（第1版）。
・高橋伸夫・田林　明・小野寺　淳・中川　正『文化地理学入門』東洋書林、1995年 （第1版）。
・千葉徳爾『文化地理入門』大明堂、1991年（第2版）。

【成績評価の方法と基準】
①授業内テスト:第14回の授業時に試験を実施します(70%)。
②授業参画度:毎回、リアクションペーパーに授業に関する質問・意見などを記載して提出していただきます。その内容をもとに授業の理解度を評価します(30%)。
上記の①・②をもとに、成績を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーに記載いただいたご質問・ご意見をふまえて授業を進めて参ります。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
①非常勤講師につき、オフィスアワーの設定はありません。授業の前後に質問や書類へのサイン・受け取りなどに対応しますので、お声がけ下さい。
②やむを得ない事情で授業形式を変更したり、休講したりする場合、大学LMSの「文化地理学（１）」のページを通じてお知らせいたします。重要な情報を見逃さないようにご確認下さい。

【Outline (in English)】
・Course outline: The objective of this course is to understand the methods of study on cultural geography, and to obtain wide knowledge of it.
・Grading Criteria /Policy: By the end of this semester, students will be able to explain the methods of study on cultural geography, and regional characteristics originated in nature, culture, economy, population, and so on.
・Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant books and dictionaries. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
・Grading Criteria /Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 70%, reaction papers: 30%

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

文化地理学（２）

川添　航

授業コード：A3483　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化地理学の対象と手法をさまざまなトピックから学ぶ．受講生が文化地理学を身近なものに結び付けて考察できるようになることを目的とする．

【到達目標】
文化地理学のさまざまな知識や概念，方法を学び，文化地理学の深層を理解できるようになることが目標である．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
文化地理学に関連する教科書をもとに，文化地理学のさまざまなトピックを学ぶ．授業末にコメントシートの作成を指示することがあるため，必要に応じて作成・提出すること（次回以降の授業時にフィードバックを行うことがある）．高等学校等で使用していた地図帳を持参することがのぞましい．あわせて，授業ノートを準備すること．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：地理学における「文化」	文化地理学とは？
第2回	文化地理学の展開①：環境と景観	環境決定論と環境可能論
第3回	文化地理学の展開②：自然環境の変化と人間活動	自然環境の変化と人間活動の影響
第4回	文化地理学の展開③：文化と地域	「地域」という考え方と人間活動
第5回	文化地理学の展開④：人間の知覚とメンタルマップ	メンタルマップが示すもの
第6回	文化地理学の展開⑤：文化と都市・農村関係	都市と農村における文化とその結びつき
第7回	文化地理学の展開⑥：文化の政治学（ポリティクス）	政治と環境・地域・景観
第8回	文化地理学の展開⑦：文化地理学の調査手法	文化地理学に関連する地域調査の方法
第9回	都市の文化地理：都市構造の転換と祭礼	都市と環境・地域・景観
第10回	ものづくりの文化地理：伝統的工芸品の流通と消費	伝統工芸と環境・地域・景観
第11回	観光の文化地理①：観光と環境・地域・景観	観光と環境・地域・景観
第12回	観光の文化地理②：観光資源としての文化	観光資源の創出と環境・地域・景観
第13回	宗教の文化地理①：宗教と環境・地域・景観	宗教現象と環境・地域・景観
第14回	宗教の文化地理②：現代社会と宗教の変化	現代社会と宗教との結びつき

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストとともに各回授業では参考文献を提示するので，そこに示された著書や論文に目を通したうえで準備学習・復習等に臨んでほしい．また，受講時に作成したノートや授業動画を見直し，講義の内容について復習すること．本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない．参考文献については授業内で適宜指示する．

【参考書】
森　正人・中川　正(2022)：『文化地理学ガイダンス［改訂版］』（ナカニシヤ出版）￥2,400
中俣均編(2011)：『空間の文化地理』(朝倉書店)￥4,180
竹中克行・大城直樹・梶田　真・山村亜希編（2009）:『人文地理学』（ミネルヴァ書房）￥3,000
高橋伸夫・田林　明・小野寺　淳・中川　正（1995）:『文化地理学入門』（東洋書林）￥2,500

【成績評価の方法と基準】
平常点（コメントシートなどの内容，参加態度で評価）（20%），期末レポート（80%）で成績評価を行う．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
可能な限り文化地理学（1）を履修したうえで登録・履修してほしい．授業の進み具合や受講者数により授業計画を変更する可能性があります．

【Outline (in English)】
This course deals with Cultural Geography. It also enhances the development of students' skill in Cultural Geography. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Cultural Geography. At the end of the course, students are expected to realize the contemporary Cultural Geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need 2hours. Final grade will be decided based on the exam and class participations. Grading will be based on regular points (based on the contents of comment sheets, etc., and participation attitude) (20%), and the final report (80%).

SOC200ZA（社会学 / Sociology 200）

Race, Class and Gender I: Concepts &Issues

Daiki Hiramori

Credit(s)：2　|　Semester：秋学期授業/Fall　|　Year：2〜4
Day/Period：月3/Mon.3

その他属性：〈S〉〈ダ〉〈未〉

【Outline and objectives】
This class sees our society through the lens of race, class and gender to understand how privilege and inequality are produced, maintained, naturalized and challenged. The course will look at how various inequalities are connected to one another through examining global, national and local issues. Students will learn to analyze how race, class and gender are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

【Goal】
Through lectures, discussion and written assignments, students will learn concepts and theories to analyze how race, class, gender, sexuality and disability affect individuals and society. They will learn to apply these analytical tools and knowledge to form critical opinions on current issues related to various bases of inequalities. Students will acquire skills in critical thinking, analysis and writing that can be applied in other academic fields as well as future careers.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】
This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Foundation: "Inequality"	What do we mean by inequality?
3	Foundation: "Class"	How do major social scientists conceptualize social class?
4	Social Stratification in Japan	What does social stratification in Japan look like?
5	Foundation: "Race"	What are the main theoretical approaches to race?
6	Critical Race Theory	What are the key premises of Critical Race Theory?
7	Foundation: "Gender"	What are the main theoretical approaches to gender?
8	Gender Inequality in Japan	What does gender inequality in Japan look like?
9	Foundation: "Sexuality"	What are the main theoretical approaches to sexuality?
10	Sexual Orientation and Gender Identity in Japan	How to measure sexual orientation and gender identity on surveys in Japan?
11	Foundation: “Disability”	What is the social model of disability?
12	Foundation: “Intersectionality”	What is intersectionality?
13	Prepare for Final Paper	Preparation and feedback for the final paper
14	Review &Final Paper Preparation	What have we learned in this course? Preparing and submitting the final paper

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】
Further references may be provided based on students’ areas of interest.

【Grading criteria】
Participation: 20%
Discussion facilitation: 20%
Weekly reading responses: 30%
Final paper: 30%

【Changes following student comments】
Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】
None. Students are encouraged to use computers/tablets for class-related purposes in class.

【Others】
Students are strongly encouraged to take "Race, Class and Gender II" after completing "Race, Class, Gender I." Students who have passed "Race, Class and Gender I" will be given admission priority to the seminar "Intersectionality: Multiple Inequalities."

【Prerequisite】
Students who intend to enroll in this course are expected to have passed "Introduction to Sociology."

ECN200ZA（経済学 / Economics 200）

Foundations of Finance

Shiaw Jia Eyo

Credit(s)：2　｜　Semester：秋学期授業/Fall　｜　Year：2〜4
Day/Period：火1/Tue.1
Notes：TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module)band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈未〉

【Outline and objectives】
Learning the fundamental concepts of finance. This is a finance course that focuses on the core principles of finance, including financial statements, financial performance, time value of money financial assets such as bonds, stocks, and risk analysis. Even if you are not planning a career in finance, a working knowledge of finance will help you to understand and interpret financial information around you.

【Goal】
This course presents the fundamental concepts of finance to students. The goal of this class is to understand corporate finance analyses that are used in business. At the end of this course, students will learn how to construct financial statements, calculate various financial ratios, and understand financial assets such as bonds and stocks. Students will acquire the analytical skills necessary to make good financial decisions.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Method(s)】
This course is taught primarily through lectures. Feedback is given during class time and through tools such as HOPPII or email. Interactive class participation is encouraged.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and Overview
2	Financial Statements (1)	Construct the Income statement and Balance Sheet
3	Financial Statements (2)	Construct the Statement of Cash Flow
4	Financial Performance (1)	Calculate financial ratios
5	Financial Performance (2)	Analyzing financial ratios
6	The Time Value of Money (1)	Calculate present value, future value, and annuity
7	The Time Value of Money (2)	Understand interest rate, uneven cash flow and amortization table
8	Review &Midterm Exam	Assessing the degree to which you understand the subject
9	Financial Markets (1)	Learn the different financial institutions and the stock market
10	Financial Assets (1)	Understand the determinants of interest rate
11	Financial Assets (2)	Learn about bonds valuation and rating
12	Financial Assets (3)	Understand and calculate stand-alone risk
13	Financial Assets (4)	Understand and calculate risk in a portfolio context
14	Final Exam & Wrap-up	Assessing the degree to which you understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to download the lecture slides, read the textbook and complete any assignments given. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
Brigham, Eugene, Houston, Joel F. *Essentials of Financial Management,* 4th Edition, Cengage Learning Asia Pte Ltd, 2018.
You are not required to buy the textbook. There are older editions available in the library.

【References】
Further materials will be provided by the instructor.

【Grading criteria】
Students will be evaluated based on class participation (10%), assignments (20%), midterm exam (35%) and a final exam (35%).

【Changes following student comments】
Not applicable.

【Others】
This course requires students to like “numbers” because it involves a lot of calculations and analysis. Students who are interested in taking this course must attend the first week of class. A selection process will be conducted during the first week prior to the enrollment of this course.

【Prerequisite】
None

POL200ZA（政治学 / Politics 200）

International Security

Takeshi Yuzawa

Credit(s)：2　｜　Semester：秋学期授業/Fall　｜　Year：2〜4
Day/Period：火3/Tue.3

その他属性：〈未〉

【Outline and objectives】
This course covers the approaches to security studies, a sub-discipline of International Relations (IR). Security studies mainly examines the causes of interstate and intrastate war; the conditions for international peace; State strategies to guarantee their survial and securtiy, the ways of managing and resolving international and domestic armed conflicts; and the impact of new technologies, weapons and ideas on the ways states engage in war.

【Goal】
The course objectives are: (1) to enable students to develop a broader understanding of the key theories and concepts in security studies; (2) to examine major security challenges in the international arena through the lens of relevant theories and concepts; (3) to acquire the ability to form their own answers to enduring and contemporary questions inherent in international security studies.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】
This course has two segments: First, presenting major theories and concepts in security studies, necessary for understanding contemporary security policies and issues.
Second, examining contemporary security challenges related to armed conflicts, arms trade and military competition, nuclear proliferation, genocide and mass killings, and terrorism.
Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Military Security	Exploring the concepts of military security
3	Regime Security	Exploring the concepts of regime security
4	Societal Security	Exploring the concepts of societal security
5	Human Security	Exploring the concepts of human security
6	Environmental Security	Exploring the concepts of enviromental security
7	Review and Mid-term exam	Review and Written test
8	The Evolution of Modern Warfare	Examining changes in warfare
9	The Arms Trade	Examining the key aspects of the contemporary arms trade
10	Nuclear Proliferation	Examining the important aspects of nuclear proliferation
11	Humanitarian Intervention	Providing an overview of the heated debate in terms of the validity of humanitarian intervention
12	Terrorism	Analyzing the threat that terrorism poses to countries and the world
13	Review and Preparation for the final exam	Review of major topics covered by week 9-13
14	Review and Final Exam	Review and Written test

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are required to have read the relevant chapters for the books listed in both the textbook and reference sections before attending the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
Allan Collins (ed). *Contemporary Security Studies*, Sixth edition. Oxford University Press, 2022.

【References】
Paul D Williams and Matt McDonald, ed. *Security Studies: An Introduction*. Fourth edition. Routledge, 2023.
John Baylis,James J. Wirtz and Colin S.Gray *Strategy in the Contemporary World*. Seventh Edition. Oxford University Press, 2022.

【Grading criteria】
Contribution to discussion (10%), mid-term examination (45%), final examination (45%)

【Changes following student comments】
Handouts to be provided in a timely manner.

【Equipment student needs to prepare】
Some course materials will be delivered via the Hoppii.

【Others】
Non-GIS students wishing to take part in this course should have adequate English skills to complete the course work and assignments.

【Prerequisite】
none.

SOC300ZA（社会学 / Sociology 300）

Race, Class and Gender II: Global Inequalities

Daiki Hiramori

Credit(s)：2　｜　Semester：春学期授業/Spring　｜　Year：3〜4

Day/Period：木2/Thu.2

その他属性：〈優〉〈Ｓ〉〈ダ〉〈未〉

【Outline and objectives】
This class builds on what students have learned in Race, Class and Gender I to look at how inequalities are inter-connected through examining various global issues. Students will learn to analyze how race, class and gender are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

【Goal】
A major goal is to develop students' sensitivity towards issues of inequality and skills in social analysis and critical thinking. By exploring social issues in an international and global context, students will learn to see how any global issue is multidimensional, and specifically, how inequalities are complex and constituted by the interconnection of race, class, gender, and other bases of inequality.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theoretical Understanding of Race, Class and Gender	Reviewing what was covered in Race, Class and Gender I
3	Population and Globalization	What is demography? How do demographers study population processes?
4	Population Dynamics and Global Change	Why do population trends matter in a globalized society?
5	Domestic Helpers	How do race, class, gender and migration intersect?
6	Queer Migration	Do LGB immigrants really come to the United States from repressive countries?
7	Transnational Adoption	What does kinship look like in the context of transnational adoption?
8	Global Economy of Desire	How do race, sex, and romance intersect in the global economy of desire?
9	Diversity Policy in Global Companies	How is diversity policy in global companies localized?
10	Critically Quantitative	How to quantitatively measure community cultural wealth?
11	War and Violence	What is the "comfort women" issue?
12	Human Trafficking and Sex Work	What is sex work? What are some issues faced by migrant sex workers?
13	Prepare for Final Paper	Preparation and feedback for the final paper
14	Review &Final Paper Preparation	What have we learned in this course? Preparing and submitting the final paper

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】
Further reference may be provided based on students' areas of interest.

【Grading criteria】
Participation: 20%
Discussion facilitation: 20%
Weekly reading responses: 30%
Final paper: 30%

【Changes following student comments】
Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】
None. Students are encouraged to use computers/tablets for class-related purposes in class.

【Prerequisite】
To take this class, students are expected to have passed "Race, Class and Gender I."

SOC200ZA（社会学 / Sociology 200）

（GO用）Race, Class and Gender I: Concepts & Issues

Daiki Hiramori

Credit(s)：2　｜　Semester：秋学期授業/Fall　｜　Year：2〜4
Day/Period：月3/Mon.3
Notes：Not Available for ESOP Students. / TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module)band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【Outline and objectives】
This class sees our society through the lens of race, class and gender to understand how privilege and inequality are produced, maintained, naturalized and challenged. The course will look at how various inequalities are connected to one another through examining global, national and local issues. Students will learn to analyze how race, class, gender, and sexuality are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

【Goal】
Through lectures, discussion and written assignments, students will learn concepts and theories to analyze how race, class, gender and sexuality affect individuals and society. They will learn to apply these analytical tools and knowledge to form critical opinions on current issues related to various bases of inequalities. Students will acquire skills in critical thinking, analysis and writing that can be applied in other academic fields as well as future careers.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】
This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Foundation: “Inequality”	What do we mean by inequality?
3	Foundation: “Social Class”	How do major social scientists conceptualize social class?
4	Social Class in Japan	What does social stratification in Japan look like?
5	Foundation: “Race and Ethnicity”	What are the main theoretical approaches to race and ethnicity?
6	Critical Race Theory	What are the key premises of Critical Race Theory?
7	Defining Japaneseness	What does the mixed-race experience in Japan look like?
8	Foundation: “Gender”	What are the main theoretical approaches to gender?
9	Gender Inequality in Japan	What does gender inequality in Japan look like?
10	Foundation: “Sexuality”	What are the main theoretical approaches to sexuality?
11	Sexuality Inequality in the Labor Market	What does labor market discrimination based on sexual orientation look like?
12	Foundation: “Intersectionality”	What is intersectionality?
13	Prepare for Final Paper	Preparation and feedback for the final paper
14	Review &Final Paper Preparation	What have we learned in this course? Preparing and submitting the final paper

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】
Further references may be provided based on students’ areas of interest.

【Grading criteria】
Participation: 10%
Discussion facilitation: 20%
Weekly reading responses: 40%
Final paper: 30%

【Changes following student comments】
Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】
None. Students are encouraged to use computers/tablets for class-related purposes in class.

【Others】
Students are strongly encouraged to take Race, Class and Gender II after completing Race, Class, Gender I. Students who have passed Race, Class and Gender I will be given admission priority to the seminar "Intersectionality: Multiple Inequalities."

【Prerequisite】
Students who intend to enroll in this course are expected to have passed "Introduction to Sociology."

SOC300ZA（社会学 / Sociology 300）

（GO 用）Race, Class and Gender II: Global Inequalities

Daiki Hiramori

Credit(s)：2　|　Semester：春学期授業/Spring　|　Year：3〜4
Day/Period：木2/Thu.2
Notes：Not Available for ESOP Students. / TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module)band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【Outline and objectives】
This class builds on what students have learned in Race, Class and Gender I to look at how inequalities are inter-connected through examining various global issues. Students will learn to analyze how race, class, gender, and sexuality are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

【Goal】
A major goal is to develop students' sensitivity towards issues of inequality and skills in social analysis and critical thinking. By exploring social issues in an international and global context, students will learn to see how any global issue is multidimensional, and specifically, how inequalities are complex and constituted by the interconnection of race, class, gender, sexuality, and other bases of inequality.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theoretical Understanding of Race, Class, and Gender	Reviewing what was covered in Race, Class and Gender I
3	Female Disadvantage in Infant/Child Mortality	Why does gender imbalance in infant mortality occur?
4	Race and Queer Family Formation	How does race and sexuality intersect in the context of surrogacy?
5	Domestic Helpers	How do gender and migration intersect?
6	Queer Migration	Do LGB immigrants really come to the US from repressive countries?
7	Transnational Adoption	Film viewing: "First Person Plural"
8	Diversity Policy in Global Companies	How is diversity policy in global companies localized?
9	Global Economy of Desire	How do race, sex, and romance intersect in the global economy of desire?
10	War and Violence	What is the "comfort women" issue?
11	Human Trafficking and Sex Work	What is sex work? What are some issues faced by migrant sex workers?
12	Drawing Borders	Who are the "undocuqueer"?
13	Prepare for Final Paper	Preparation and feedback for the final paper
14	Review &Final Paper Preparation	What have we learned in this course? Preparing and submitting the final paper

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】
Further reference may be provided based on students' areas of interest.

【Grading criteria】
Participation: 10%
Discussion facilitation: 20%
Weekly reading responses: 40%
Final paper: 30%

【Changes following student comments】
Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】
None. Students are encouraged to use computers/tablets for class-related purposes in class.

【Prerequisite】
To take this class, students are expected to have passed "Race, Class and Gender I."

POL200ZA（政治学 / Politics 200）

（GO用）International Security

Takeshi Yuzawa

Credit(s)：2　｜　Semester：秋学期授業/Fall　｜　Year：2〜4
Day/Period：火3/Tue.3
Notes：Not Available for ESOP Students. / TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module)band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈未〉

【Outline and objectives】
This course covers the approaches to security studies, a sub-discipline of International Relations (IR). Security studies mainly examines the causes of war; the conditions for peace; strategies for avoiding conflict, managing and resolving disputes; and the impact of new technologies, weapons, actors and ideas on states' calculations on whether to use force.

【Goal】
The course objectives are: (1) to enable students to develop a broader understanding of the key theories and concepts in security studies; (2) to examine major security challenges in the international arena through the lens of theories and concepts; (3) to acquire the ability to form their own answers to enduring and contemporary questions inherent in international security studies.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
This course has two segments: First, presenting major theories and concepts in security studies, necessary for understanding contemporary security policies and issues.
Second, examining contemporary security challenges related to armed conflicts, arms trade and military competition, nuclear proliferation, genocide and mass killings, and terrorism.
Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Military Security	Exploring the concepts of military security
3	Regime Security	Exploring the concepts of regime security
4	Societal Security	Exploring the concepts of societal security
5	Human Security	Exploring the concepts of human security
6	Environmental Security	Exploring the concepts of enviromental security
7	Review and Mid-term essay preparation	Review of week 2-7
8	The Evolution of Modern Warfare	Examining changes in warfare
9	The Arms Trade	Examining the key aspects of the contemporary arms trade
10	Nuclear Proliferation	Examining the important aspects of nuclear proliferation
11	Humanitarian Intervention	Providing an overview of the heated debate in terms of the validity of humanitarian intervention
12	Terrorism	Analyzing the threat that terrorism poses to countries and the world
13	Review and Preparation for the final exam	Review of major topics covered by week 9-13
14	Review and Final Exam	Review and Written test

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are required to have read the relevant chapters for the books listed in the reference section before attending the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
Collins, Allan (ed). *Contemporary Security Studies*, Sixth edition. Oxford University Press, 2022.

【References】
Williams, Paul D and McDonald, Matt (ed). *Security Studies: An Introduction*. Fourth edition. Routledge, 2023.
Baylis, John, Wirtz, James J and Gray, Colin S. *Strategy in the Contemporary World*. Seventh Edition. Oxford University Press, 2022.

【Grading criteria】
Contribution to discussion (10%), mid-term essay (45%), final examination (45%)

【Changes following student comments】
Handouts to be provided in a timely manner.

【Equipment student needs to prepare】
Some course materials will be delivered via the Hoppii.

【Others】
Non-GIS students wishing to take part in this course should have adequate English skills to complete the course work and assignments.

【Prerequisite】
none.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、①大学での過ごし方、②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。
授業の中では、より長期的な人生を歩むうえで必要となる考え方や、社会や働くということについて基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】
自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけでもありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。
そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan,Do,See）サイクルを回していける基本的な力を身につけてほしいと思います。
最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-Ⅴ」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】
環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と本授業を受講する意義について説明する。また学生生活を送るにあたって必要な支援を受けられる学内の機関について紹介する。
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学での基本的な学びの姿勢とは、大学の活用価値と活用方法について考える。
3	学生生活と就職の準備	本学の学生は、卒業後の進路として9割が就職をする。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつ頃から始まり、どのような準備が必要かを卒業生のデータを踏まえながらキャリアセンター職員が解説する。
4	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので積極的な参加を期待したい。本授業では窓口であるキャリアセンター職員が過去の先輩の事例や参加する際の注意点などを解説する。
5	働くことの意味	働くとはどういうことなのか?これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。
6	激変する社会環境と課題	現代は社会環境が激変している時代である。社会が直面している課題を SDGsの観点からとらえ、これらの諸課題に対して皆さんがどのような貢献ができるのかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。
7	論点思考	課題解決のための思考法として重要な「論点思考」について学ぶ。自ら問題を発見するために必要な考え方と、論点思考の高め方を学ぶ。
8	仮説思考	課題解決のための思考法として重要な「仮説思考」について学ぶ。仮説検証を繰り返し、解決策を見出し行動していく手法を学ぶ。
9	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。労働の領域 におけるダイバーシティー(多様性)に関する基本 的考え方に加え、多様な雇用形態、パラレルキャリア、短時間労働化、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。
10	イノベーションとは何か	日本社会や組織において求められるイノベーションとは何か。イノベーションが求められる背景を学び、イノベーションを生み出すためにはどうすれば良いか、考える。
11	リーダーシップを発揮する	組織やチームで働く上で重要となるリーダーシップとは何かを学ぶ。リーダーシップの類型や、いかにリーダーシップを開発するのかを学ぶ。
12	自己理解	仕事に熱中し、高いパフォーマンスを発揮するための個人の特性や強みを理解する方法を学ぶ。強みを活かして活躍するにはどうすれば良いか、考える。
13	チームワーク	チームで活動する上で重要となるチームワークとは何かを学ぶ。チームワークを向上させるポイントや考え方を学ぶ。
14	学生時代の過ごし方	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業 までの3年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを考え、自分自身の主体的な行動計画を企画していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】
特に定めません。

【参考書】
授業内において、必要に応じて副読本、参考文献等を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100％）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】
本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業（第1回授業を除く）においては小レポート（300字程度）の作成を求めます。この小レポートは「宿題」ではなく、「授業時間内提出課題」として当該授業終了時までに作成し（レポート作成の時間は取ります）、学習支援システム上で提出してください。そのため、小レポートの作成が可能なノートPCやタブレット等の機器を必ず持参してください。レポート作成のための使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】
【質問の受付】授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。
【受講制限】本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。
【講師プロフィール】
企業の人材育成支援を行うコンサルティング会社を経て、災害復興・地方創生を支援する一般社団法人RCFに転職。行政、民間企業、NPO等と協働し、社会課題解決事業をコーディネートしている。同時に、静岡県熱海市でまちづくり会社「machimori」に参画。企業研修事業や大学生のインターンシップ事業など、「地域をフィールドにした学び」を提供する事業を立ち上げ、事業責任者。
民間企業とNPOと大学講師、本業と副業、都会と地方のパラレルキャリアを実践している立場から、みなさんとこれからの時代のキャリアを考えていければと思います。
【授業形態】
講師の都合により、対面の予定から、オンラインに変更になることがあります。変更の場合は、授業及び学習支援システムで通知します。
【配当年次】
入学年度によって配当年次が異なります。
2024年度以前入学者：法文営国環キＧ1年、経社1～2年、現ス1～4年
2025年度以降入学者：法文営国環キＧ経社現ス1～3年
【履修条件】
入学年度によって授業コードが異なります。
多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。
2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録
2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This class provides students with the basic knowledge they need to make the most of their college years and live a long life. The purpose of this class is to help you develop the ability to think and act on your own.
【Learning Objectives】
You are required to have the ability to identify issues on your own, think of solutions to those issues, and continue to implement those ideas. During your four years at university, I would like you to acquire the ability to continue to act while thinking, or in other words, the basic ability to run the PDS (Plan, Do, See) cycle.
【Learning activities outside of classroom】
The standard time required for preparing for this class, reviewing, writing assignment reports, etc. is 4 hours or more in addition to class time. Useful materials, data, reference books, etc. will be shown during class to help you understand the lesson more deeply.
【Grading Criteria/Policy】
Your evaluation will be based on the total score of the assignment report given at each class (100%). Only assignment reports submitted within the indicated deadline will be considered for evaluation. Assignment reports will be evaluated based on three elements: originality of written content, logical structure, and accuracy of expression. To receive credit, you must have a score of 60%or more of the full score of all assignment reports presented (total score of submitted assignment reports).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。
授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】
自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。
そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の４年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS（Plan,Do, See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。
最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-Ⅴ」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】
参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。
初回の授業（第１回）は、オンデマンド授業（コンテンツ動画配信）で行います（登録者に学習支援システムを通じて案内します）。
対面型の授業以外に、学習支援システムやメールを積極的に活用しますので、受講期間は必ずチェックを行うようにしてください。
■課題等の提出
・学習支援システムを利用して行います。
・授業後のリアクションペーパーの提出、最終レポート、その他講師が授業で指定した課題等の提出となります。
■フィードバック方法
・提出された課題については、学習支援システムを通じてフィードバックを行います。
・講師とのメールも活用してフィードバックを行います。
・提出された課題を、授業内で取り上げる場合があります。
■特別課題について
・授業計画以外に、本講義の目的に沿ってオンデマンド教材にて特別授業を行う場合があります。
■受講ルール
本授業の大きなテーマは「自立（自律）」です。そのため、授業内では「社会のルール」を体験していただきます。授業内で詳しく説明しますので、特に第１回のオリエンテーションは必ず視聴してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	【オンデマンド授業（オンラインによる動画視聴）】多くの企業経験のある現役人事で、複業（パラレルワーカー）として働いている講師のキャリアを紹介します。授業の内容、進め方、受講のルールなど、この授業を通して何が得られるかを説明します。
2	大学での学び	じつは多くの大人は「大学でもっと多くのことを学んでおけば良かった」と考えています。大学は、キャリアの始まり。学び方も生活も大きく変わります。大学という場所では何を学び、どんな姿勢で過ごしていくべきなのかを考えます。
3	社会に出るというトランジション（変わり目）	大学を卒業すると、多くの皆さんが社会に出ていきます。このステップは、人生でも最大級のトランジション（変わり目）になります。そこで何が変わるのかを学び、大学生活で何をするべきかを考えます。
4	働くことの意味	「働く」意味の一つは「労働に対する対価（＝給料）を得る」というものですが、果たしてそれだけでいいのでしょうか。働くことは本当に辛いことなのでしょうか。将来の皆さんの「働く意味」を考え、働くことを通じて自己実現し、どのように幸せになっていくのかを考えます。
5	社会環境の変化とキャリア形成	これからの世の中は大きく変化していきます。日本は世界でも未曽有の少子化による労働人口減少に直面します。技術革新も進み、時代も大きく変化していく未来でどのように生きていくべきなのか。皆さんを取り巻く社会環境の変化からキャリア形成を考えます。
6	働き方と多様性	ダイバーシティ（多様性）が世の中ではどんどん進んでいます。働く人も環境も多様になり、働き方が大きく変わります。現役人事パラレルワーカー（複業者）の講師が働き方の語るリアルを通して、皆さんのこれからのキャリアを考えます。
7	人事が考えていること～人事のホンネ～	現役人事がホンネを語る。企業は何を考え採用を行っているのか。就活学生をどのように見ているのかを赤裸々にお話しします。皆さんと逆の立場の人事を理解することで、自分のこれからのキャリア形成を考えます。
8	組織のリアル～職場の人間関係・コミュニケーションを考える～	社会に出ると、多くの人は組織に属し、周囲の人とのコミュニケーションが必ず必要となります。好きでない人と付き合わねばならないことも多くあります。組織ではどのようにコミュニケーションをとっていくべきなのか。上司や同僚とどう付き合うべきか、コミュニケーションのポイントを考えます。
9	キャリアモデルケーススタディ～大人がキャリアを語る～	【オンデマンド授業】現役で働いている大人数名に、自身のキャリアと、キャリアを培ってきた想いなどをお話しいただきます。そして、そのキャリアモデルをもとに、自分自身のこれからのキャリアを考えます。
10	社会で「評価される」とはどういうことか	お給料はどうすれば上がるのか？ 社会に出ると学生時代とは評価の方法が劇的に変わります。社会人の評価の仕組みを理解し、どのようにキャリアを作っていくべきなのかを考えます。

11	インターンシップ～キャリアセンターがホンネで語る～	インターンシップとひとことで言っても多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なります。インターンシップは大学に在学しながら社会人の体験ができる貴重な機会。本授業では大学キャリアセンター職員が過去の先輩の事例や参加の注意点などを解説します。
12	【リアル座談会】企業人事によるホンネトーク	現役の企業人事数名をお呼びして、「企業人事のホンネ」をリアルに語ってもらう座談会を行います。ここだけの話をたくさんしていただきます。
13	学生生活と就職の準備～キャリアセンターがホンネで語る～	就職はキャリアのゴールではないですが、大学生活に重なる就職活動とはどのようなものか、そのために準備しておくことを大学キャリアセンター職員が解説します。
14	学生生活の過ごし方	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの３年半をどう過ごすかを考える。授業の総括や振り返りを通しながら、卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを考え、自分自身の主体的な行動計画を企画していきます。 (授業内容は変わることがあります)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
毎回授業後に「リアクションペーパー」の提出課題があります。
また、本授業の受講者は必ず「本授業専用のキャリアマイノート」を準備し、毎回の授業の内容および感じたことを記載してもらいます。
14回の授業のほか、オンデマンド教材による特別授業もあります（キャリアデザイン入門の他の講師とのコラボレーション特別授業など)。
なお、上記のほか、授業内で案内した書籍や、自主的なレポートは積極的に受け付けます(自主的な取り組みは加点評価を行います。積極的に取り組んでみてください)

【テキスト（教科書)】
特に定めません。
授業で使用した資料等は、授業後に配布します。

【参考書】
授業内で、参考になる書籍を適宜案内します。積極的に読んでください。

【成績評価の方法と基準】
毎回授業後に提出してもらうリアクションペーパーが70%。期末レポートが30%の割合で評価します。また、平常点も加味します。皆さんの理解度を深めるため授業の8割の出席をしてください。
本授業は、授業の内容を通して「自らのキャリアと向き合う」ことを求めます。単に授業を聞くだけでなく、以下の点を授業後のリアクションペーパー、最終課題等では常に求めます。
①考察をする
「考察」とは「物事を明らかにするために調べて考えること」です。授業で伝えた内容をもとに、さらに自分自身で「考察」してもらいます。
②自分自身に向き合う
本授業は「自らのキャリアを考える」ことを主眼に置いています。授業内容をもとに必ず自分自身に照らして自身のキャリアと向き合ってください。
③自身の行動に落とし込む
本授業で伝えた知見は、自身の行動が変わることを期待しています。小さなことからでも具体的な行動目標を立てて実行してみてください。
また、提出を求める課題以外でも、授業で案内した書籍を読んで自分自身を振り返ったり、授業内容をもとに「行動した」レポートなどは、随時任意で提出することができます。その場合、提出内容を精査した上で、加点評価として加味します。積極的に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1) 様々な企業人事の話を聞けるように、「企業人事による人事座談会」を講義に入れています。直接企業の人事としての接点の機会を増やしています。
2) 授業内で、これまで以上に学生間で交流が持てるようにディスカッション機会を増やしています。
3) 学生アンケートで履修しやすい曜日・時間の希望が多いため、授業曜日・時間の変更を行いました。

【学生が準備すべき機器他】
本授業専用「キャリアマイノート」を必ず事前準備して、毎回の授業に臨んでください。授業内で学んだこと、そして感じたことを積極的にキャリアマイノートに記載してください。そのための筆記用具は必ず持参してください。
授業内では、学習支援システムや相互チャットツールも活用します。パソコンも持参してください。
また、第１回目の講義のほか、数回オンラインを活用した講義を行います。また、毎回の講義の情報や課題提出、コミュニケーションのために学習支援システムやメール等を積極的に活用します。そのため、パソコンおよびインターネット接続が必須になります。受講者の皆さんは準備し、随時チェックを行ってください。

【その他の重要事項】
【その他の重要事項 /Others】
本講義は「自分自身のキャリアを真剣に考えたい人」の受講を勧めます。
自分自身と向き合うためには、時間と熟慮が必要です。これはかなり厄介で面倒なプロセスです。本講義では、徹底的に自分自身と向き合ってもらうため、積極的な受講意識を持っている方にお勧めします（自分に向き合うことは決して楽ではありません)。
本気で自身のキャリアを考えたい人には、将来社会人になってからも活用できる知識とノウハウが身に着くはずです。
■講師プロフィール
新卒でJCB入社、その後NTT、トヨタグループ企業で新規事業企画、営業などを歴任。その後40歳にして人事に転身。トヨタファイナンス、創業100年企業、IT企業のHDE（現HENNGE）で人事部長を歴任。これまで2,000人を超える新卒学生と面接を行ってきている。
2018年から現職。「マイクロ人事部長」として、パラレルワーク（複業）を行って複数社の企業の組織改革や人事に携わっている。
現職の人事としてリアリティのあるキャリアデザイン講義となります。
https://www.dodadsj.com/content/180403_takahashi/
https://bizhint.jp/report/398484
【受講制限】本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講)。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。
【配当年次】
入学年度によって配当年次が異なります。
2024年度以前入学者：法文営国環キＧ1年、経社1～2年、現ス1～4年
2025年度以降入学者：法文営国環キＧ経社現ス1～3年
【履修条件】
入学年度によって授業コードが異なります。
多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。
2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録
2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録

【Outline (in English)】
【Course Outline】

We will discuss your university life and working in society together. We aim to support you in making the most of your university life.
The purpose of this class is to provide you with fundamental knowledge and perspectives that are essential for building a meaningful career and life in society.
【Learning Objectives】
This class aims to help you develop the mindset and ability to think and act independently.
【Learning Activities Outside of the Classroom】
Students are expected to read the relevant chapters from the textbook before and after each class meeting. Additionally, students are required to keep a career journal as part of this class. You are expected to spend approximately two hours preparing for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Your final grade will be based on the following criteria:
· Short reports after each class meeting (70%)
· Final reports (30%)

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、①大学での過ごし方、②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。
授業の中では、より長期的な人生を歩むうえで必要となる考え方や、社会や働くということについて基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】
自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけでもありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。
そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan,Do,See）サイクルを回していける基本的な力を身につけてほしいと思います。
最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-Ⅴ」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】
環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、カリキュラム等の授業概要と本科目の受講意義と教員の基本的視点について説明する。
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学での基本的な学びの姿勢とは、大学の活用価値と活用方法について考える。
3	学生時代の過ごし方	これから卒業までの時間をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを議論する。
4	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観、さまざまな記録にも触れながら、これからの時代の労働と仕事について考える。
5	働き方と多様性	自分自身を生かしていくための働き方やさまざまな働き方について、とくに最近の働き方環境の動向も踏まえて考えていく。
6	学生生活と就職の準備	就職は学生生活のゴールではないが、将来の生活を左右する重要な要素である。この就職の準備を進め方や最近の情勢について説明する。（キャリアセンター担当）
7	インターンシップ	大学在学中に社会的経験、能力開発、企業等の現場の確認などができるインターンシップの効果と参加方法について説明する。（キャリアセンター担当）
8	行動力と目標達成力	日常生活や業務の遂行にあたって、社会人としての活動に必須な能力としての行動力、実行力、目標達成力の特性と醸成方法について学ぶ。
9	思考のメカニズムと認知バイアス	できごとの本質を正しく理解し、また合理的に判断していく思考のメカニズムと、正しい判断を得ることを妨げている認知バイアスについて学ぶ。
10	組織で活動する	私たちは組織で活動することが多いが、その活動を効率的に行うためのチームワーク、リーダーシップ、フォロワーシップについて学ぶ。
11	コミュニケーション	私たちの日常生活や業務の遂行上欠かせないコミュニケーションの在り方や基本的なスキルについて学んでいく。
12	日常生活とメンタルヘルス	社会生活や日常の生活を通じて生じるストレスの心身への悪影響を減らし、ストレスをも自分自身の生きる力に変換していく考え方について学ぶ。
13	友だち関係の構築と家族の形成	私たちの人生の質や充足感、幸福感の程度に大きくかかわってくる、友だち、恋愛、結婚、子育て、家族等を取り巻く状況やあり方について議論する。
14	幸福の追求	私たちは誰を幸せにするために生きていくのだろうか？ この答えを各人がしっかり持つことがぶれない自分、確固たる自分の価値尺度を持つことにつながる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために教科書に示された情報のほかにも有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用します。
大八木智一著「キャリアデザインの基礎～入門編～」ムイスリ出版、2025.3出版
毎回の小レポートおよび期末レポートの課題は教科書の内容から指示されます。期末レポートにおいても教室への教科書の持ち込み可です。詳細は、学習支援システムに掲示します。教科書販売は生協で行います。

【参考書】
授業内において、必要に応じて参考図書、参考文献、参考情報等を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合評価点（60％）と期末レポートの評価点（40％）の合計で評価します。レポートの記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】
本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」とされる考えより、みなさんが自分の頭で「考え抜いた」内容をレポートの記述内容に期待しています。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業においては小レポート（300字程度）の作成を求めます。この小レポートは「宿題」ではなく、「授業時間内提出課題」として当該授業終了時までに作成し（レポート作成の時間は取ります）、学習支援システム上で提出してください。そのため、小レポートの作成が可能なノートPCやタブレット等の機器を必ず持参してください。レポート作成のための使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。期末レポートも同様に教室でレポートの作成、提出を学習支援システム上で行います。

【その他の重要事項】
【質問の受付】授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。
【受講制限】本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業となる可能性があります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できませんので、早めに履修登録されることをお勧めします。
【配当年次】
入学年度によって配当年次が異なります。
2024年度以前入学者：法文営国環キＧ1年、経社1～2年、現ス1～4年
2025年度以降入学者：法文営国環キＧ経社現ス1～3年
【履修条件】
入学年度によって授業コードが異なります。
多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。
2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録
2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This class provides students with the basic knowledge they need to make the most of their college years and live a long life. The purpose of this class is to help you develop the ability to think and act on your own.
【Learning Objectives】
You are required to have the ability to identify issues on your own, think of solutions to those issues, and continue to implement those ideas. During your four years at university, I would like you to acquire the ability to continue to act while thinking, or in other words, the basic ability to run the PDS (Plan, Do, See) cycle.
【Learning activities outside of classroom】
The standard time required for preparing for this class, reviewing, writing assignment reports, etc. is 4 hours or more in addition to class time. Useful materials, data, reference books, etc. will be shown during class to help you understand the lesson more deeply.
【Grading Criteria/Policy】
Your evaluation will be based on the total score of the assignment report given at each class (100%). Only assignment reports submitted within the indicated deadline will be considered for evaluation. Assignment reports will be evaluated based on three elements: originality of written content, logical structure, and accuracy of expression. To receive credit, you must have a score of 60%or more of the full score of all assignment reports presented (total score of submitted assignment reports).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、①大学での過ごし方、②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。
授業の中では、より長期的な人生を歩むうえで必要となる考え方や、社会や働くということについて基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】
自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけでもありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。
そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan,Do,See）サイクルを回していける基本的な力を身につけてほしいと思います。
最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-Ⅴ」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】
環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、カリキュラム等の授業概要と本科目の受講意義と教員の基本的視点について説明する。
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学での基本的な学びの姿勢とは、大学の活用価値と活用方法について考える。
3	学生時代の過ごし方	これから卒業までの時間をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを議論する。
4	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観、さまざまな記録にも触れながら、これからの時代の労働と仕事について考える。
5	働き方と多様性	自分自身を生かしていくための働き方やさまざまな働き方について、とくに最近の働き方環境の動向も踏まえて考えていく。
6	学生生活と就職の準備	就職は学生生活のゴールではないが、将来の生活を左右する重要な要素である。この就職の準備を進め方や最近の情勢について説明する。（キャリアセンター担当）
7	インターンシップ	大学在学中に社会的経験、能力開発、企業等の現場の確認などができるインターンシップの効果と参加方法について説明する。（キャリアセンター担当）
8	行動力と目標達成力	日常生活や業務の遂行にあたって、社会人としての活動に必須な能力としての行動力、実行力、目標達成力の特性と醸成方法について学ぶ。
9	思考のメカニズムと認知バイアス	できごとの本質を正しく理解し、また合理的に判断していく思考のメカニズムと、正しい判断を得ることを妨げている認知バイアスについて学ぶ。
10	組織で活動する	私たちは組織で活動することが多いが、その活動を効率的に行うためのチームワーク、リーダーシップ、フォロワーシップについて学ぶ。
11	コミュニケーション	私たちの日常生活や業務の遂行上欠かせないコミュニケーションの在り方や基本的なスキルについて学んでいく。
12	日常生活とメンタルヘルス	社会生活や日常の生活を通じて生じるストレスの心身への悪影響を減らし、ストレスをも自分自身の生きる力に変換していく考え方について学ぶ。
13	友だち関係の構築と家族の形成	私たちの人生の質や充足感、幸福感の程度に大きくかかわってくる、友だち、恋愛、結婚、子育て、家族等を取り巻く状況やあり方について議論する。
14	幸福の追求	私たちは誰を幸せにするために生きていくのだろうか？ この答えを各人がしっかり持つことがぶれない自分、確固たる自分の価値尺度を持つことにつながる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために教科書に示された情報のほかにも有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用します。
大八木智一著「キャリアデザインの基礎～入門編～」ムイスリ出版、2025.3出版
毎回の小レポートおよび期末レポートの課題は教科書の内容から指示されます。期末レポートにおいても教室への教科書の持ち込み可です。詳細は、学習支援システムに掲示します。教科書販売は生協で行います。

【参考書】
授業内において、必要に応じて参考図書、参考文献、参考情報等を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合評価点（60％）と期末レポートの評価点（40％）の合計で評価します。レポートの記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】
本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」とされる考えより、みなさんが自分の頭で「考え抜いた」内容をレポートの記述内容に期待しています。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業においては小レポート（300字程度）の作成を求めます。この小レポートは「宿題」ではなく、「授業時間内提出課題」として当該授業終了時までに作成し（レポート作成の時間は取ります）、学習支援システム上で提出してください。そのため、小レポートの作成が可能なノートPCやタブレット等の機器を必ず持参してください。レポート作成のための使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。期末レポートも同様に教室でレポートの作成、提出を学習支援システム上で行います。

【その他の重要事項】
【質問の受付】授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。
【受講制限】本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業となる可能性があります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できませんので、早めに履修登録されることをお勧めします。
【配当年次】
入学年度によって配当年次が異なります。
2024年度以前入学者：法文営国環キＧ1年、経社1～2年、現ス1～4年
2025年度以降入学者：法文営国環キＧ経社現ス1～3年
【履修条件】
入学年度によって授業コードが異なります。
多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。
2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録
2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This class provides students with the basic knowledge they need to make the most of their college years and live a long life. The purpose of this class is to help you develop the ability to think and act on your own.
【Learning Objectives】
You are required to have the ability to identify issues on your own, think of solutions to those issues, and continue to implement those ideas. During your four years at university, I would like you to acquire the ability to continue to act while thinking, or in other words, the basic ability to run the PDS (Plan, Do, See) cycle.
【Learning activities outside of classroom】
The standard time required for preparing for this class, reviewing, writing assignment reports, etc. is 4 hours or more in addition to class time. Useful materials, data, reference books, etc. will be shown during class to help you understand the lesson more deeply.
【Grading Criteria/Policy】
Your evaluation will be based on the total score of the assignment report given at each class (100%). Only assignment reports submitted within the indicated deadline will be considered for evaluation. Assignment reports will be evaluated based on three elements: originality of written content, logical structure, and accuracy of expression. To receive credit, you must have a score of 60%or more of the full score of all assignment reports presented (total score of submitted assignment reports).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。
授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】
自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。
そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の４年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS（Plan,Do,See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。
最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-Ⅴ」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】
環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション【オンデマンド型】	本科目の授業主旨、授業計画、進め方、成績評価方法、求められる参加態度等について概要を説明します。併せて、授業受講に必要なシステムの活用法、必要な支援を受けられる学内の機関について情報の提供を行います。
第２回	キャリア・キャリアデザインに関する諸理論	キャリアとは？ キャリアデザインとは？ 語源や定義、さまざまな捉え方を解説します。さらにキャリアデザインを学ぶ意義についても考えていきます。
第３回	大学での学び	大学とはどういう場なのか、大学の付加価値について考えていきます。何のために法政大学で学ぶのか、なぜ進学をしたのかなど、自身の決断を分析・再考していきます。
第４回	学生生活と就職の準備	本学の学生は、卒業後の進路として９割が就職をします。多くの学生が直面する就職活動がいつ頃から始まり、どのような準備が必要かをキャリアセンター職員が解説します。
第５回	働き方と多様性	変化の激しい社会において自分らしく働くには、多様な選択があります。労働の領域における多様性（ダイバーシティ）、多様な雇用形態（パラレルキャリア）などについて学びます。
第６回	自己理解と自分を伝える技術	アセスメントを活用し自分の特徴についての理解（自己理解）を深めていきます。自分の意見や感情を伝える「アサーション」を学び、今後実践できるようになること。落ち込んでもしなやかに立ち直る力を理解し養っていきます。
第７回	社会人に求められること	「社会人に求められていること」とは？。将来にむけて、学生時代にどんな経験を積んだらよいのかなど、社会人の先輩と一緒に考えていきます。
第８回	パーパスが企業と組織に与える影響とは	目的・意図を表す「パーパス」。ビジネスシーンでは「何のために組織や企業が存在するのか」「社員は何のために働いているのか」という「存在意義」を表す概念として使われています。こうしたパーパスを重視する経営が国内外で注目を集めています。パーパスが求められる背景・導入プロセス。パーパスが企業ブランドや組織に与える影響について解説をします。
第９回	働くことの意味	働く意味・働きがいとは何かを考えていきます。身近な大人は、何のために働いているのかを議論し発表します。またアルバイトは就業経験としてどの程度の意味があるのかを考えてみます。
第10回	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なります。インターンシップは、大学に在学しながら企業体験ができる貴重な機会です。キャリアセンター職員が過去の先輩の事例や参加する際の注意点などを解説します。
第11回	グローバル人材とは	グローバル化社会で活躍する人材になるには、英語をはじめとした外国語の能力は確かに大切です。さらに異文化を理解する能力などが求められます。「グローバル人材」「グローバル化社会」について議論します。
第12回	プロフェッショナルのキャリア	好きや得意を仕事にするのは理想的なキャリア選択のひとつです。プロフェッショナルとして活躍するには、自身で目標を設定し、目標やビジョンを実現するための努力、行動等が必要です。プロフェッショナルとは？を一緒に考えていきます。
第13回	やる気とモチベーション	これまでの自分を振り返り、自身の価値観の形成、やる気に影響を与えた出来事や人との出会いなど、モチベーションの源泉を見つけていきます。モチベーションを高め、維持する有効な考え方や方法も学んでいきます。
第14回	学生生活の過ごし方	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの３年半をどう過ごすかを考えていきます。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に書き出し「明日から取り組むこと」を決めていきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【準備・復習時間】各約2時間を標準とします。
【事前課題】事前課題を実施していただく回があります。事前課題の詳細は、授業内及び学習支援システムにてお知らせします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。
学習支援システムにて資料を共有します。必要に応じてダウンロードやプリントアウトをして、学習に役立ててください。

【参考書】
授業の中で適宜指示をします。

【成績評価の方法と基準】
【授業終了後に提出するリアクションペーパー／40%】
・各授業回のテーマについての理解度、新たな気づき、考えたこと、記載内容について評価します。
・原則として、提出期限内での提出を評価対象とします。
【授業への貢献／20%】
・授業内での発言・発表・質問・事前課題・積極的なグループワーク等での取り組み姿勢を評価します。
・平常点も加味します。
【期末レポート／40%】
・期末レポートの評価は、論理構成、表現、記述内容のオリジナリティ、文字数、期限内での提出を重点に実施します。

【学生の意見等からの気づき】
◆授業では、学生同士のグループディスカッション・学生と担当教員との対話・社会で活躍するゲストスピーカーの講演と質疑応答など、双方向のコミュニケーションを活発に行ってきました。
◆学生の意見を踏まえて、今年度も、学生と教員・学生同士・学生と先輩社会人との相互コミュニケーションを活発におこなう機会を引き続き重視します。
◆同じ授業を履修した他の学生との繋がり、学びの共有が出来るよう工夫を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】
・授業用の通信端末機器／スマートフォン以外のタブレット端末またはパソコンを準備してください。
・課題・リアクションペーパーの提出は「学習支援システム」を活用します。
＊課題作成・提出をスムーズに実施するために、パソコンの使用を推奨します。
・筆記用具（通信端末以外に、手書き用の筆記用具を準備してください。）
・本授業用の専用ノート（デジタルも可／PC上で、個別フォルダーを作成）
※他に必要なものがあれば、授業の中で適宜指示をします。

【その他の重要事項】
【授業について】
●第1回目授業「オリエンテーション」は【オンデマンド型／動画配信】で行います。
●各テーマの授業実施日が変更になる可能性があります。変更がある場合、逐次「学習支援システム」よりお知らせします。授業内でのアナウンスもします。
●授業は、対面と一部オンラインで実施します。実施形態はシラバスに記載しています。変更がある場合、逐次「学習支援システム」よりお知らせします。
【担当教員について】
●担当教員は、コンサルティングファーム、IT・メーカー企業にて約 20 年以上にわたる人事部門での実務経験があります。現在はメーカーに勤務しています。
●企業や大学等で、社員や学生のキャリアカウンセリングを実施し、様々な個別相談にものってきました。相談件数は数千件に及びます。
●授業では、これまでの私自身の経験・人脈、企業・組織の実態などを共有し、社会に出ていく準備期間にあたる大学時代でのキャリアデザインの重要性を伝えていきます。
【その他】
●【受講制限】本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。
●【配当年次】
入学年度によって配当年次が異なります。
2024年度以前入学者：法文営国環キＧ1年、経社1～2年、現ス1～4年
2025年度以降入学者：法文営国環キＧ経社現ス1～3年
●【履修条件】
入学年度によって授業コードが異なります。
多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。
2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録
2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録

【Outline (in English)】
■Course outline■
This course introduces the concepts necessary for a long-term life, and basic knowledge of society and working.
Students are required to think about (1) how to spend at university and (2) working in society. It also enhances the skills needed to spend campus life meaningfully.
■Learning Objectives■
The aim of this course is to cultivate attitudes that you can think and act by yourself.
■Learning activities outside of classroom■
Before/after each class meeting,students will be expected to spend　approx. four hours for each class meeting.
■Grading Criteria /Policy■
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short report: 40%　Final report: 40%and In-class contribution: 20%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。
授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】
自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。
そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の４年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS（Plan,Do,See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。
最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-Ⅴ」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】
環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション【オンデマンド型】	本科目の授業主旨、授業計画、進め方、成績評価方法、求められる参加態度等について概要を説明します。併せて、授業受講に必要なシステムの活用法、必要な支援を受けられる学内の機関について情報の提供を行います。
第２回	キャリア・キャリアデザインに関する諸理論	キャリアとは？ キャリアデザインとは？ 語源や定義、さまざまな捉え方を解説します。さらにキャリアデザインを学ぶ意義についても考えていきます。
第３回	大学での学び	大学とはどういう場なのか、大学の付加価値について考えていきます。何のために法政大学で学ぶのか、なぜ進学をしたのかなど、自身の決断を分析・再考していきます。
第４回	学生生活と就職の準備	本学の学生は、卒業後の進路として９割が就職をします。多くの学生が直面する就職活動がいつ頃から始まり、どのような準備が必要かをキャリアセンター職員が解説します。
第５回	働き方と多様性	変化の激しい社会において自分らしく働くには、多様な選択があります。労働の領域における多様性（ダイバーシティ）、多様な雇用形態（パラレルキャリア）などについて学びます。
第６回	自己理解と自分を伝える技術	アセスメントを活用し自分の特徴についての理解（自己理解）を深めていきます。自分の意見や感情を伝える「アサーション」を学び、今後実践できるようになること。落ち込んでもしなやかに立ち直る力を理解し養っていきます。
第７回	社会人に求められること	「社会人に求められていること」とは？。将来にむけて、学生時代にどんな経験を積んだらよいのかなど、社会人の先輩と一緒に考えていきます。
第８回	パーパスが企業と組織に与える影響とは	目的・意図を表す「パーパス」。ビジネスシーンでは「何のために組織や企業が存在するのか」「社員は何のために働いているのか」という「存在意義」を表す概念として使われています。こうしたパーパスを重視する経営が国内外で注目を集めています。パーパスが求められる背景・導入プロセス。パーパスが企業ブランドや組織に与える影響について解説をします。
第９回	働くことの意味	働く意味・働きがいとは何かを考えていきます。身近な大人は、何のために働いているのかを議論し発表します。またアルバイトは就業経験としてどの程度の意味があるのかを考えてみます。
第10回	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なります。インターンシップは、大学に在学しながら企業体験ができる貴重な機会です。キャリアセンター職員が過去の先輩の事例や参加する際の注意点などを解説します。
第11回	グローバル人材とは	グローバル化社会で活躍する人材になるには、英語をはじめとした外国語の能力は確かに大切です。さらに異文化を理解する能力などが求められます。「グローバル人材」「グローバル化社会」について議論します。
第12回	プロフェッショナルのキャリア	好きや得意を仕事にするのは理想的なキャリア選択のひとつです。プロフェッショナルとして活躍するには、自身で目標を設定し、目標やビジョンを実現するための努力、行動等が必要です。プロフェッショナルとは？を一緒に考えていきます。
第13回	やる気とモチベーション	これまでの自分を振り返り、自身の価値観の形成、やる気に影響を与えた出来事や人との出会いなど、モチベーションの源泉を見つけていきます。モチベーションを高め、維持する有効な考え方や方法も学んでいきます。
第14回	学生生活の過ごし方	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの３年半をどう過ごすかを考えていきます。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に書き出し「明日から取り組むこと」を決めていきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【準備・復習時間】各約2時間を標準とします。
【事前課題】事前課題を実施していただく回があります。事前課題の詳細は、授業内及び学習支援システムにてお知らせします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。
学習支援システムにて資料を共有します。必要に応じてダウンロードやプリントアウトをして、学習に役立ててください。

【参考書】
授業の中で適宜指示をします。

【成績評価の方法と基準】
【授業終了後に提出するリアクションペーパー／40%】
・各授業回のテーマについての理解度、新たな気づき、考えたこと、記載内容について評価します。
・原則として、提出期限内での提出を評価対象とします。
【授業への貢献／20%】
・授業内での発言・発表・質問・事前課題・積極的なグループワーク等での取り組み姿勢を評価します。
・平常点も加味します。
【期末レポート／40%】
・期末レポートの評価は、論理構成、表現、記述内容のオリジナリティ、文字数、期限内での提出を重点に実施します。

【学生の意見等からの気づき】
◆授業では、学生同士のグループディスカッション・学生と担当教員との対話・社会で活躍するゲストスピーカーの講演と質疑応答など、双方向のコミュニケーションを活発に行ってきました。
◆学生の意見を踏まえて、今年度も、学生と教員・学生同士・学生と先輩社会人との相互コミュニケーションを活発におこなう機会を引き続き重視します。
◆同じ授業を履修した他の学生との繋がり、学びの共有が出来るよう工夫を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】
・授業用の通信端末機器／スマートフォン以外のタブレット端末またはパソコンを準備してください。
・課題・リアクションペーパーの提出は「学習支援システム」を活用します。
＊課題作成・提出をスムーズに実施するために、パソコンの使用を推奨します。
・筆記用具（通信端末以外に、手書き用の筆記用具を準備してください。）
・本授業用の専用ノート（デジタルも可／PC上で、個別フォルダーを作成）
※他に必要なものがあれば、授業の中で適宜指示をします。

【その他の重要事項】
【授業について】
●第1回目授業「オリエンテーション」は【オンデマンド型／動画配信】で行います。
●各テーマの授業実施日が変更になる可能性があります。変更がある場合、逐次「学習支援システム」よりお知らせします。授業内でのアナウンスもします。
●授業は、対面と一部オンラインで実施します。実施形態はシラバスに記載しています。変更がある場合、逐次「学習支援システム」よりお知らせします。
【担当教員について】
●担当教員は、コンサルティングファーム、IT・メーカー企業にて約 20 年以上にわたる人事部門での実務経験があります。現在はメーカーに勤務しています。
●企業や大学等で、社員や学生のキャリアカウンセリングを実施し、様々な個別相談にものってきました。相談件数は数千件に及びます。
●授業では、これまでの私自身の経験・人脈、企業・組織の実態などを共有し、社会に出ていく準備期間にあたる大学時代でのキャリアデザインの重要性を伝えていきます。
【その他】
●【受講制限】本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。
●【配当年次】
入学年度によって配当年次が異なります。
2024年度以前入学者：法文営国環キＧ1年、経社1～2年、現ス1～4年
2025年度以降入学者：法文営国環キＧ経社現ス1～3年
●【履修条件】
入学年度によって授業コードが異なります。
多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。
2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録
2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録

【Outline (in English)】
■Course outline■
This course introduces the concepts necessary for a long-term life, and basic knowledge of society and working.
Students are required to think about (1) how to spend at university and (2) working in society. It also enhances the skills needed to spend campus life meaningfully.
■Learning Objectives■
The aim of this course is to cultivate attitudes that you can think and act by yourself.
■Learning activities outside of classroom■
Before/after each class meeting,students will be expected to spend　approx. four hours for each class meeting.
■Grading Criteria /Policy■
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short report: 40%　Final report: 40%and In-class contribution: 20%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、1大学での過ごし方と2社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。
授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】
自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。
そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS(Plan,Do, See)サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-Ⅴ」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】
環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ,教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます。(グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の授業主旨、授業計画、進め方、成績評価方法、参加態度等について概要を説明します。併せて、授業受講に必要なシステムの活用法、学生相談室やキャリアセンター等の窓口の利用法、学生生活上の注意事項などに関する情報の提供を行います。
2	大学での学び	大学とはどういう場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値等について考えていきます。また、学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識（対話や傾聴）について学びます。
3	学生生活と就職の準備 (キャリアセンター担当)	本学の学生は、卒業後の進路として9割が就職をします。就職がキャリアのゴールではないですが、多くの学生が直面する就職活動がいつ頃から始まり,どのような準備が必要かを卒業生のデータを踏まえながらキャリアセンター職員が解説します。
4	インターンシップ (キャリアセンター担当)	インターンシップとひとことで言っても多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なります。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので積極的な参加を期待しています。本授業では窓口であるキャリアセンター職員が過去の先輩の事例や参加する際の注意点などを解説します。
5	働くことの意味	働くとはどういうことなのでしょうか?これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていきます。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から社会人ゲスト講師とともに考えていきましょう。
6	自分の価値観を知る	キャリア軸の基礎となる価値観について、キャリアアンカーテストを実施して、自分自身の価値判断の軸を確認します。また「キャリアの輪」ワークを活用して自分自身の価値観と向き合い、キャリア将来像を価値観から捉えます。
7	自分の人生を振り返る	今までの人生について、時間軸で振り返りを行います。振り返りには、ライフラインチャートを利用します。生まれてから現在までの自分の轍＝キャリアを俯瞰して眺めることで、自分自身の人生における特徴を理解します。
8	自分のキャリアの方向性を探る	自分の得意なことを「職業」にする、また、好きなことを「業界」にする、さらに大事にしている「価値観」が合う企業を見つけるという視点から、先ずは職業、業界、企業の調べ方を伝授し、職業、業界、企業調査を実施します。
9	自分の未来を創造する	現在から未来までキャリアの軸を線で捉えるミライマインドマップというワークシートを活用し、現在から未来に向けて働くイメージを広げるワークを行います。また、過去→現在→未来の自分を繋ぎ、キャリアに関する自分の軸を明らかにします。
10	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていきます。労働の領域におけるダイバーシティ(多様性)に関する基本的考え方に加え,多様な雇用形態,パラレルキャリア,他拠点勤務,テレワークなど新しい働き方のあり方についてゲスト社会人講師も交え議論していきます。

11	企業の採用活動	就活を採用される立場からだけでなく、採用する側の企業側視点で考えてみましょう。企業社会で求められる人材とはどういう人でしょうか？ 実際の人事経験があるゲスト社会人講師とともに考えていきます。
12	グローバル化社会と人材	グローバル人材になるには、英語をはじめとした外国語の能力は確かに大切です。では、語学力があれば外国人と仕事ができるかと言うと、そう単純ではありません。相手の文化を知っていることがわかり合うための大前提になります。社会人ゲスト講師も招いてリアルな現場を知ることから行っていきます。
13	これからの社会の動きと 求められる人材とは	これから先の社会がどのように変化していくのか見通しが立てにくい時代を私たちは生きています。その中で私たちは自分自身のキャリアデザインのために、何を考え、どのような人材として成長していくのが望ましいかについて社会人ゲスト講師と一緒に考えていきます。
14	学生生活の過ごし方	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかをグループで討議していきます。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを考え、自分自身のキャリアを作る主体的な行動計画を企画していきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は4時間を目安としています。内容としてはレポートのための課題本を読む時間を含めています

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず毎回投影資料で説明を行います。

【参考書】
レポート課題図書：夢をかなえるゾウ１ 水野敬也（文響社）

【成績評価の方法と基準】
平常点50％
レポート50％
・毎回のリアクションペーパー提出＝出席＜30％＞、
・授業への貢献＝発言・発表・質問・課題レポートへの取り組み＜20％＞
・期末レポート＜50%＞、

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
・オンライン授業用のPCまたはタブレット端末（パソコンの使用を推奨します）
・筆記用具
・課題・リアクションペーパーの提出は「学習支援システム」を通じて行います。
※他に必要なものがあれば、授業の中で適宜指示をします。

【その他の重要事項】
●「実務経験のある教員による授業」
担当教員は法政大の卒業生です。ジョンソン・エンド・ジョンソングループ等外資系企業の採用担当・責任者として20年以上実務経験があるため、就職活動に役立つ企業視点に基づいた授業を展開します。現在は日鉄ソリューションズグループという日本のIT企業で採用グループリーダーとして勤務しています。
●授業実施形態や授業テーマに関して
授業実施日の授業形態（オンライン／対面）が変更になる可能性があります。各回の授業テーマや形態の詳細は、逐次「学習支援システム」よりお知らせします。また、
授業内でも案内していきます。
●どのような雰囲気の授業か
グループワークを多く行うため、様々な学部の学生とコミュニケーションを取りながらワークショップ形式で授業を進行していきます。また、回によってはゲスト社会人講師が参加をして、キャリアに関するリアルな声を届けていただく予定です。よってコミュニケーションを積極的に取りたいという学生に向いている授業です。
●配当年次
入学年度によって配当年次が異なります。
2024年度以前入学者：法文営国環キＧ1年、経社1～2年、現ス1～4年
2025年度以降入学者：法文営国環キＧ経社現ス1～3年
●履修条件
入学年度によって授業コードが異なります。
多摩学部の学生で「キャリアデザイン論」を履修済みの方は、本科目を履修することはできません。
2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録
2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, I hope to help you make the most of your student life by thinking together about 1) how to spend your time at university and 2) what it means to work in society.
In the class, I will provide you with basic knowledge about society and working, as well as ideas that are necessary for a more long-term life. Through these, the purpose of this class is to cultivate an attitude that will enable you to think and act on your own.
【Learning Objectives】
The goal is for students to be able to think for themselves and take the initiative. Up until high school, including entrance exams, students were given assignments and were expected to be able to find the correct answer as quickly as possible. In society, however, it is necessary to discover problems on one's own and take action to solve them. Also, no one can give you the correct answer. There will be more than one correct answer. The right answer today is not necessarily the right answer tomorrow.
In such a situation, you are required to find your own issues, think of solutions, and continue to implement them. During your four years at university, I hope that you will acquire the basic ability to think and act continuously, or in other words, to keep the PDS (Plan, Do, See) cycle going. It may be a small step at first. During the six months, let's aim to take some action, using the classes as a starting point.
【Learning activities outside of classroom】
The estimated preparation and review time for this class is 4 hours. The content includes time to read the assigned book for the report.
【Grading Criteria /Policy】
a mark given for class participation　50%
Report 50%
< Details>
Attendance (30%): Submission of reaction papers for each class,
Contribution to the class: Speech, presentation, questions, and work on the assignment report < 20%> ,
Final report :< 50%>

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、①大学での過ごし方、②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。
授業の中では、より長期的な人生を歩むうえで必要となる考え方や、社会や働くということについて基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】
自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけでもありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。
そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan,Do,See）サイクルを回していける基本的な力を身につけてほしいと思います。
最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-Ⅴ」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】
環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、カリキュラム等の授業概要と本科目の受講意義と教員の基本的視点について説明する。
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学での基本的な学びの姿勢とは、大学の活用価値と活用方法について考える。
3	学生時代の過ごし方	これから卒業までの時間をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを議論する。
4	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観、さまざまな記録にも触れながら、これからの時代の労働と仕事について考える。
5	働き方と多様性	自分自身を生かしていくための働き方やさまざまな働き方について、とくに最近の働き方環境の動向も踏まえて考えていく。
6	学生生活と就職の準備	就職は学生生活のゴールではないが、将来の生活を左右する重要な要素である。この就職の準備を進め方や最近の情勢について説明する。（キャリアセンター担当）
7	インターンシップ	大学在学中に社会的経験、能力開発、企業等の現場の確認などができるインターンシップの効果と参加方法について説明する。（キャリアセンター担当）
8	行動力と目標達成力	日常生活や業務の遂行にあたって、社会人としての活動に必須な能力としての行動力、実行力、目標達成力の特性と醸成方法について学ぶ。
9	思考のメカニズムと認知バイアス	できごとの本質を正しく理解し、また合理的に判断していく思考のメカニズムと、正しい判断を得ることを妨げている認知バイアスについて学ぶ。
10	組織で活動する	私たちは組織で活動することが多いが、その活動を効率的に行うためのチームワーク、リーダーシップ、フォロワーシップについて学ぶ。
11	コミュニケーション	私たちの日常生活や業務の遂行上欠かせないコミュニケーションの在り方や基本的なスキルについて学んでいく。
12	日常生活とメンタルヘルス	社会生活や日常の生活を通じて生じるストレスの心身への悪影響を減らし、ストレスをも自分自身の生きる力に変換していく考え方について学ぶ。
13	友だち関係の構築と家族の形成	私たちの人生の質や充足感、幸福感の程度に大きくかかわってくる、友だち、恋愛、結婚、子育て、家族等を取り巻く状況やあり方について議論する。
14	幸福の追求	私たちは誰を幸せにするために生きていくのだろうか？ この答えを各人がしっかり持つことがぶれない自分、確固たる自分の価値尺度を持つことにつながる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために教科書に示された情報のほかにも有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用します。
大八木智一著「キャリアデザインの基礎～入門編～」ムイスリ出版、2025.3出版
毎回の小レポートおよび期末レポートの課題は教科書の内容から指示されます。期末レポートにおいても教室への教科書の持ち込み可です。詳細は、学習支援システムに掲示します。教科書販売は生協で行います。

【参考書】
授業内において、必要に応じて参考図書、参考文献、参考情報等を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合評価点（60％）と期末レポートの評価点（40％）の合計で評価します。レポートの記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】
本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」とされる考えより、みなさんが自分の頭で「考え抜いた」内容をレポートの記述内容に期待しています。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業においては小レポート（300字程度）の作成を求めます。この小レポートは「宿題」ではなく、「授業時間内提出課題」として当該授業終了時までに作成し（レポート作成の時間は取ります）、学習支援システム上で提出してください。そのため、小レポートの作成が可能なノートPCやタブレット等の機器を必ず持参してください。レポート作成のための使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。期末レポートも同様に教室でレポートの作成、提出を学習支援システム上で行います。

【その他の重要事項】
【質問の受付】授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。
【受講制限】本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業となる可能性があります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できませんので、早めに履修登録されることをお勧めします。
【配当年次】
入学年度によって配当年次が異なります。
2024年度以前入学者：法文営国環キＧ1年、経社1～2年、現ス1～4年
2025年度以降入学者：法文営国環キＧ経社現ス1～3年
【履修条件】
入学年度によって授業コードが異なります。
2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録
2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This class provides students with the basic knowledge they need to make the most of their college years and live a long life. The purpose of this class is to help you develop the ability to think and act on your own.
【Learning Objectives】
You are required to have the ability to identify issues on your own, think of solutions to those issues, and continue to implement those ideas. During your four years at university, I would like you to acquire the ability to continue to act while thinking, or in other words, the basic ability to run the PDS (Plan, Do, See) cycle.
【Learning activities outside of classroom】
The standard time required for preparing for this class, reviewing, writing assignment reports, etc. is 4 hours or more in addition to class time. Useful materials, data, reference books, etc. will be shown during class to help you understand the lesson more deeply.
【Grading Criteria/Policy】
Your evaluation will be based on the total score of the assignment report given at each class (100%). Only assignment reports submitted within the indicated deadline will be considered for evaluation. Assignment reports will be evaluated based on three elements: originality of written content, logical structure, and accuracy of expression. To receive credit, you must have a score of 60%or more of the full score of all assignment reports presented (total score of submitted assignment reports).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、①大学での過ごし方、②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。
授業の中では、より長期的な人生を歩むうえで必要となる考え方や、社会や働くということについて基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】
自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけでもありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。
そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan,Do,See）サイクルを回していける基本的な力を身につけてほしいと思います。
最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-Ⅴ」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】
環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、カリキュラム等の授業概要と本科目の受講意義と教員の基本的視点について説明する。
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学での基本的な学びの姿勢とは、大学の活用価値と活用方法について考える。
3	学生時代の過ごし方	これから卒業までの時間をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを議論する。
4	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観、さまざまな記録にも触れながら、これからの時代の労働と仕事について考える。
5	働き方と多様性	自分自身を生かしていくための働き方やさまざまな働き方について、とくに最近の働き方環境の動向も踏まえて考えていく。
6	学生生活と就職の準備	就職は学生生活のゴールではないが、将来の生活を左右する重要な要素である。この就職の準備を進め方や最近の情勢について説明する。（キャリアセンター担当）
7	インターンシップ	大学在学中に社会的経験、能力開発、企業等の現場の確認などができるインターンシップの効果と参加方法について説明する。（キャリアセンター担当）
8	行動力と目標達成力	日常生活や業務の遂行にあたって、社会人としての活動に必須な能力としての行動力、実行力、目標達成力の特性と醸成方法について学ぶ。
9	思考のメカニズムと認知バイアス	できごとの本質を正しく理解し、また合理的に判断していく思考のメカニズムと、正しい判断を得ることを妨げている認知バイアスについて学ぶ。
10	組織で活動する	私たちは組織で活動することが多いが、その活動を効率的に行うためのチームワーク、リーダーシップ、フォロワーシップについて学ぶ。
11	コミュニケーション	私たちの日常生活や業務の遂行上欠かせないコミュニケーションの在り方や基本的なスキルについて学んでいく。
12	日常生活とメンタルヘルス	社会生活や日常の生活を通じて生じるストレスの心身への悪影響を減らし、ストレスをも自分自身の生きる力に変換していく考え方について学ぶ。
13	友だち関係の構築と家族の形成	私たちの人生の質や充足感、幸福感の程度に大きくかかわってくる、友だち、恋愛、結婚、子育て、家族等を取り巻く状況やあり方について議論する。
14	幸福の追求	私たちは誰を幸せにするために生きていくのだろうか？ この答えを各人がしっかり持つことがぶれない自分、確固たる自分の価値尺度を持つことにつながる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために教科書に示された情報のほかにも有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用します。
大八木智一著「キャリアデザインの基礎～入門編～」ムイスリ出版、2025.3出版
毎回の小レポートおよび期末レポートの課題は教科書の内容から指示されます。期末レポートにおいても教室への教科書の持ち込み可です。詳細は、学習支援システムに掲示します。教科書販売は生協で行います。

【参考書】
授業内において、必要に応じて参考図書、参考文献、参考情報等を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合評価点（60％）と期末レポートの評価点（40％）の合計で評価します。レポートの記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】
本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」とされる考えより、みなさんが自分の頭で「考え抜いた」内容をレポートの記述内容に期待しています。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業においては小レポート（300字程度）の作成を求めます。この小レポートは「宿題」ではなく、「授業時間内提出課題」として当該授業終了時までに作成し（レポート作成の時間は取ります）、学習支援システム上で提出してください。そのため、小レポートの作成が可能なノートPCやタブレット等の機器を必ず持参してください。レポート作成のための使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。期末レポートも同様に教室でレポートの作成、提出を学習支援システム上で行います。

【その他の重要事項】
【質問の受付】授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。
【受講制限】本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業となる可能性があります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できませんので、早めに履修登録されることをお勧めします。
【配当年次】
入学年度によって配当年次が異なります。
2024年度以前入学者：法文営国環キＧ1年、経社1～2年、現ス1～4年
2025年度以降入学者：法文営国環キＧ経社現ス1～3年
【履修条件】
入学年度によって授業コードが異なります。
2024年度以前入学者：授業コード「A9825～A9833」の授業を履修登録
2025年度以降入学者：授業コード「A9810～A9818」の授業を履修登録

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This class provides students with the basic knowledge they need to make the most of their college years and live a long life. The purpose of this class is to help you develop the ability to think and act on your own.
【Learning Objectives】
You are required to have the ability to identify issues on your own, think of solutions to those issues, and continue to implement those ideas. During your four years at university, I would like you to acquire the ability to continue to act while thinking, or in other words, the basic ability to run the PDS (Plan, Do, See) cycle.
【Learning activities outside of classroom】
The standard time required for preparing for this class, reviewing, writing assignment reports, etc. is 4 hours or more in addition to class time. Useful materials, data, reference books, etc. will be shown during class to help you understand the lesson more deeply.
【Grading Criteria/Policy】
Your evaluation will be based on the total score of the assignment report given at each class (100%). Only assignment reports submitted within the indicated deadline will be considered for evaluation. Assignment reports will be evaluated based on three elements: originality of written content, logical structure, and accuracy of expression. To receive credit, you must have a score of 60%or more of the full score of all assignment reports presented (total score of submitted assignment reports).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、わたしたちのこれからのキャリアデザインを「人生経営」としてとらえ、これからの社会を生きていくわたしたちのキャリアデザインのあり方を考えていくことを授業の目的とします。
この授業の受講を通じて、これまで各分野で培われた研究結果や理論等を参考にしながら、行動の仕方を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことが大切です。そのために、この授業では、皆さん各自がキャリアのデザインを実行していくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきます。

【到達目標】
この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、皆さんのキャリアデザインに関して「人生経営」という視点でとらえなおし、経営学、心理学、社会学、経済学等の多様な領域における研究成果や理論等を援用して、皆さんのキャリアデザインの基本的戦略を考えようとするものです。近年変わりつつある「ワークスタイル」や「ライフスタイル」にも焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることを目指します。
最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、この授業をきっかけとして、自分自身で何か行動を起こしてみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-Ⅴ」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】
環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢について概要を説明する。また、人生の経営戦略とは何かについて説明する。
2	人生における目標設定	適切な人生の経営戦略を策定していくためには、まず妥当性のある人生経営の目標を定めることが必要である。
3	ライフサイクルとトランジション	一生にわたる特徴的なライフステージの特徴や発達課題について学び、安定した人生のステージから次のステージへの移行期であるトランジションへの対処の仕方について学ぶ。
4	プランドハプンスタンス理論の視点	ジョンクランボルツが提唱しているプランドハプンスタンス理論の概要を紹介し、自分にとって望ましい機会を獲得するための基礎的能力や行動様式について学ぶ。
5	自分の居場所と社会的価値	自分の居場所の確保は生きがい、やりがい、心理的安全性の確立の点で重要であり、自分自身の社会的価値の確認はモチベーションの維持にも有効である。
6	自分ならではの特徴を活かす	自分のキャリア形成にあたっては、自分の強みや個性よりも他者がまねできない特徴を活かすことが有効であるといわれている。
7	内発的動機付け	従来の頑張ることを外部からの報酬により強制される外発的動機付けよりも、行為自体を楽しむ内発的動機付けのほうが強さ、継続性、充足感の点で大きく勝る。
8	意思決定の技術	日常の意思決定による行動の結果の蓄積がキャリアであるが、この意思決定をより的確に行うための諸理論や戦略について具体的に学ぶ。
9	人材としての自分自身の質を高める学習と自己成長の技術	経験学習理論、ベンチマーキングをはじめとした諸理論を活用して、自分の人材としての効果的な能力向上戦略を学ぶ。
10	ぶれない自分を創る真の動機づけ	自分にとって絶対に譲れない価値は何か？ 本当に自分にとって大事なことは何か？ 自分にとっての真の動機づけ要因を確認することがぶれない自分をもたらす。
11	創発的戦略と計画的戦略	トランジションの時期におけるような不安定な状況下でとるべき行動や思考の創発的・試行錯誤的戦略と目標が明確な時に用いる計画的戦略の使い分け方を学ぶ。
12	自己の経営資源の投資配分	有限な自己資源をどのように配分していくかが、長期的視点に立った場合の自分の人生の充足度に深くかかわってくる。
13	大切な人たちとの関係性の構築	信頼できる友だち、家族など、時間をかけて継続的に信頼関係を高めていくことが必要な存在の人生における重要性は極めて高いことに気付く。
14	人生における限界費用の考え方	たった一回の例外や踏み外しが、結局なし崩し的に習慣化し、結果的に人生において大きな代償を払わなくてはならなくなることに気付くことが必要。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために教科書に示された情報のほかにも有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用します。
大八木智一著「キャリアデザインの基礎～応用編～」ムイスリ出版、2025.8出版
毎回の小レポートおよび期末レポートの課題は教科書の内容から指示されます。期末レポートにおいても教室への教科書の持ち込み可です。詳細は、学習支援システムに掲示します。教科書販売は生協で行います。

【参考書】
授業内において、必要に応じて参考図書、参考文献、参考情報等を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合評価点（60％）と期末レポートの評価点（40％）の合計で評価します。レポートの記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】
本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」とされる考えより、みなさんが自分の頭で「考え抜いた」内容をレポートの記述内容に期待しています。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業においては小レポート（300字程度）の作成を求めます。この小レポートは「宿題」ではなく、「授業時間内提出課題」として当該授業終了時までに作成し（レポート作成の時間は取ります）、学習支援システム上で提出してください。そのため、小レポートの作成が可能なノートPCやタブレット等の機器を必ず持参してください。レポート作成のための使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。期末レポートも同様に教室でレポートの作成、提出を学習支援システム上で行います。

【その他の重要事項】
【質問の受付】授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。
【受講制限】本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業となる可能性があります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できませんので、早めに履修登録されることをお勧めします。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
The purpose of this class is to focus on our future "life management" and to think about how to design our careers in order to live in the future society. Masu. By taking this class, I hope that you will be able to think about how to use the time you have left in your university life, how to act, and acquire the knowledge that will enable you to effectively create your own future.
【Learning Objectives】
The goal of this class is to help you acquire the basic way of thinking, the ability to take action, and the ability to plan so that your long life can come as close as possible to the life you envision. Through taking this class, we aim to help you get a concrete image of your own work style and lifestyle, and to be able to utilize this when thinking about your own career design.
【Learning activities outside of classroom】
The standard time required for preparing for this class, reviewing, writing assignment reports, etc. is 4 hours or more in addition to class time. Useful materials, data, reference books, etc. will be shown during class to help you understand the lesson more deeply.
【Grading Criteria/Policy】
Evaluation will be based on the total score of the assignment report given at each class (100%). Only assignment reports submitted within the indicated deadline will be considered for evaluation. Accepted assignment reports will be evaluated based on three elements: originality of written content, logical structure, and accuracy of written expression. To receive credits, you must obtain a score (total score of the submitted assignment report) of 60%or more of the total score (full score) of the assigned assignment report that you were asked to submit.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、わたしたちのこれからのキャリアデザインを「人生経営」としてとらえ、これからの社会を生きていくわたしたちのキャリアデザインのあり方を考えていくことを授業の目的とします。
この授業の受講を通じて、これまで各分野で培われた研究結果や理論等を参考にしながら、行動の仕方を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことが大切です。そのために、この授業では、皆さん各自がキャリアのデザインを実行していくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきます。

【到達目標】
この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、皆さんのキャリアデザインに関して「人生経営」という視点でとらえなおし、経営学、心理学、社会学、経済学等の多様な領域における研究成果や理論等を援用して、皆さんのキャリアデザインの基本的戦略を考えようとするものです。近年変わりつつある「ワークスタイル」や「ライフスタイル」にも焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることを目指します。
最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、この授業をきっかけとして、自分自身で何か行動を起こしてみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-Ⅴ」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】
環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢について概要を説明する。また、人生の経営戦略とは何かについて説明する。
2	人生における目標設定	適切な人生の経営戦略を策定していくためには、まず妥当性のある人生経営の目標を定めることが必要である。
3	ライフサイクルとトランジション	一生にわたる特徴的なライフステージの特徴や発達課題について学び、安定した人生のステージから次のステージへの移行期であるトランジションへの対処の仕方について学ぶ。
4	ブランドハプンスタンス理論の視点	ジョンクランボルツが提唱しているブランドハプンスタンス理論の概要を紹介し、自分にとって望ましい機会を獲得するための基礎的能力や行動様式について学ぶ。
5	自分の居場所と社会的価値	自分の居場所の確保は生きがい、やりがい、心理的安全性の確立の点で重要であり、自分自身の社会的価値の確認はモチベーションの維持にも有効である。
6	自分ならではの特徴を活かす	自分のキャリア形成にあたっては、自分の強みや個性よりも他者がまねできない特徴を活かすことが有効であるといわれている。
7	内発的動機付け	従来の頑張ることを外部からの報酬により強制される外発的動機付けよりも、行為自体を楽しむ内発的動機付けのほうが強さ、継続性、充足感の点で大きく勝る。
8	意思決定の技術	日常の意思決定による行動の結果の蓄積がキャリアであるが、この意思決定をより的確に行うための諸理論や戦略について具体的に学ぶ。
9	人材としての自分自身の質を高める学習と自己成長の技術	経験学習理論、ベンチマーキングをはじめとした諸理論を活用して、自分の人材としての効果的な能力向上戦略を学ぶ。
10	ぶれない自分を創る真の動機づけ	自分にとって絶対に譲れない価値は何か？ 本当に自分にとって大事なことは何か？ 自分にとっての真の動機づけ要因を確認することがぶれない自分をもたらす。
11	創発的戦略と計画的戦略	トランジションの時期におけるような不安定な状況下でとるべき行動や思考の創発的・試行錯誤的戦略と目標が明確な時に用いる計画的戦略の使い分け方を学ぶ。
12	自己の経営資源の投資配分	有限な自己資源をどのように配分していくかが、長期的視点に立った場合の自分の人生の充足度に深くかかわってくる。
13	大切な人たちとの関係性の構築	信頼できる友だち、家族など、時間をかけて継続的に信頼関係を高めていくことが必要な存在の人生における重要性は極めて高いことに気付く。
14	人生における限界費用の考え方	たった一回の例外や踏み外しが、結局なし崩し的に習慣化し、結果的に人生において大きな代償を払わなくてはならなくなることに気付くことが必要。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために教科書に示された情報のほかにも有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用します。
大八木智一著「キャリアデザインの基礎～応用編～」ムイスリ出版、2025.8出版
毎回の小レポートおよび期末レポートの課題は教科書の内容から指示されます。期末レポートにおいても教室への教科書の持ち込み可です。詳細は、学習支援システムに掲示します。教科書販売は生協で行います。

【参考書】
授業内において、必要に応じて参考図書、参考文献、参考情報等を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合評価点（60％）と期末レポートの評価点（40％）の合計で評価します。レポートの記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】
本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」とされる考えより、みなさんが自分の頭で「考え抜いた」内容をレポートの記述内容に期待しています。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業においては小レポート（300字程度）の作成を求めます。この小レポートは「宿題」ではなく、「授業時間内提出課題」として当該授業終了時までに作成し（レポート作成の時間は取ります）、学習支援システム上で提出してください。そのため、小レポートの作成が可能なノートPCやタブレット等の機器を必ず持参してください。レポート作成のための使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。期末レポートも同様に教室でレポートの作成、提出を学習支援システム上で行います。

【その他の重要事項】
【質問の受付】授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。
【受講制限】本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業となる可能性があります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できませんので、早めに履修登録されることをお勧めします。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
The purpose of this class is to focus on our future "life management" and to think about how to design our careers in order to live in the future society. Masu. By taking this class, I hope that you will be able to think about how to use the time you have left in your university life, how to act, and acquire the knowledge that will enable you to effectively create your own future.
【Learning Objectives】
The goal of this class is to help you acquire the basic way of thinking, the ability to take action, and the ability to plan so that your long life can come as close as possible to the life you envision. Through taking this class, we aim to help you get a concrete image of your own work style and lifestyle, and to be able to utilize this when thinking about your own career design.
【Learning activities outside of classroom】
The standard time required for preparing for this class, reviewing, writing assignment reports, etc. is 4 hours or more in addition to class time. Useful materials, data, reference books, etc. will be shown during class to help you understand the lesson more deeply.
【Grading Criteria/Policy】
Evaluation will be based on the total score of the assignment report given at each class (100%). Only assignment reports submitted within the indicated deadline will be considered for evaluation. Accepted assignment reports will be evaluated based on three elements: originality of written content, logical structure, and accuracy of written expression. To receive credits, you must obtain a score (total score of the submitted assignment report) of 60%or more of the total score (full score) of the assigned assignment report that you were asked to submit.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、私たちの「はたらき方・生き方」に焦点を当てて、これからの企業等の組織的活動を含む社会的活動や社会の状況の理解を前提にして、多面的に自分自身のキャリアデザインのあり方や自分自身の計画的行動について深く考えていくことを、この授業の目的とします。
この授業の受講を通じて、自分自身の実践的なキャリアデザインのために、残された大学生活の時間の使い方を自分自身で有効にプロデュースしていくための基礎を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていく上で考えておくべき多様な視点を提供し、それらに関する深い理解に基づく戦略的なキャリアデザインをそれぞれの受講生が実践できるようになるよう支援していきます。

【到達目標】
この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。
特にこの授業では、近年変わりつつある「ワークスタイル」と「ライフスタイル」に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の働き方、生き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることを目指します。
最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、この授業をきっかけにして、じぶん自身で何か行動を起こしてみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-Ⅴ」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】
授業の受講生の規模や環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れていきます。教員や学生同士の議論の時間を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価の方法について概要を説明します。みなさんのキャリアプランニングについてこの授業でできる「補助線」について解説します。
第2回	大人の成長とは何か	大人の成長モデルを学びます。連続した成長と非連続の成長、それぞれについて授業の前半では大人の成長モデルについて解説し、後半ではこれまでの自分の成長を振り返ります。 #成人発達理論 #ロバート・キーガン #玉ねぎモデル #リフレクション
第3回	学び方を学ぶ・他者から学ぶ	経験したことを振り返り、どうやって次の経験に活かせばよいのか、授業の前半では、経験学習の枠組みを解説します。後半では過去に各自学んできたことを考えます。 #経験学習 #リフレクション #学び #知的謙虚さ
第4回	「働き心地」を考える	自分が心地よい働き方と他者とのそれは異なります。住み心地、着心地があるように、人によって異なる「働き心地」があります。授業の前半では、働き心地について解説します。 どのような違いがあるのか、それをどのような視点で考えればよいのか、自分の働き心地は何かを考え、授業の中で意見交換をします。 #良い仕事 #働き心地 #ワークライフバランス #ウェルビーイング #生き生き働く
第5回	「はたらき」の自分史をつくる、労働観の変遷	働くことは人や社会に働きかける行為すべてを指します。つまり、対象が存在します。授業の前半で労働観の変遷について学びます。その後、自分の過去を振り返り子どもの頃からの「はたらき自分史」を作成し、授業の中で意見交換します。 #労働観 #働くこと #働く意味 #産業構造の変化
第6回	能力をどう証明・発揮するのか	「能力」とは何でしょうか。社会ではどのような能力が求められてきたのでしょうか。一方、能力を持っていても開花できる環境とそうではない環境とがあります。授業の前半では能力に考え、後半では個人の持ち味について、自分の持ち味を引き出せる環境をどのようにつくるか、考えます。 #能力 #社会人基礎力 #基礎力 #キャリア教育 #持ち味
第7回	チームで働くということ	社会ではチームで働く機会が増加します。部署内に閉じたチームもあれば社外の人と一緒にチームをつくって仕事をすることもあります。どうすればメンバーの持ち味を引き出すチームを作ることができるのか、理論を解説した上で、リーダー像について考えます。事前に動画視聴の課題があります。 #チームで働く #リーダー #指揮者 #アダプティブリーダー
第8回	仕事にかける思いについて考える	ここまでの学習内容を振り返り、あらためて自分の仕事は「誰に対するどのような仕事」でありたいのかを考えます。前半に多様な「仕事にかける思い」を解説し、後半では自分の仕事を定義してみます。 #17文字 #仕事の意味 ＃仕事にかける思い
第9回	チームの問題を解決する	働く人のモチベーションがどのように変化してきているのか、チームにおいて「指示待ち」と「抱え込み」はどうすれば解決できるのか、前半ではモチベーション理論やフィードバック理論を解説し、後半では実際のケースからチームで働く際の問題解決の方法を考えます。 #チームで働く #ワークモチベーション ＃フィードバック

第10回	やわらかく生きる	一部の企業文化は上意下達から個人の手上げ制へと変化してきています。上から下へ命令するやり方ではうまくいかなくなり、いわゆる「べき論」が通用しづらい世の中に変化しています。正解が見えづらく、また変化の速い環境の中、私たちはどう生きていけばよいのでしょうか。前半で理論解説をし、後半では具体策について考えます。 #玉ねぎモデル #リフレクション #abc理論
第11回	キャリアにおけるサスティナビリティ	キャリア形成は一時的なものではなく、一生継続します。企業の寿命が短くなり、個人の寿命が延びる中、既に２つ以上のキャリアステージを迎えている人も少なくありません。持続可能なキャリアを目指すとはどういうことか。企業と個人の関係について考えます。 #持続可能 #持続可能なキャリア #企業と個人
第12回	自分で選ぶ、自ら決める	キャリアにおいて自分で選択すること、決めることとはどういう意味を持つのでしょうか。自己決定や意思決定についての理論を紹介した上で、これまでの意思決定を振り返り、個人の選択軸を考えます。 #デシ #意思決定 #自己決定理論 #外発的動機付け #内発的動機付け #自律性
第13回	マルチロール（多重役割）の時代を生きる	働きながら学ぶ、子育てする、副業する、ボランティア活動をする、介護する・・私たちの多くはマルチロール（多重役割）の時代を生きています。どのようにして生活全体の満足度を上げていけばよいのでしょうか。授業の前半ではマルチロール社会の現状を解説し、後半では、各自の今後のありたいロールの姿について考えます。
第14回	レポートテーマを発表し、キャリア観を交換する	第２回から第13回までのテーマのうち、自分のレポートで取り扱いたいテーマについてグループの中で発表する。自身のレポートテーマは授業の前までに決定しておくこと。フィードバックの理論について解説する。第３回授業で学んだ「他者からの学び方」を活用する。 #フィードバック #対人型の学び #最終レポート#自律性 #主観の交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習・復習時間は、各１時間を標準とします。授業において事前課題を実施する回があります。事前課題は次の授業の教材として使用することがあります。授業内および学習支援システムにて伝えます。

【テキスト（教科書）】
特に定めません。学習支援システムにて資料を共有します。必要に応じてダウンロードやプリントアウトをしてください。授業履修者以外への配布や共有は原則禁止とします。

【参考書】
授業の中で適宜示します。
講師が執筆した記事についてはオンラインで随時示します（例えば以下）
https://reskill.nikkei.com/article/DGXMZO34917280T00C18A9000000/
https://www.businessinsider.jp/post-213864

【成績評価の方法と基準】
毎回授業終了後に提出の課題が 35%。授業への貢献（発言・発表・質問・課題レポートへの取り組みが25％、期末レポート内容の発表および期末レポートが 40%の割合で評価します。また、平常点も加味します。本授業は、授業の内容を通して「自らのキャリアと向き合う」ことを求めます。単に授業を聞くだけでなく、自分自身で考えることを常に求めます。

【学生の意見等からの気づき】
以下は、24年度受講の学生による「この授業を通じて学んだこと」です。受講人数にもよりますが、みなさん所属が異なるので25年度は互いの違いを理解する場を増やそうと考えています。
この講義ではキャリアや生き方についての理論を知ることはもちろん、その活用方法や捉え方も先生が解説してくださる。一見堅苦しく思える内容でも実際は自分と密接な関係にあったりすることもある。また、ただ講義を聞くのではなくグループワークが多いため、自然と自分で考えたり発言する機会があることがとても良い。みんなキャリアについては詳しくないからこそ、話すことが恥ずかしいと思うことはなかった。もしわからなくなっても先生が一緒に考えてくださったり、ヒントを与えてくださることも多い。どんな進路を持っていても、受ける価値のある授業だと私は考える。
私は、自分がキャリアで何を大切にしたいのか思い出すきっかけになった授業だった。先生からだけでなく、グループワークからも多くの学びを得られる良い授業だと思う。
就活が落ち着いた4年生にも参考になることばかりだった。
この授業では、変化し続ける社会で生きるために進路を考える際の補助線を教えてくれる。また、様々な理論などの知識だけでなく、グループワークや授業内の発言を通してコミュニケーション能力や思考力も身につけることができる。
本授業はこれまで受講してきた授業の中で一番、多種多様なバックグラウンドをもつ学生が存在する授業だと思う。自分自身の感情や本当はやりたいと思っていたことを言語化し、アウトプットできる良い機会である。この授業を通じて新たな自分自身を一つは知ることができ、他者からのフィードバックを通じて深い自己理解にも繋がると考えるため、今学期、本授業を受講して良かったと思えた。

【学生が準備すべき機器他】
授業内では、課題を使ったディスカッションを行います。パソコンを持参してください。また、第１回目の講義のほか、数回オンラインを活用した講義を行います。また、毎回の講義の情報や課題提出のために学習支援システムを積極的に活用します。そのため、パソコンおよびインターネット接続が必須になります。受講者の皆さんは準備し、随時チェックを行ってください。

【その他の重要事項】
■講師プロフィール
株式会社リクルート入社、営業、営業企画、商品企画、組織人事コンサルティング（企業の人材育成計画の作成や人事制度の設計、理念浸透）、キャリアカウンセラーの養成、リクルートワークス研究所にて大人の学び、キャリア教育に関する調査研究をおこなっています。専門分野は、教育社会学。授業では心理学や経営学の知識や理論も扱います。
企業の人事との共同研究も多いため、授業の中で紹介する内容が実際にどういった場で活用されるのかを伝えます。
https://www.works-i.com/outline/profile/Satoko_Tatsumi.html
【受講制限】本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】
【Course outline】In this class, you will learn what you need to know about career development throughout your whole life and how you can use these ideas to advance your own career development.
【Learning Objectives】

The goal of this class is to know what you need to know and to be able to use some of these knowledges.
【Learning activities outside of classroom】
The standard time for preparation study and review is one hour each.
【Grading Criteria /Policy】
35%is a reaction paper submitted after class. Contribution to the class (remarks, presentations, questions, and work on assignment reports） will be evaluated at a rate of 25%, and the final report will be evaluated at a rate of 40%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、私たちの「はたらき方・生き方」に焦点を当てて、これからの企業等の組織的活動を含む社会的活動や社会の状況の理解を前提にして、多面的に自分自身のキャリアデザインのあり方や自分自身の計画的行動について深く考えていくことを、この授業の目的とします。
この授業の受講を通じて、自分自身の実践的なキャリアデザインのために、残された大学生活の時間の使い方を自分自身で有効にプロデュースしていくための基礎を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていく上で考えておくべき多様な視点を提供し、それらに関する深い理解に基づく戦略的なキャリアデザインをそれぞれの受講生が実践できるようになるよう支援していきます。

【到達目標】
この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度、構想力、行動様式とを身につけることが到達目標です。特にこの授業では、はたらき方・生き方と社会的活動の接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身のはたらき方・生き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることを目指します。
最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、この授業をきっかけにして、何か確信をもって行動することができるようになることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-Ⅴ」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】
授業の受講生の規模や環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れていきます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価、授業に臨む姿勢、学び方について説明する。また、講師及び学生の自己紹介を行う。
第2回	私たちの生きる社会とキャリアデザイン	私たちが生きる現代社会の特徴・環境について理解を深め、そのような時代における「働き方」と「生き方」の変化、なぜキャリアデザインが重要か考える。
第3回	現代における企業の特徴と働き方	大学卒業後、多くの人が就職する企業において、働く環境はどのように変化しているのかを学ぶ。
第4回	「若者世代」の仕事観・キャリア観	近年の若者世代に関する研究内容を紹介し、若者は何を大切にしキャリアを選択するのか、働く上でどのような悩みがあるのか等について学ぶ。
第5回	自分のこれまでの人生と価値観	これまでの人生においてモチベーションに影響を与えた出来事を振り返り、働く上で重要となる自分自身の価値観やミッションを考える。
第6回	インタビューの技法	最終レポートでは、興味深いキャリアを歩んでいると感じる大人を一人選び、インタビューをした上でレポートを作成する。最終レポートに向けて、インタビューを実施するための方法やポイントについて学ぶ。
第7回	NPOやソーシャルセクターのキャリア	必ずしも経済的利益の拡大のみを目指すのではなく、社会的インパクトの拡大を目指すNPOやソーシャルセクターで働くことについて学ぶ。
第8回	スタートアップやベンチャー企業のキャリア	設立後間もない企業や、革新的な技術やビジネスモデルを持ち、社会に新しい価値をもたらしながら成長する企業群で働くことを考える。
第9回	起業というキャリア	会社員として雇用される働き方ではなく、起業や経営者として仕事に取り組むことを学ぶ。
第10回	地方で働くキャリア	学生の就職する企業の多くが首都圏に集中している中で、地方で働くキャリアについて考える。
第11回	副業・兼業、越境によるキャリア	一つの会社で働くだけではなく、複数の組織で働く「副業・兼業」を通じたキャリアについて学ぶ。自分自身の日常から離れ、非日常の環境に身を置く「越境」による学び・キャリアについて考える。
第12回	学生時代の社会的経験	昨今増えつつある、大学在学中に学校外の企業や社会人と繋がる「社会的経験」について学び、社会的経験がキャリアに与える影響を学ぶ。
第13回	キャリアを描くスモールステップ	キャリア観に影響を与える小さな行動（スモールステップ）について学び、自分自身の大学生活におけるスモールステップを考える。
第14回	自分のキャリアデザインを描く	13回までの授業を踏まえて、これからの大学生活の時間の使い方、キャリアデザインについて検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、1回につき4時間以上を標準とします。受講内容をより深く理解するために、授業または学習支援システムで示される文献読んだり、事前課題に取り組んだりします。

【テキスト（教科書）】
特に定めません。

【参考書】
授業内において、必要に応じて副読本、参考文献等を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業への貢献（発言・質問・グループワーク等）が30%、毎回の授業後の課題レポートが30%、期末レポートが40%の割合で評価します。それぞれを各割合で点数化し、合計100点満点のうち60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】
【講師プロフィール】

企業の人材育成支援を行うコンサルティング会社を経て、災害復興・地方創生を支援する一般社団法人RCFに転職。行政、民間企業、NPO等と協働し、社会課題解決事業をコーディネートしている。同時に、静岡県熱海市でまちづくり会社「machimori」に参画。企業研修事業や大学生のインターンシップ事業など、「地域をフィールドにした学び」を提供する事業を立ち上げ、事業責任者。
民間企業とNPOと大学講師、本業と副業、都会と地方のパラレルキャリアを実践している立場から、みなさんとこれからの時代のキャリアを考えていければと思います。
【受講制限】
本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。
【授業形態】
講師の都合により、対面の予定から、オンラインに変更になることがあります。変更の場合は、授業及び学習支援システムで通知します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this class is to focus on how we will "work" and "live" in the future society and how we will design our careers. It is also important to acquire the knowledge and skills to effectively produce our own actions and how we will spend the rest of our college years.
【Learning Objectives】
At the end of the course, you are expected to get various perspectives on career design so that you can build your own strategic career design based on these perspectives.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 40%、Short reports : 30%、in class contribution: 30%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、わたしたちのこれからのキャリアデザインを「人生経営」としてとらえ、これからの社会を生きていくわたしたちのキャリアデザインのあり方を考えていくことを授業の目的とします。
この授業の受講を通じて、これまで各分野で培われた研究結果や理論等を参考にしながら、行動の仕方を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことが大切です。そのために、この授業では、皆さん各自がキャリアのデザインを実行していくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきます。

【到達目標】
この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、皆さんのキャリアデザインに関して「人生経営」という視点でとらえなおし、経営学、心理学、社会学、経済学等の多様な領域における研究成果や理論等を援用して、皆さんのキャリアデザインの基本的戦略を考えようとするものです。近年変わりつつある「ワークスタイル」や「ライフスタイル」にも焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることを目指します。
最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、この授業をきっかけとして、自分自身で何か行動を起こしてみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-Ⅴ」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】
環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢について概要を説明する。また、人生の経営戦略とは何かについて説明する。
2	人生における目標設定	適切な人生の経営戦略を策定していくためには、まず妥当性のある人生経営の目標を定めることが必要である。
3	ライフサイクルとトランジション	一生にわたる特徴的なライフステージの特徴や発達課題について学び、安定した人生のステージから次のステージへの移行期であるトランジションへの対処の仕方について学ぶ。
4	ブランドハプンスタンス理論の視点	ジョンクランボルツが提唱しているブランドハプンスタンス理論の概要を紹介し、自分にとって望ましい機会を獲得するための基礎的能力や行動様式について学ぶ。
5	自分の居場所と社会的価値	自分の居場所の確保は生きがい、やりがい、心理的安全性の確立の点で重要であり、自分自身の社会的価値の確認はモチベーションの維持にも有効である。
6	自分ならではの特徴を活かす	自分のキャリア形成にあたっては、自分の強みや個性よりも他者がまねできない特徴を活かすことが有効であるといわれている。
7	内発的動機付け	従来の頑張ることを外部からの報酬により強制される外発的動機付けよりも、行為自体を楽しむ内発的動機付けのほうが強さ、継続性、充足感の点で大きく勝る。
8	意思決定の技術	日常の意思決定による行動の結果の蓄積がキャリアであるが、この意思決定をより的確に行うための諸理論や戦略について具体的に学ぶ。
9	人材としての自分自身の質を高める学習と自己成長の技術	経験学習理論、ベンチマーキングをはじめとした諸理論を活用して、自分の人材としての効果的な能力向上戦略を学ぶ。
10	ぶれない自分を創る真の動機づけ	自分にとって絶対に譲れない価値は何か？ 本当に自分にとって大事なことは何か？ 自分にとっての真の動機づけ要因を確認することがぶれない自分をもたらす。
11	創発的戦略と計画的戦略	トランジションの時期におけるような不安定な状況下でとるべき行動や思考の創発的・試行錯誤的戦略と目標が明確な時に用いる計画的戦略の使い分け方を学ぶ。
12	自己の経営資源の投資配分	有限な自己資源をどのように配分していくかが、長期的視点に立った場合の自分の人生の充足度に深くかかわってくる。
13	大切な人たちとの関係性の構築	信頼できる友だち、家族など、時間をかけて継続的に信頼関係を高めていくことが必要な存在の人生における重要性は極めて高いことに気付く。
14	人生における限界費用の考え方	たった一回の例外や踏み外しが、結局なし崩し的に習慣化し、結果的に人生において大きな代償を払わなくてはならなくなることに気付くことが必要。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために教科書に示された情報のほかにも有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用します。
大八木智一著「キャリアデザインの基礎～応用編～」ムイスリ出版、2025.8出版
毎回の小レポートおよび期末レポートの課題は教科書の内容から指示されます。期末レポートにおいても教室への教科書の持ち込み可です。詳細は、学習支援システムに掲示します。教科書販売は生協で行います。

【参考書】
授業内において、必要に応じて参考図書、参考文献、参考情報等を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合評価点（60％）と期末レポートの評価点（40％）の合計で評価します。レポートの記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】
本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」とされる考えより、みなさんが自分の頭で「考え抜いた」内容をレポートの記述内容に期待しています。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業においては小レポート（300字程度）の作成を求めます。この小レポートは「宿題」ではなく、「授業時間内提出課題」として当該授業終了時までに作成し（レポート作成の時間は取ります）、学習支援システム上で提出してください。そのため、小レポートの作成が可能なノートPCやタブレット等の機器を必ず持参してください。レポート作成のための使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。期末レポートも同様に教室でレポートの作成、提出を学習支援システム上で行います。

【その他の重要事項】
【質問の受付】授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。
【受講制限】本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業となる可能性があります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できませんので、早めに履修登録されることをお勧めします。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
The purpose of this class is to focus on our future "life management" and to think about how to design our careers in order to live in the future society. Masu. By taking this class, I hope that you will be able to think about how to use the time you have left in your university life, how to act, and acquire the knowledge that will enable you to effectively create your own future.
【Learning Objectives】
The goal of this class is to help you acquire the basic way of thinking, the ability to take action, and the ability to plan so that your long life can come as close as possible to the life you envision. Through taking this class, we aim to help you get a concrete image of your own work style and lifestyle, and to be able to utilize this when thinking about your own career design.
【Learning activities outside of classroom】
The standard time required for preparing for this class, reviewing, writing assignment reports, etc. is 4 hours or more in addition to class time. Useful materials, data, reference books, etc. will be shown during class to help you understand the lesson more deeply.
【Grading Criteria/Policy】
Evaluation will be based on the total score of the assignment report given at each class (100%). Only assignment reports submitted within the indicated deadline will be considered for evaluation. Accepted assignment reports will be evaluated based on three elements: originality of written content, logical structure, and accuracy of written expression. To receive credits, you must obtain a score (total score of the submitted assignment report) of 60%or more of the total score (full score) of the assigned assignment report that you were asked to submit.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、わたしたちのこれからのキャリアデザインを「人生経営」としてとらえ、これからの社会を生きていくわたしたちのキャリアデザインのあり方を考えていくことを授業の目的とします。
この授業の受講を通じて、これまで各分野で培われた研究結果や理論等を参考にしながら、行動の仕方を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことが大切です。そのために、この授業では、皆さん各自がキャリアのデザインを実行していくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきます。

【到達目標】
この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、皆さんのキャリアデザインに関して「人生経営」という視点でとらえなおし、経営学、心理学、社会学、経済学等の多様な領域における研究成果や理論等を援用して、皆さんのキャリアデザインの基本的戦略を考えようとするものです。近年変わりつつある「ワークスタイル」や「ライフスタイル」にも焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることを目指します。
最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、この授業をきっかけとして、自分自身で何か行動を起こしてみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-Ⅴ」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【授業の進め方と方法】
環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢について概要を説明する。また、人生の経営戦略とは何かについて説明する。
2	人生における目標設定	適切な人生の経営戦略を策定していくためには、まず妥当性のある人生経営の目標を定めることが必要である。
3	ライフサイクルとトランジション	一生にわたる特徴的なライフステージの特徴や発達課題について学び、安定した人生のステージから次のステージへの移行期であるトランジションへの対処の仕方について学ぶ。
4	ブランドハプンスタンス理論の視点	ジョンクランボルツが提唱しているブランドハプンスタンス理論の概要を紹介し、自分にとって望ましい機会を獲得するための基礎的能力や行動様式について学ぶ。
5	自分の居場所と社会的価値	自分の居場所の確保は生きがい、やりがい、心理的安全性の確立の点で重要であり、自分自身の社会的価値の確認はモチベーションの維持にも有効である。
6	自分ならではの特徴を活かす	自分のキャリア形成にあたっては、自分の強みや個性よりも他者がまねできない特徴を活かすことが有効であるといわれている。
7	内発的動機付け	従来の頑張ることを外部からの報酬により強制される外発的動機付けよりも、行為自体を楽しむ内発的動機付けのほうが強さ、継続性、充足感の点で大きく勝る。
8	意思決定の技術	日常の意思決定による行動の結果の蓄積がキャリアであるが、この意思決定をより的確に行うための諸理論や戦略について具体的に学ぶ。
9	人材としての自分自身の質を高める学習と自己成長の技術	経験学習理論、ベンチマーキングをはじめとした諸理論を活用して、自分の人材としての効果的な能力向上戦略を学ぶ。
10	ぶれない自分を創る真の動機づけ	自分にとって絶対に譲れない価値は何か？ 本当に自分にとって大事なことは何か？ 自分にとっての真の動機づけ要因を確認することがぶれない自分をもたらす。
11	創発的戦略と計画的戦略	トランジションの時期におけるような不安定な状況下でとるべき行動や思考の創発的・試行錯誤的戦略と目標が明確な時に用いる計画的戦略の使い分け方を学ぶ。
12	自己の経営資源の投資配分	有限な自己資源をどのように配分していくかが、長期的視点に立った場合の自分の人生の充足度に深くかかわってくる。
13	大切な人たちとの関係性の構築	信頼できる友だち、家族など、時間をかけて継続的に信頼関係を高めていくことが必要な存在の人生における重要性は極めて高いことに気付く。
14	人生における限界費用の考え方	たった一回の例外や踏み外しが、結局なし崩し的に習慣化し、結果的に人生において大きな代償を払わなくてはならなくなることに気付くことが必要。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために教科書に示された情報のほかにも有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用します。
大八木智一著「キャリアデザインの基礎～応用編～」ムイスリ出版、2025.8出版
毎回の小レポートおよび期末レポートの課題は教科書の内容から指示されます。期末レポートにおいても教室への教科書の持ち込み可です。詳細は、学習支援システムに掲示します。教科書販売は生協で行います。

【参考書】
授業内において、必要に応じて参考図書、参考文献、参考情報等を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合評価点（60％）と期末レポートの評価点（40％）の合計で評価します。レポートの記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】
本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」とされる考えより、みなさんが自分の頭で「考え抜いた」内容をレポートの記述内容に期待しています。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業においては小レポート（300字程度）の作成を求めます。この小レポートは「宿題」ではなく、「授業時間内提出課題」として当該授業終了時までに作成し（レポート作成の時間は取ります）、学習支援システム上で提出してください。そのため、小レポートの作成が可能なノートPCやタブレット等の機器を必ず持参してください。レポート作成のための使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。期末レポートも同様に教室でレポートの作成、提出を学習支援システム上で行います。

【その他の重要事項】
【質問の受付】授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。
【受講制限】本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業となる可能性があります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できませんので、早めに履修登録されることをお勧めします。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
The purpose of this class is to focus on our future "life management" and to think about how to design our careers in order to live in the future society. Masu. By taking this class, I hope that you will be able to think about how to use the time you have left in your university life, how to act, and acquire the knowledge that will enable you to effectively create your own future.
【Learning Objectives】
The goal of this class is to help you acquire the basic way of thinking, the ability to take action, and the ability to plan so that your long life can come as close as possible to the life you envision. Through taking this class, we aim to help you get a concrete image of your own work style and lifestyle, and to be able to utilize this when thinking about your own career design.
【Learning activities outside of classroom】
The standard time required for preparing for this class, reviewing, writing assignment reports, etc. is 4 hours or more in addition to class time. Useful materials, data, reference books, etc. will be shown during class to help you understand the lesson more deeply.
【Grading Criteria/Policy】
Evaluation will be based on the total score of the assignment report given at each class (100%). Only assignment reports submitted within the indicated deadline will be considered for evaluation. Accepted assignment reports will be evaluated based on three elements: originality of written content, logical structure, and accuracy of written expression. To receive credits, you must obtain a score (total score of the submitted assignment report) of 60%or more of the total score (full score) of the assigned assignment report that you were asked to submit.

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

減災工学

丸山　喜久、矢部　正明、藤村　和也、吉見　雅行、室野　剛隆、山崎　敦広、土屋　修一、山本　浄二、門屋　博行、田中　孝幸、永野　正千、外園　明成

開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球規模の気候変化とともに，日本では人口減少・高齢化，国土の二極化など社会構造の変容が著しい．ハザードへの暴露率が世界有数の高さにあるわが国において，人々の生命を守り災害による社会システムの損失を最小化するためには，災害リスク評価に基づく減災施策を的確に進めることが喫緊の課題である．地震災害，土砂災害，風水害など自然災害の実態を理解し，国内外で取り組まれる減災の事例と先端技術を学ぶ.

【到達目標】
多様な減災戦略に供する工学体系の学修を通し，技術者として安全・安心で持続可能な国土を形成するために必要な科学知識や素養を修得する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
国内外における自然災害の事例と地球環境や社会の変化にともなう災害特質の経年的推移を理解し，災害の発生機構や社会システムに及ぼす影響などを学ぶ．自然災害規模がハザード，暴露率，脆弱性の関数であり，暴露率と脆弱性の最小化が減災工学の目的であることを理解する．前半では地震外力をハザードとする場合の社会インフラへのダメージと様々な技術分野で開発された減災施策を講述する．後半では，気象外力をハザードとする風水害・沿岸災害・土砂災害の国内外事例と減災施策を紹介し，減災を進める上での課題と様々な技術・政策の減災効果について学ぶ．いずれの種類のハザードに関しても，環境と防災の一体化，生態系サービスを利用した防災・減災の重要性を学ぶ．授業の最終段階では減災を実質化する上で必要な事前・事後復興施策，BCP，地域社会のあり方など，減災の社会工学的アプローチを学修する.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地震	地震の発生メカニズム：断層・地震
2	地震	地震によるライフライン（ガス，水道）の被害と復旧
3	地震	地震によるライフライン（電力）の被害と復旧
4	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
5	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
6	地震	地震による鉄道インフラの被害と復旧
7	地震< -防災・減災計画	地震に対する減災施策：リスク管理，地震保険 < -総力戦で挑む防災・減災プロジェクトについて
8	防災・減災	総力戦で挑む防災・減災プロジェクトについて
9	避難計画	水害からの避難について～近年の水災害と水防行政～
10	気候変動と水害	気候変動への対応と流域治水
11	治水事業	荒川における河川整備について
12	防災・環境	治水と環境が調和した多自然川づくり
13	土砂災害	土砂災害対策について
14	内水害	下水道による都市浸水対策について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自学自習に努めること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料を配付

【参考書】
授業中に適宜紹介する.

【成績評価の方法と基準】
自然災害の発生メカニズム，社会インフラの被災と減災，気候変動が自然災害に及ぼす影響，防災・減災と環境施策の一体性，持続可能な国土に求められる社会の条件と技術者の使命，などに関する理解度を演習レポート（30%）と期末試験（70%）により総合評価する（遠隔授業の場合には期末試験の代わりに各自が作成した学習メモなどを通して学力確認をする場合がある）．100点満点に換算した上，60 点以上を合格とする．欠席４回以上の場合には単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
該当なし.

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
地盤力学及演習（必修），地盤環境工学（必修），水理学Ⅰ及演習（必修），河川環境工学（必修），ならびに水文気象学，流域水文学，水理学2を履修していることが望ましい.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Along with global climate change, the social structure of Japan is undergoing remarkable changes such as population decline and aging. Japan is one of the countries in the world that are exposed to most severe natural hazards. Therefore, it is an urgent task to properly implement disaster mitigation measures based on disaster risk assessment in order to protect people's lives and minimize the loss of social systems due to disasters. The objective of this program is to understand science of natural disasters such as earthquake disasters, sediment-related disasters, and storms and floods, and to learn about disaster mitigation examples and advanced technologies.
（Learning Objectives）
Through the study of engineering systems that contribute to various disaster mitigation strategies, students will acquire the scientific knowledge and skills necessary to develop a safe, secure, and sustainable land as an engineer.
（Learning activities outside of classroom）
Continuously keep on one's self study. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.（Grading Criteria /Policy）

Score is given by evaluating how much students understand mechanism of occurrence of natural disasters, damage and mitigation of social infrastructure, impact of climate change on natural disasters, integration of disaster prevention/mitigation and environmental measures, social conditions required for sustainable national land and the mission of engineers, etc. Comprehensive evaluation is made based on the exercise report (30%) and the final exam (70%). After converting to 100 points, a score of 60 or higher is considered a pass. Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (evaluation D).

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

減災工学

丸山　喜久、矢部　正明、藤村　和也、吉見　雅行、室野　剛隆、山崎　敦広、土屋　修一、山本　浄二、門屋　博行、田中　孝幸、永野　正千、外園　明成

開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球規模の気候変化とともに，日本では人口減少・高齢化，国土の二極化など社会構造の変容が著しい．ハザードへの暴露率が世界有数の高さにあるわが国において，人々の生命を守り災害による社会システムの損失を最小化するためには，災害リスク評価に基づく減災施策を的確に進めることが喫緊の課題である．地震災害，土砂災害，風水害など自然災害の実態を理解し，国内外で取り組まれる減災の事例と先端技術を学ぶ.

【到達目標】
多様な減災戦略に供する工学体系の学修を通し，技術者として安全・安心で持続可能な国土を形成するために必要な科学知識や素養を修得する.

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
			◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
国内外における自然災害の事例と地球環境や社会の変化にともなう災害特質の経年的推移を理解し，災害の発生機構や社会システムに及ぼす影響などを学ぶ．自然災害規模がハザード，暴露率，脆弱性の関数であり，暴露率と脆弱性の最小化が減災工学の目的であることを理解する．前半では地震外力をハザードとする場合の社会インフラへのダメージと様々な技術分野で開発された減災施策を講述する．後半では，気象外力をハザードとする風水害・沿岸災害・土砂災害の国内外事例と減災施策を紹介し，減災を進める上での課題と様々な技術・政策の減災効果について学ぶ．いずれの種類のハザードに関しても，環境と防災の一体化，生態系サービスを利用した防災・減災の重要性を学ぶ．授業の最終段階では減災を実質化する上で必要な事前・事後復興施策，BCP，地域社会のあり方など，減災の社会工学的アプローチを学修する.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地震	地震の発生メカニズム：断層・地震
2	地震	地震によるライフライン（ガス，水道）の被害と復旧
3	地震	地震によるライフライン（電力）の被害と復旧
4	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
5	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
6	地震	地震による鉄道インフラの被害と復旧
7	地震< -防災・減災計画	地震に対する減災施策：リスク管理，地震保険 < -総力戦で挑む防災・減災プロジェクトについて
8	防災・減災	総力戦で挑む防災・減災プロジェクトについて
9	避難計画	水害からの避難について～近年の水災害と水防行政～
10	気候変動と水害	気候変動への対応と流域治水
11	治水事業	荒川における河川整備について
12	防災・環境	治水と環境が調和した多自然川づくり
13	土砂災害	土砂災害対策について
14	内水害	下水道による都市浸水対策について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自学自習に努めること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料を配付

【参考書】
授業中に適宜紹介する.

【成績評価の方法と基準】
自然災害の発生メカニズム，社会インフラの被災と減災，気候変動が自然災害に及ぼす影響，防災・減災と環境施策の一体性，持続可能な国土に求められる社会の条件と技術者の使命，などに関する理解度を演習レポート（30%）と期末試験（70%）により総合評価する（遠隔授業の場合には期末試験の代わりに各自が作成した学習メモなどを通して学力確認をする場合がある）．100点満点に換算した上，60 点以上を合格とする．欠席４回以上の場合には単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
該当なし.

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
地盤力学及演習（必修），地盤環境工学（必修），水理学Ⅰ及演習（必修），河川環境工学（必修），ならびに水文気象学，流域水文学，水理学2を履修していることが望ましい.
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】
(Course outline)
Along with global climate change, the social structure of Japan is undergoing remarkable changes such as population decline and aging. Japan is one of the countries in the world that are exposed to most severe natural hazards. Therefore, it is an urgent task to properly implement disaster mitigation measures based on disaster risk assessment in order to protect people's lives and minimize the loss of social systems due to disasters. The objective of this program is to understand science of natural disasters such as earthquake disasters, sediment-related disasters, and storms and floods, and to learn about disaster mitigation examples and advanced technologies.
（Learning Objectives）
Through the study of engineering systems that contribute to various disaster mitigation strategies, students will acquire the scientific knowledge and skills necessary to develop a safe, secure, and sustainable land as an engineer.
（Learning activities outside of classroom）
Continuously keep on one's self study. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.（Grading Criteria /Policy）

Score is given by evaluating how much students understand mechanism of occurrence of natural disasters, damage and mitigation of social infrastructure, impact of climate change on natural disasters, integration of disaster prevention/mitigation and environmental measures, social conditions required for sustainable national land and the mission of engineers, etc. Comprehensive evaluation is made based on the exercise report (30%) and the final exam (70%). After converting to 100 points, a score of 60 or higher is considered a pass. Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (evaluation D).

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

減災工学

丸山　喜久、矢部　正明、藤村　和也、吉見　雅行、室野　剛隆、山崎　敦広、土屋　修一、山本　浄二、門屋　博行、田中　孝幸、永野　正千、外園　明成

開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球規模の気候変化とともに，日本では人口減少・高齢化，国土の二極化など社会構造の変容が著しい．ハザードへの暴露率が世界有数の高さにあるわが国において，人々の生命を守り災害による社会システムの損失を最小化するためには，災害リスク評価に基づく減災施策を的確に進めることが喫緊の課題である．地震災害，土砂災害，風水害など自然災害の実態を理解し，国内外で取り組まれる減災の事例と先端技術を学ぶ.

【到達目標】
多様な減災戦略に供する工学体系の学修を通し，技術者として安全・安心で持続可能な国土を形成するために必要な科学知識や素養を修得する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
国内外における自然災害の事例と地球環境や社会の変化にともなう災害特質の経年的推移を理解し，災害の発生機構や社会システムに及ぼす影響などを学ぶ．自然災害規模がハザード，暴露率，脆弱性の関数であり，暴露率と脆弱性の最小化が減災工学の目的であることを理解する．前半では地震外力をハザードとする場合の社会インフラへのダメージと様々な技術分野で開発された減災施策を講述する．後半では，気象外力をハザードとする風水害・沿岸災害・土砂災害の国内外事例と減災施策を紹介し，減災を進める上での課題と様々な技術・政策の減災効果について学ぶ．いずれの種類のハザードに関しても，環境と防災の一体化，生態系サービスを利用した防災・減災の重要性を学ぶ．授業の最終段階では減災を実質化する上で必要な事前・事後復興施策，BCP，地域社会のあり方など，減災の社会工学的アプローチを学修する.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地震	地震の発生メカニズム：断層・地震
2	地震	地震によるライフライン（ガス，水道）の被害と復旧
3	地震	地震によるライフライン（電力）の被害と復旧
4	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
5	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
6	地震	地震による鉄道インフラの被害と復旧
7	地震< -防災・減災計画	地震に対する減災施策：リスク管理，地震保険 < -総力戦で挑む防災・減災プロジェクトについて
8	防災・減災	総力戦で挑む防災・減災プロジェクトについて
9	避難計画	水害からの避難について～近年の水災害と水防行政～
10	気候変動と水害	気候変動への対応と流域治水
11	治水事業	荒川における河川整備について
12	防災・環境	治水と環境が調和した多自然川づくり
13	土砂災害	土砂災害対策について
14	内水害	下水道による都市浸水対策について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自学自習に努めること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料を配付

【参考書】
授業中に適宜紹介する.

【成績評価の方法と基準】
自然災害の発生メカニズム，社会インフラの被災と減災，気候変動が自然災害に及ぼす影響，防災・減災と環境施策の一体性，持続可能な国土に求められる社会の条件と技術者の使命，などに関する理解度を演習レポート（30%）と期末試験（70%）により総合評価する（遠隔授業の場合には期末試験の代わりに各自が作成した学習メモなどを通して学力確認をする場合がある）．100点満点に換算した上，60 点以上を合格とする．欠席４回以上の場合には単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
該当なし.

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
地盤力学及演習（必修），地盤環境工学（必修），水理学Ⅰ及演習（必修），河川環境工学（必修），ならびに水文気象学，流域水文学，水理学2を履修していることが望ましい.
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】
(Course outline)
Along with global climate change, the social structure of Japan is undergoing remarkable changes such as population decline and aging. Japan is one of the countries in the world that are exposed to most severe natural hazards. Therefore, it is an urgent task to properly implement disaster mitigation measures based on disaster risk assessment in order to protect people's lives and minimize the loss of social systems due to disasters. The objective of this program is to understand science of natural disasters such as earthquake disasters, sediment-related disasters, and storms and floods, and to learn about disaster mitigation examples and advanced technologies.
（Learning Objectives）
Through the study of engineering systems that contribute to various disaster mitigation strategies, students will acquire the scientific knowledge and skills necessary to develop a safe, secure, and sustainable land as an engineer.
（Learning activities outside of classroom）
Continuously keep on one's self study. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.（Grading Criteria /Policy）

Score is given by evaluating how much students understand mechanism of occurrence of natural disasters, damage and mitigation of social infrastructure, impact of climate change on natural disasters, integration of disaster prevention/mitigation and environmental measures, social conditions required for sustainable national land and the mission of engineers, etc. Comprehensive evaluation is made based on the exercise report (30%) and the final exam (70%). After converting to 100 points, a score of 60 or higher is considered a pass. Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (evaluation D).

POL200GA（政治学 / Politics 200）

平和学

松本　悟

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度、文化などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】
（1）消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って実例を説明できる。
（2）国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
（3）基本的なアカデミックスキルと平和学で取り上げられる方法を理解し、実例に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施する。学内業務などでやむを得ない場合はオンデマンド授業を行う場合もある。
■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業後課題：：2回に1回程度課す。基幹科目なのでアカデミックスキルを高
めることを目的とし、200字～800字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとすることについて考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	２つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構（ユニセフ）	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構（世界銀行）	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和（暴力）のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ（権力と暴力）	「権力」という切り口から13回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後課題は、法政大学の図書館HPのデーターベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内討論への参加度、授業後課題）50%、期末レポート50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個々人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けているが、ほとんど質問はない。
・授業後課題はコロナ禍では毎回出していたが、負担の大きさに鑑みて、現在では学期中に5～6回にしている。受講者からは、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと好評である。
・学生から学びが大きいというフィードバックが多いので、毎回グループ討議と発表、それに対する教員のコメントを引き続き行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・国際開発協力ＮＧＯやＮＨＫ記者としての実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例や取材経験を挙げながら講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peace in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) explaining the issues or events by using the concept of "positive", "negative", "cultural" peace.
2) explaining the functions of international organizations in avoiding certain type of the violence.
3) applying the basic academic skills and the analytical methods the peace studies use for actual cases of violence.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

PHL200GA（哲学 / Philosophy 200）

フランス語圏の文化Ⅰ（思想）

大中　一彌

配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
［授業の目的］この授業では、17世紀を中心とするフランスの思想や文化をめぐり、いくつかの作品を概観します。この時代は、その後、グローバルに広がっていく近代社会の基本的な枠組が ― よくも悪くも ― 西ヨーロッパにおいて形づくられた時代です。この時代についての知識を得て、考えを深めることは、受講者自身がさまざまな文化に関して抱いている価値観を、より奥行きのある、洗練されたものにしていくのに役立ちます。
［授業の概要］
※世界史を大学受験のさいに選ばなかった人を念頭に置きつつ、基礎知識を補う意味で、やや長めに「授業の概要」を以下に記述します。
●デュビィ&マンドルー『フランス文化史』Ⅱによれば、17世紀前半のフランスは、ひとりの人間にたとえるなら「青春時代」のような状態にあった。ジャック・カルティエが「カナダ」と呼び、16世紀に探検した北アメリカの土地へは、17世紀に入ると交易やフランスからの入植が進められた。
●同じ頃、活版印刷と結びついて西ヨーロッパに広がった宗教改革は、伝統的なカトリック教国のフランスにも、プロテスタントの信仰を浸透させた。この浸透の結果もたらされた悲惨な宗教戦争を、ナントの勅令（1598年）により収拾したのはブルボン朝の創始者アンリ４世である。これに続く17世紀前半は、若々しさを連想させる経済社会の成長を基調としながらも、成長ゆえにカトリック教会を含む従来の秩序がゆらいだ時代でもあった。
●同時代の哲学者ルネ・デカルトは、迷信や思い込みに囚われた人間の意識のあり方を疑い、知識の確実な基礎を、数学や自然科学を支える合理精神のなかに、むしろ見いだした。
●同じく17世紀の哲学者パスカルの「人間は一本の葦に過ぎない、だがそれは考える葦である」という言葉は、環境に左右されやすく傷つきやすい肉体の弱さと、無限の宇宙をも分析しうる知性がもつ尊厳のあいだで、揺れ動く人間の姿をよく特徴づけている。
●17世紀から18世紀前半にまたがるルイ14世の治世は、フランス史において「偉大な世紀」と呼ばれる。政治面においてはいわゆる絶対王政、文化面においてはいわゆる古典主義をつうじて、それぞれの領域における秩序の完成が目指された。
●ナントの勅令の廃止（1685年）によりカトリック教国としての純化を図り、宗教的寛容で知られた当時随一の商業大国ネーデルラント（オランダ）を屈服させようとしたルイ14世の力の基盤となっていたのは、フランスの人口の多さ（約2000万人）にくわえ、国内における強力な徴兵・徴税制度といった、リシュリューやマザラン、コルベールら、王権に仕えた実務家たちがつみあげた成果のうえにできた、集権的な世俗の国家であった。
●また、文化面における古典主義は、こうした国家から庇護を受け、ルイ14世という君主の栄光を讃美する（現代でいう）プロパガンダの面を確かにもっていたが、ヨーロッパの多くの宮廷が模倣するような対外的影響力も実際に有していた。
●イギリスやオランダとともに、いわゆる啓蒙思想の震源地であったこの時代のフランスの哲学者たちは、国境を越えた「文芸の共和国」のなかで活動しており、ルイ14世により確立された集権的な専制政治や、宗教における純化志向がもたらしがちな狂信に対して、しばしば批判的であった。

【到達目標】
１．人が学び、成長し、より洗練された文化がかたちづくられていく際に、「古典」が果たしうる役割について、大学生にふさわしい建設的な意見を述べることができる。
２．「オリエンタリズム」や「ヨーロッパ中心主義」のような、基本的にはヨーロッパの外側からする定型的な批判にとどまることなく、異文化としての17世紀フランスを、ある程度内側から見る、個別の作品に即した理解をもったうえで、みずからの考えをまとめることができる。
３．ヨーロッパの近世芸術におけるギリシア・ローマの神々のモチーフの重要性や、モンテーニュやデカルトに見られる、旅行を通じ、みずからが生まれ育った文化（「自文化」）を相対化する視点に着目しながら、17世紀フランスにおける、さまざまな宗教や宗教批判のあり方について、「一神教は不寛容」「多神教は寛容」といったステレオタイプに陥らずに、論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・この授業は基本的に「対面」です。
・学生からの書き込み等に対するフィードバックは、基本的に授業時間内に行いますが、学習支援システムやGoogle Classroomを利用する場合があります。
・授業内容の録画や録音の一部、ならびに授業時間内に扱い切れなかった内容を補足する動画を、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	シラバスと毎回進行表の説明	この授業での学び：古典と「古典主義」。チャールズ英国王のフランス語スピーチ
第2回	フランスにおけるルネサンス	16世紀：お手本としてのイタリアの芸術
第3回	国民性としての「古典主義」というストーリー	「フランス精神」の理想は、明晰（めいせき）・判明なデカルト的合理主義、と伝統的に主張されてきた。古典主義と合理主義の結びつきに関するフーコーとデリダの対比
第4回	デカルトと「悪しき霊」	私や世界は実在すると、ほんとうに言えるのか？　あなたは悪しき霊（an evil genius）にだまされて、夢やまぼろしを現実と取り違えているだけではないのか？
第5回	遠近法と劇のなかの劇	デカルトは『屈折光学』で動物実験から網膜には我々が見る対象と似た「絵」（画像）が観察されると確認していた。フランス式の庭園とは、「光学とだまし絵の新しい法則」が活かされる、スペクタクルの空間である。
第6回	コルネイユ『舞台は夢』	原題はイリュージョン・コミック。全ては幻影なのか、それともむしろ、フィクションこそが人生の学校なのか？
第7回	絵画における古典主義	ワインと血、ダンスにあふれる若きプッサンの絵画。晩年のプッサンの作品《春》で神はどちらを向いていたか？
第8回	《王は踊る》	沼地に囲まれた小さな城館に過ぎなかったヴェルサイユが、ダンス好きの君主ルイ14世により、権力と芸術のための一大装置と化しました。

第9回	宮廷社会の成立	日本にも「すまじきものは宮仕え」という表現がありますが、王様の恩顧を得ようと競うフランスの宮廷社会でも、洗練された貴族の作法を身につけていないと生き残れなかったようです。
第10回	ヴァニタスと神の恩寵	シャンペーニュの絵画《ヴァニテ、あるいは人生の寓意》では、生命を象徴する赤い花のとなりに頭蓋骨と砂時計が置かれます。その意味とは？
第11回	モラリストと仮面	モラリストの「寓話」や「箴言（しんげん）」はしばしば挫折の経験を昇華したもの。子ども向けの寓話だからと、あなどるなかれ。
第12回	幾何学的な無限と「考える葦」	デカルトと並び、17世紀フランスを代表する思想家のパスカル。今でもヘクトパスカル（hPa）などの物理分野の単位に名を残しています。
第13回	パスカルの賭け	「私たちには、神が何であるかも、果たして存在するかどうかも、知ることができない…だが賭けなければならない」。あなたなら、神の存在、神の不在、どちらに賭けますか？
第14回	サン・テグジュペリ『人間の大地』（1939年）	「１人の痩せたパスカルを生み出すことは、金回りの良い月並みな人間を数名誕生させることよりよほど大事なことだ。」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（ア）毎回、授業にたいするコメントの執筆をお願いいたします。
（イ）（ア）以外で、希望する受講者が授業内容にかんする話題提供を行った場合、積極的な参加態度として加点いたします。指定するLMS（学習支援システム-Hoppiiの掲示板かGoogle Classroomのストリーム＞コメント）に、文章やリンクを貼り付けてください。
（ウ）この授業の準備や復習に必要な学習時間は、提示された資料や映像を検討したり、上記（ア）（イ）を行ったりするのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が履修する授業であるため、一律の時間の長さは掲載しませんが、大学設置基準に鑑みた場合、２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
・教科書を買う必要はありません。
・シラバスの【授業計画】に示されている内容にかんする資料を毎回配布します。
・なお【授業計画】のより詳しい説明を、次のリンク先に置いてあります（Excelファイル）https://x.gd/nmWv1

【参考書】
参考となる映像作品：
パトリス・シェロー監督『王妃マルゴ』1994年。
ジェラール・コルビオ監督『王は踊る』2000年。
エリック・ロメール監督『モード家の一夜』1969年。
ロジェ・ヴァディム監督『ドンファン』1973年。
参考となる音楽作品：
夜の王のコンサート（夜の王のバレエに基づく）※原題"Le Ballet Royal de la Nuit"で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】
（ア）期末試験：実施しない（0%）
（イ）期末レポート：実施しない（0%）
（ウ）コメントシートの提出の有無および質（80%）
※各回10点満点、学習支援システム> テスト/アンケート機能から同じ週の土曜日午前09時00分00秒までに提出
（エ）平常点（20%）
※授業参加者数によるが、座席表に記入してもらうといった形を想定している。
（オ）その他（学生による話題提供、授業運営への協力、講師のミスの指摘を想定）
※（ウ）と（エ）の合計100%の枠外で5～20%の加点を行う。
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。
※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】
・過剰な学習負担とならないよう配慮しています。
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・問い合わせ先や、この授業で扱う範囲（17世紀のヨーロッパ）に関係する画像たちを、次のリンク先に置いておきましたので、ぜひご覧ください（Wordファイル） https://x.gd/cnNQC

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布や学生側からの情報の提示など、さまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上（学習支援システム-Hoppii等）で行ないます。そのため、スマートフォンやタブレット、できればノートパソコンのような、情報端末が必要です。

【その他の重要事項】
※国際文化学部をはじめとする法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部・スポーツ健康学部など多摩キャンパスの学生、情報科学部や生命科学部など小金井キャンパスの学生、外国人留学生や社会人学生の履修を歓迎します。
※千代田区キャンパスコンソの加盟校（大妻女子大学、大妻女子大学短期大学部、共立女子大学、共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生の皆さんの履修を歓迎しています。
※この「フランス語圏の文化Ⅰ（思想）」における使用言語は日本語ですが、文化や社会にかんする内容を扱い、かつ、フランス語の学習を主な目的とする科目に「時事フランス語Ⅰ」（ https://x.gd/pdJmh ）「時事フランス語Ⅱ」（ https://x.gd/Eqqfz ）があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語」の履修をご検討ください。
※現代のヨーロッパ、特にその移民社会としての側面に、興味・関心のある方は、サマーセッションで開講される「教養ゼミⅠ『移民社会』入門～見える国境と見えない国境～（８月上旬）」（ https://x.gd/bp4JW ）やオータムセッションで開講される「教養ゼミⅡ『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界で～（９月中旬）」（ https://x.gd/benIb ）をぜひ履修しましょう。人物や映像作品を軸に、各学部・学科の専門課程で学ぶのとは異なる視点から、いわゆる社会人の教養として求められる、現代の政治・社会・文化にかんする学びを、初学者が体験できるコースになっています。
※国際文化学部の学生で、ヨーロッパの文化的な側面に関心がある方は、大学院国際文化研究科で水２限に開講されている「多言語社会論A」（ https://x.gd/RI11D ）「多言語社会論B」（ https://x.gd/IYbfj ）を履修できます。2025年度は「青の政治学」がテーマです。「青」という色を導きの糸として、言語だけでなく、美術やファッションをふくめた、ヨーロッパ地域における文化と社会のかかわりについて見ていきます。

【Outline (in English)】
[Course outline]

This course offers students an introduction to 17th century French thought, highlighting links with literature, theater, architecture, and science. Students will read excerpts of texts and view films and paintings to get an idea of this historical period that the French often call "The Great Century" (Grand siècle). The 17th century was "great" not only because the Kingdom of France was at the peak of its power under the reign of Louis XIV, but also because philosophers like Blaise Pascal made insightful observations about the tragic nature of the human condition ("Man is only a reed, the weakest in nature; but he is a reed that thinks."). Proficiency in French is not required for this course but written assignments and oral participations in Japanese will be required.

[Learning Objectives]

1. Gain an overview of representative works of French thought and culture of the 16th and 17th centuries through the reading of the texts in each session.
2. Foster the ability to identify, without stereotyping, the themes contained in the characters and works of each text.
3. Develop each student's own ideas about the relationship between power and justice, and between religious fanaticism and violence.

[Learning activities outside of classroom]

(a) No preparation is required.
(b) Students may be asked to write comments on the class.
(c) Students who wish to contribute topics related to the class content other than (b) will receive points for their active participation. Please paste the text or link to the designated LMS (Learning Support System-Hoppii's Discussion Board or Google Classroom's Stream > Comments).
(d) The study time required for preparation and review of this class will be the time needed to study the materials and videos presented and to do (b) and (c) above. Since this is a class for diverse students with different proficiency levels in Japanese and other languages, a uniform length of time will not be specified, but in accordance with the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each 2 credit lecture and seminar should be at least 4 hours per session.

［Grading Criteria］

(a) Final Examination: Not conducted (0%)
(b) Final Report: Not conducted (0%)
(c) Submission and Quality of Comment Sheets (80%)
Each submission is graded on a 10-point scale per session. Comment sheets must be submitted via the Learning Support System > Test/Survey function by 9:00 a.m. on the Saturday of the same week.
(d) Class Participation (20%)
The evaluation method may vary depending on the number of participants. For example, students may be asked to fill in a seating chart.
(e) Others (e.g., student-led topic presentations, cooperation in class management, pointing out instructor's errors)
An additional 5－20%may be awarded beyond the combined total of (c) and (d), which accounts for 100%of the base grade.

ARSa400GA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 400）

地域協力・統合

大中　一彌

配当年次／単位：**2～4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。授業を紹介するショート動画をご覧ください https://youtube.com/shorts/iaK97j-Q6ss 学内には他にもヨーロッパ関連の科目がありますが、これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、高校までの世界史の知識を確かめながら、思想史や文化史に軸足をおきつつ、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、「ヨーロッパとは何か」について学ぶ点にあります。過去と現在を往復しながら、とくにヨーロッパと、その外部とされるものの境界（ボーダー）に焦点をあてつつ、認識をほりさげていきます。

【到達目標】
①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べることができる。
②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
⑤ルネサンス期を特徴づけるユマニスムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
⑥中央集権化やヨーロッパ外における植民地をめぐる争い、「文芸の共和国」の出現など、一連の政治的文化的な変化を背景としつつ、商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる市民的権利にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・この科目「地域協力・統合」は、前年度までの一部学生の要望を受け、2025年度は全面オンラインで実施します。
・授業時間（100分）の前半80分程度は、受講者全体へのフィードバック（15-20分）と講義（50-60分）にあてています。
・授業時間（100分）の後半20分程度を、グループディスカッションにあてています。
・毎回の授業資料はGoogle Classroomや学習支援システム-Hoppiiをつうじて事前に配布しています。
・学習支援システム-Hoppiiを利用し、小テストを受験してもらう場合があります。
・基本的にリアルタイム・オンラインですが、授業内容の録画を、受講者の個人情報の保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニスム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16世紀-17世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ペンらに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 小テストが宿題として出されます（ネット上で受験）
2. 本学学則基準によると、講義や演習で２単位を得るのに必要な予習・復習の時間は１回につき４時間以上とされているそうです。

【テキスト（教科書）】
教科書を買う必要はありません。学習支援システム-Hoppii や Google Classroom上でPDFファイル等のかたちで資料を配布します。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
●１．期末テストは行いません　0%
●２．出席はとりません　0%
●３．小テストの受験【インターネット上において授業時間外に受験するため、体育会や就職活動中の学生、所属キャンパスを問わずすべての学生がオンラインで受験できます（※１）】61%
●４．グループ・ディスカッション＆学生間の共働【グループ・ディスカッションへの参加や、提出する文章の内容のとりまとめ、とりまとめた結果の教員への送信、等（※２）】25%
●５．この科目を履修している学生や履修を検討している学生に対する、この科目の授業内容に関連した動画の提供やプレゼンテーション【あくまで希望者のみ提出です】14%
●６．運営への協力【協力してくれた方に加点しています；たとえば配布資料の誤字や、内容の誤りの指摘。授業参加者間の連絡や情報共有に積極的に取り組んでくれたといった形の運営協力が加点の対象】（※３）
（※１）小テストは授業の復習であり、授業で配るスライドやプリントをみれば、簡単に答えられるやさしい内容です。
（※２）グループ・ディスカッションは、参加者数によりますが、このシラバスを執筆している時点では、Zoomを用いておこなうことを想定しています。Zoomに接続し、他の学生と共に議論に参加していたことがグループが提出した成果物に記載されていれば、確実に加点されます。小テストの得点に上乗せしたい、単位がどうしても必要という学生さんは、ぜひグループ・ディスカッションに継続的に参加しましょう。
（※３）６．は、１．～５．の合計100%には含めず、その外枠で5%程度まで加算する。
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。
※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】
・ヨーロッパの文化史や政治史、経済史についての学びは、大人の教養として経験しておいたほうが良さそうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
・この科目「地域協力・統合」は、高校までの学習内容を確認しながら、大学の学部レベル以上の内容に深めていくという組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。

・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、授業内容のイメージについては、次のリンク先をご覧ください（Wordファイル）https://x.gd/vqmNu

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. In this class, students will examine the question with an emphasis on the history of ideas and culture. Starting with the geographical notion of Europe as a “continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity. She or he will move back and forth between the past and the present, focusing in particular on the ambivalence of the boundaries between Europe and its "others", in order to deepen her or his understanding of the question.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the following:
1) Expressing her or his own views about the geographical spread of "Europe".
2) Relating the notion of "Europe" to the cultural, political, and philosophical legacies of ancient Greece, Hellenism, and Rome, and making an argument at a level appropriate for an undergraduate student.
3) Discussing, at a level appropriate for undergraduate students, the Great Migration of Germanic, Norman, and Slavic peoples and the formation of "Europe", in relation to the history of each country from the time of the collapse of the Western Roman Empire to the 10th century.
4) Explaining the relationship between Western Europe in the Middle Ages, which was formed around Catholicism, and Eastern Europe, which was formed around Orthodoxy, and the expansion of Islam, at a level appropriate for undergraduate students.
5) Describing, at a level appropriate for undergraduate students, the significance of humanism, which characterized the Renaissance, the impact of the so-called "Age of Discovery" on non-European countries, and the redefinition of the relationship between faith and politics resulting from the Reformation.
6) Argueing, both positively and negatively, about the "Eurocentric" consciousness that emerged through the development of commerce under a series of political and cultural changes, including the centralization of power, wars in colonies outside Europe, and the emergence of the "Republic of Letters".
7) Illustrating the significance for modern societies of the development of civil rights-based ideas and institutions with historical events in the United Kingdom, the United States, France, and other European countries at a level appropriate for undergraduate students.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
1) A simple quiz will be given almost every week as homework. Participation in this quiz is mandatory for all students taking the course. In order to answer this quiz, students need to use the learning support system - Hoppii (on the Internet).
2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Based on the following grading methods, students who have achieved at least 60%of the achievement objectives for this class will be considered to have passed the class (C minus or better on a letter grade basis).
1. No final exam will be given. 0%.
2. Attendance will not be taken 0%.
3. Quiz Examination [All students, regardless of their campus affiliation, including athletics and job-seeking students, can take the quiz online because of the use of Hoppii] 61%.
4. Group discussion and collaboration among students [Participation in group discussions, group discussion on Google Classroom, and sending the results to instructors, etc.] 25%.
5. End-of-term report (to be submitted only by those who wish to do so): 14%.

CUA200GA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

国際関係研究Ⅳ

石森　大知

サブタイトル：**家族と結婚の人類学**
配当年次／単位：**1～4年／2単位**
旧科目名：**国際関係研究Ⅶ**
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は、誕生から死ぬまでの間、つねに他者との関係を持ち続ける。あるいは、誕生前の生殖過程および死後の世界においても、人間は人びとを結ぶ関係の網の目に生きているといっても過言ではない。本授業では、とくに家族と結婚をキーワードとして、このような人と人をつなぎ合わせる社会関係およびそれを支える制度や組織について文化人類学的に考察する。

【到達目標】
・文化人類学、とくに家族と結婚に関する基本的な理論や概念を習得する。
・ものごとを幅広い視野から捉えることによって得られる他者理解の洞察力に身に付ける。
・世界の多様な人間の在り方を学び、結婚・親子・家族とは何かについて相対的な視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、随時、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	家族と親族①	核家族普遍説を問う
第3回	家族と親族②	キンドレッドと出自集団
第4回	家族と親族③	母系社会の暮らし
第5回	親子と結婚①	現代における結婚の諸相
第6回	親子と結婚②	親子の絆とは何か
第7回	生殖医療①	生殖技術と現代社会
第8回	生殖医療②	新しい家族の行方
第9回	結婚と社会関係①	インセストタブーの解釈
第10回	結婚と社会関係②	『親族の基本構造』を学ぶ
第11回	ライフサイクル①	子どもから大人へ
第12回	ライフサイクル②	老いることの意味
第13回	ライフサイクル③	この世からあの世へ
第14回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で紹介する文化人類学や社会人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
・本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。
松村圭一郎ほか編『文化人類学の思考法』世界思想社、2019年。
梅屋潔・シンジルト編『新版 文化人類学のレッスン―フィールドからの出発』学陽書房、2017年。
波平恵美子編『文化人類学－カレッジ版（第３版）』医学書院、2011年。
クロード・レヴィ=ストロース『親族の基本構造』福井和美訳、青弓社、2000年。

【成績評価の方法と基準】
学期末レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする（ただし、平常点だけでは合格とはなりません。学期末レポートを提出しなかった場合、E評価になります）。

【学生の意見等からの気づき】
文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムや動画閲覧サービス等を利用します。

【その他の重要事項】
・本授業では授業コメント（リアクションペーパー）や学期末レポートの提出を課しますが、生成AIツールは使用しないでください。
・学期末レポートにおいては、出典の明示を徹底してください（詳細についてはレポート作成要領において説明しますが、出典が明示されていない場合は評価対象外となることがあります）。
・本学では成績評価におけるSの割合を受講者の20％以内を目安とすることを定めており（ただし少人数授業等を除く）、本授業でもこれに従って評価を行います。
・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。
・文部科学省研究振興局において学術調査官（人文学）として職務経験を有する教員が、国家と民族について文化人類学的視点から講義を行います。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course covers the basics of social and cultural anthropology, which seeks to understand cultural and social diversity in the world. We especially focus on the parent-child relations, kinship and marriage to understand social relations which connect people in everyday life.
[Learning Objectives]
The goals of this course are to understand the contemporary meaning of kinship and social relations from anthropological perspective.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

現代社会論Ⅱ

島袋　海理

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火1/Tue.1
その他属性：〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、現代社会における重要なトピックである、ジェンダー／セクシュアリティに関する問題を扱う。ジェンダー／セクシュアリティの視点は、現代社会における日常生活の出来事からマクロな社会問題まで、幅広い課題を考えるツールとなる。本授業では、ジェンダーのみならずセクシュアリティ（第4回）、また性的マイノリティ（第3-5回）についても紹介する。また、生物学（第6回）や教育社会学（第8-10回）、家族社会学（第13回）など、ジェンダー／セクシュアリティをめぐる問題が多様な学問領域を背景にして成立し、時には学問の垣根を越えて展開されてきたことを紹介する。さらに、ジェンダーの関わる問題は日常生活の様々な場面において現れることを示すために、（学校）教育（第8-9回）、大学（第10回）、労働（第11-12回）、結婚・出産（第13回）といった、多くの人々の人生に関わる問題について、ジェンダー／セクシュアリティの観点から考えていく。

【到達目標】
①現代社会をジェンダー／セクシュアリティの観点から捉えることができる
②現代社会におけるジェンダー／セクシュアリティ問題の射程の広さや議論・立場の多様さを理解する
③ジェンダー／セクシュアリティが関わる問題を自分事として考えることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式（対面またはオンライン）を採用する。
第1回目はオリエンテーションとして、授業の目標と内容、計画等を詳述する。
第2回目以降は、以下のように進める。
(1)前回の授業のコメントシートの内容を取り上げ、前回の復習を行う（10-20分）
(2)担当教員から、当該授業回のテーマについてレクチャーを行う（60-70分）
(3)当該授業の内容に関する小課題を提示し、提出する（20分）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要、講義の進め方
第2回	ジェンダーの定義①	< 分類> としてのジェンダー、フェミニズム【教科書はじめに・1章】
第3回	ジェンダーの定義②	インターセックス／性分化疾患、アイデンティティ【教科書2章】
第4回	ジェンダーとセクシュアリティ①	トランスジェンダー、ジェンダー・マイノリティ【教科書3章】
第5回	ジェンダーとセクシュアリティ②	同性愛者・両性愛者、セクシュアル・マイノリティ【教科書4章】
第6回	生物学とジェンダー／セクシュアリティ	性差と性役割、生物学のジェンダー的偏見【教科書5・6章】
第7回	中間試験	前半で扱った内容について問う試験
第8回	教育とジェンダー	進路の性差、学校文化とジェンダー【教科書7章】
第9回	教育とセクシュアリティ	青少年の性行動、性教育と家族・国家【教科書8章】
第10回	性暴力／ハラスメントと大学	被害者と加害者の視点、ハラスメント【教科書9・10章】
第11回	仕事とジェンダー	「女性優遇」、男女間の賃金格差【教科書11章】
第12回	仕事とセクシュアリティ	性別役割分業、マタニティ・ハラスメント【教科書12章】
第13回	結婚・出産とジェンダー／セクシュアリティ	母性愛神話、リプロダクティブ・ヘルス&ライツ【教科書13章】
第14回	期末試験	後半で扱った内容を中心に問う試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習としては、次回授業のテーマが扱われている教科書の章を事前に講読し、授業テーマについて予習することが求められる（1時間）。本講義は教科書の予習を必須としているため、教科書の事前講読がない場合、授業についていけなくなる可能性がある。また、担当教員が指定するテーマやキーワードについて調べたり、近年起こった事件について調べてもらったりすることが求められる（1時間）。復習としては、授業で取り上げた内容についての振り返りが必要である（1時間）。さらに、授業で紹介した参考書を講読したり関連する新聞記事を読んだりすることを通じて、当該テーマについて考える時間が必要である（1時間）。

【テキスト（教科書）】
加藤秀一，2017，『はじめてのジェンダー論』有斐閣.
※本講義は予習必須である。受講生は第2回目以降の授業に臨むにあたって、事前に教科書の指定された範囲を講読する必要がある。講義では教科書の内容についても触れるが、教科書を講読したことを前提に発展的な内容を扱うため、予習をしなければ授業についていけなくなる可能性がある。

【参考書】
＜新書＞
大越愛子『フェミニズム入門』筑摩書房、1996年 [ISBN: 4480056629]
若桑みどり『お姫様とジェンダー：アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』筑摩書房、2003年 [ISBN: 9784480061157]
森山至貴『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』筑摩書房、2017年 [ISBN: 9784480069436]
清水晶子『フェミニズムって何ですか？』文藝春秋、2022年 [ISBN: 9784166613618]
周司あきら・高井ゆと里『トランスジェンダー入門』集英社、2023 [ISBN: 9784087212747]
デボラ・キャメロン『はじめてのフェミニズム』筑摩書房、2023年 [ISBN: 9784480684622]
＜入門書・教科書＞
加藤秀一『知らないと恥ずかしいジェンダー入門』朝日新聞出版、2006年 [ISBN: 9784023303737]
千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』有斐閣、2013年 [ISBN: 9784641177161]
風間孝・河口和也・守如子・赤枝香奈子『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』法律文化社、2018年 [ISBN: 9784589039705]
石田仁『はじめて学ぶLGBT：基礎からトレンドまで』ナツメ社、2019年 [ISBN: 9784816365829]
新ヶ江章友『クィア・アクティビズム：はじめて学ぶ< クィア・スタディーズ> 』花伝社、2022年 [ISBN: 9784763420022]
三橋順子『これからの時代を生き抜くためのジェンダー＆ セクシュアリティ論入門』辰巳出版、2023年 [ISBN: 9784777829484]
池田緑『ジェンダーの考え方：権力とポジショナリティから考える入門書』青弓社、2024年 [ISBN: 9784787235497]
上掲以外の参考文献については、適宜授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパー・小課題の内容：40%
＊コメントペーパーは、毎回の授業内容に関する小課題が含まれる。
＊①小課題の内容を理解した上で記述できているか、②授業で紹介した基本概念や語句を援用して説明できているか、③自分と身近な問題と関連して記述できているか、という3つの観点から評価する。
筆記試験：中間20%、期末40%

＊概念や語句を問う問題と、論述問題で構成される。
＊①授業で紹介した基本概念や語句の意味を理解しているか、②設問の意図を理解したうえで論述できているか、③ジェンダー／セクシュアリティの観点を援用して論述できているか、という3つの観点から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
2回目以降の授業の冒頭にて、前回の授業で提出されたコメントシートへのフィードバックを行い、受講生との対話の機会を確保する。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインに接続可能なデバイス（パソコン、スマートフォン、タブレット端末等）：出欠をオンラインで確認するため（ただし、やむを得ない事情に応じて、紙による提出も認める）。

【その他の重要事項】
・本授業では、教科書の予習を求める。授業は教科書を読んでいることを前提に発展的な内容を取り扱うため、読まずに参加した場合、授業についていけなくなる可能性が高い。
・授業ではからかいやいじめ、差別や暴力、性的な描写や話題について扱うことがある。そうした際は事前に告知するが、授業の途中で居心地が悪くなったりいたたまれなくなった場合、また気分が悪くなった場合には、担当教員の許可なしに離席しても構わない。その他、配慮を求める場合は遠慮なく申し出て欲しい。

【Outline (in English)】
Course Outline: This course will address issues related to gender/sexuality, an important topic in contemporary society. By acquiring a perspective on gender/sexuality, students will acquire the tools to think about a wide range of issues in contemporary society, from everyday life events to macro social problems.
Learning Objectivities: (1) View contemporary society from the perspective of gender/sexuality, (2) understand the wide scope of gender/sexuality issues in contemporary society, and (3) consider issues related to gender/sexuality as one's own personal matter
Learning Activities outside of Classroom: Students are required to read the relevant textbook chapter before class. After class, they are expected to read suggested references and explore articles related to the class theme.
Grading Criteria/Policy: Comment Papers and Short Assignments (40%), Written Exams (60%): Midterm (20%) and Final (40%)

SSS300HA（社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 300）

災害政策論

中川　和之

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
備考（履修条件等）：環ｺｱ：ロ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史時代から現代まで繰り返されてきた災害から多くの経験を学び、人々の悔しさに共感したうえで、法制度以前の自然環境を利用するための約束事や、災害経験に基づいて作られて来た災害政策を学び、その狙いと達成度を理解する。
そして、多くの学生たちが直面することになる南海トラフや首都直下の地震、スーパー台風の被災を最小限に留め、この日本で幸せに暮らすために必要な災害政策のあり方を共に考え、これから行政職員や教育者、企業人、社会人となるものとして、なすべきことを深く考える。

【到達目標】
①災害とは何かを、実例から学んで理解する。②現状の政策の背景と発展の経緯、残る課題を理解する。③非日常を前提には生きていない人々の暮らしと、今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを見出し、今後の社会での実践につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は豊富な映像記録などを使って、過去から現代までの災害の実像を紹介。災害対応と経験を踏まえて作られて来た災害政策・制度を、講師の実体験やインタビュー結果から深く学び、これまで得てきた常識を疑うことができる知識を身につけられるように進める。これらの学びを、毎回短いレポートとしてWebClassで提出する。次の授業の冒頭にレポート内容を振り返り、問題意識を共有して進める。1回目の授業では、災害対策の悩ましさを理解するためのゲームを行い、その後も自ら考えるワークシートやグループディスカッションなども行って学びを深める。課題提出後の授業、またはWebClassで提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション。講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明	災害とは何か？　災害から守るべきこととは何か、なぜ災害政策が求められるのか、歴史も踏まえて概説。なぜ失敗が繰り返され、「想定外」という言葉で語られてしまうのか。講師からの問題意識を投げかけるとともに、最後に災害時に向き合うジレンマを実感する行政職員の実体験を元にしたゲーム「クロスロード」も体験し、社会での役割りに応じて災害に備えておくことの意義を考える。
第2回	自然現象と災害＝社会的な制度を考える前提としての理科１	地球の46億年の歴史の中では新参者である日本列島。肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象＝人がいたら災害と言われる現象によって形づくられている。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのかのベースを、具体的な地震の事例などを元に押さえる。授業中に、学生の出身地や身近な場所についての簡単なワークシートに記入する。
第3回	身近な景観と災害＝理科２	前回の授業課題で作成したワークシートを元に、学生同士で相互プレゼンを行い、グループで語りあうことから始める。授業では、さまざまなWebGISの地図から、どのようなことが読み解けるかを知る。ＧＷ期間中に取り組む、地元の土地の成り立ちを知るレポートの課題についての説明も行う。この課題は、最後のレポートにも必須となる。
第4回	３つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災前まで	歴史時代以前からの人類と災害の付き合いから、江戸時代、明治時代、大正昭和と日本列島の災害史とともに、対策について振り返る。そして、その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。その後、教訓で作られた災害の政策が、どのぐらい浸透しているのかを確認し、なぜ、教訓が活かされていないかを考える。まず、関東大震災、伊勢湾台風と1995年の阪神大震災の直前までを取り上げる。
第5回	３つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災とその後	日本の災害対策を大きく変えた阪神大震災とはどんな災害だったのか。改めて当時の映像などを紹介し、起きたことを振り返る。その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。を考える。その後、東日本大震災直前まで積み重ねられてきた災害対策について確認する。
第6回	３つの大震災と伊勢湾台風＝東日本大震災	東北地方太平洋沖地震は、どうして東日本大震災という大災害になってしまったのか。すべてが「想定外」だったのか、どういう備えが足りずに被害が拡大したのかなどを振り返る。また、当時の自らの体験・行動を振り返り、共有をする時間も持つ。
第7回	東日本大震災後の災害政策の今＝これからの備え＝「己」がどこまで分かった政策なのかを考える	南海トラフの地震や想定首都直下地震、巨大化する台風など、今後経験させられる可能性がある自然災害が、政府や専門家がどう想定しているかを知る。東日本大震災後になって、基本法に不可欠な理念が加わった災害対策基本法の大改正など、災害の政策が、どのぐらい浸透しているのかを確認し、まだ整理されていない課題は何か、災害を想定した私権制限はどこまで許容されるのかなどを考える。

第8回	近年の火山噴火災害から、課題を考える	登山シーズンの日中という最悪のタイミングで極小規模な水蒸気噴火をした御嶽山、警戒していた地点と異なる場所から噴火して犠牲者を出した草津・本白根の噴火、観測史上初めての小規模な噴火が起きた箱根山、危険な火砕流が発生しながら避難しきった口之永良部島、噴火現象は起きなかったが大量のマグマが地表付近まで貫入した桜島。ここ数年の噴火災害に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。
第9回	近年の地震災害から、課題を考える	2024年能登半島地震、令和4年福島県沖の地震、2019年山形県沖地震、2018年北海道胆振東部地震、大阪北部地震、2016年熊本地震など、近年の地震災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、2度の震度7に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に具体的に考える。
第10回	近年の風水害から、課題を考える	地震の後の豪雨という複合災害となった奥能登、令和4年台風第8号、令和2年7月豪雨、2020年7月豪雨や台風10号、2019年台風15号や19号(東日本台風)、2018年西日本豪雨や台風21号、2017年九州北部豪雨や2016年台風10号、2015年9月関東・東北豪雨などの豪雨災害・台風災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、洪水に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。
第11回	災害報道・災害情報	かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNSなどの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体がいざというときに情報を共有する新しいシステムの現状などについても学ぶ。最終講義での試験に必要な「地域防災計画の課題発見」レポートについても説明を行う。
第12回	市民防災・ボランティア	この国で避けられない自然災害を前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。自主防災組織の過去の経緯や現状を知り、ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力を鍵に、ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割もともに考える。
第13回	災害と恵み・防災教育・ジオパーク	自然には恩恵と災害の二面性がある。恐怖の訴求だけでは、継続して災害への備えを続ける意欲を持ち続けるのは難しい。大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。自分の地域が嫌いになったり考えたくなくなる脅しの防災の限界を見据え、防災教育やジオパークなどの活動の現状を知ることで、危険性だけを強調するのではなく、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。
第14回	試験レポート	「地域防災計画の課題発見」のレポートを元に、授業時間中に試験（レポート）を書いてもらう。これまでの授業資料やワークシートの持ち込みや、その場でスマホやPC、何でも持ち込んでもＯＫ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習をし、次週のテーマを元に、関連する情報をインターネットや関連資料などを基に予習をすること。この授業を受ける以上、日ごろから災害に関連する情報やニュースに関心を持っておいて欲しい。期間中にあった災害についても授業内で取り上げていく。授業時間以外で、自らの出身地などの災害に関連したワークシートやレポートを、WebClassも活用して提出が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。課題レポートでは学生自身でのフィールドワークも推奨される。

【テキスト（教科書）】
授業で使うプレゼン資料は、毎回の授業前、WebClassに掲載する。

【参考書】
授業の中でも課題とするが、自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画（その地域で地区防災計画があればそれも）は必須。内閣府の防災情報のページや被災自治体のホームページから学ぶものは多い。

【成績評価の方法と基準】
平常評価（WebClassでのテスト・アンケートを使った小レポートで授業内容の理解を評価）40％、授業中の課題ワークシート・レポート評価20％、期末試験（試験レポート）評価40％。

【学生の意見等からの気づき】
災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」を実施するほか、学生同士でのディスカッションの時間を持ちたい。また毎回のリアクションペーパーを活用し、問題意識が共有できないまま進まないようにしたい。できるだけ、映像資料を豊富に使い、具体的に災害をイメージしてもらうことを意識する。

【学生が準備すべき機器他】
WebClassの利用は必須。講義室でPCやスマホを使って、その場でWebClassからの小リポートの提出を求める。試験課題などもWebClassを利用する。

【その他の重要事項】
試験レポートの作成時には、時間内であればどういう資料を参考に書いても良い。

【実務経験のある教員による授業】
通信社記者として、1984年の長野県西部地震や1995年の阪神大震災などを取材。2005年から2011年まで主に自治体の防災施策を支援するメディアの「防災リスクマネジメントWeb」編集長。取材していた災害救助法の制度見直しに、厚生省の関係委員会の委員として関与した以降、政府や自治体で災害法制度を見直すための委員会委員などを務め、災害対応に当たった市町村長らの悩みを聞き取って共有するお手伝いをするなど、災害政策の現場における課題解決に取り組む。現在は内閣府の「TEAM防災ジャパン」のアドバイザー。子どもたちと地震や火山を学ぶワークキャンプを、地震学会として20世紀から実践。災害をもたらす大地の営みの恩恵も理解するプログラムのジオパークの審査員を10年以上担当。これらの経験を踏まえ、現実としての災害政策のあるべき姿を、受講者の学生と共に考えていきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
1.To learn about the major disaster of Japan,and sympathize with a victim of disaster.
2.To learn the disaster prevention and mitigation policy that was made based on past disaster experience from the past to the present,and understand its aim and achievement degree.
3.Many students will face the Nankai Trough Earthquake,and inland earthquakes such as the Tokyo metropolitan earthquake, and the super typhoons. College students, who will be government officials, teachers, business people, and households, will consider what disaster policies are needed to minimize the damage of future disasters.
【Learning Objectives】
1. Understand what a disaster is by learning from actual examples.
2. Understand the background and development of current policies and the remaining issues.
To think about the ideal form of national and local disaster policies in the future.
4. To discover how to apply their own expertise as a party in Japan, a disaster-prone country, and put it into practice in society in the future.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to review the materials introduced in each lecture and prepare for the next week's topic using the Internet and related materials. As you take this class, I would like you to be interested in information and news related to disasters on a daily basis. Disasters that occurred during this period will also be discussed in class. Outside of class time, students will be asked to submit worksheets and reports related to disasters in their respective regions using the learning support system. The estimated time for preparation and review for this class is 2 hours each. In addition, it is recommended that students conduct their own fieldwork for the assigned reports.
【Grading Criteria /Policy】
Normal evaluation (evaluation of understanding of class content through tests and reaction papers on the learning support system): 40%, worksheets and reports for in-class assignments: 20%, final exam (exam report): 40%.

PSY300MA（心理学 / Psychology 300）

産業・組織心理学Ⅱ　展開科目

今城　志保

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
曜日・時限：**金**1/Fri.1　｜　配当年次：**2025年度以降入学者：3〜42024年度以前入学者：2〜4年**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の３点です。
（1）産業・組織心理学の主要的な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を考えられるようになること
（2）組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
（3）自らのキャリアを考える上で、学んだ概念を用いることができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行われます。授業の中で、オンラインのアンケートフォームを用いて、概念の確認や自分の考えを深めるために、数項目の質問に回答していただきます。回答内容については、適宜次回の授業の中で、フィードバックを行います。また、アンケートフォームでは任意の質問を記入できますので、そこに質問が記入された場合は、翌授業回の冒頭に、全体に対して回答を行います。
7回目か8回目の授業で、グループ課題をおしらせします。グループ課題は、原則授業外の時間を使って進めていただきます。最終日に、グループ課題をまとめたレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第2回	キャリアを理解する①	キャリアに関する主な理論を学びます
第3回	キャリアを理解する②	日本企業のホワイトカラーのこれまでの典型的なキャリアと今後の可能性について考えます
第4回	組織風土を理解する①	組織風土と組織文化について紹介します
第5回	組織風土を理解する②	昨今関心が高まる心理的安全性について紹介します
第6回	ダイバーシティ①	ダイバーシティに関する理論や研究知見を紹介します
第7回	ダイバーシティ②	比較文化心理学の知見を用いて、文化の異なる人とともに働くことについて考えます
第8回	ダイバーシティ③	女性のキャリアについて考えます
第9回	ダイバーシティ④	高齢者就労について考えます
第10回	職場の学習・職場以外の学習①	大人の学びについて考えます
第11回	職場の学習・職場以外の学習②	企業における研修や能力開発について、紹介します
第12回	職場の学習・職場以外の学習③	経験学習について考えます
第13回	予備	上記の授業での積み残しや遅れを回収するための時間にあてます
第14回	グループ課題の発表	各グループから口頭で、グループ課題について、報告していただきます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」こと、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません

【参考書】
金井壽宏　働くひとのためのキャリア・デザイン　2002年 PHP新書
守島基博　人材マネジメント入門　2004年　日経文庫
外島　裕・田中　堅一郎　産業・組織心理学エッセンシャルズ　2019　ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業中のアンケートで60％，グループ課題で作成したレポートとその発表の評価を40％とします。なお，グループ課題については，自身と他のメンバーの課題への貢献度合いを申告してもらい，それを加味したうえで、グループ課題の評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline (in English)】
Students will study major topics in industrial/organizational psychology. Psychology II will focus specifically on career-related areas and human resource management.
The three objectives of this class are as follows.
(1) To understand the main concepts of industrial/organizational psychology and to be able to think about various organizational problems using these concepts.
(2) To be able to understand the impact of various HR practices on employees.
(3) To be able to use the concepts learned in considering one's own career.
Take an interest in the environment surrounding our careers. Read widely newspaper and magazine articles on careers,"working,"and"human resource management."Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
The evaluation will be based on a questionnaire given in each class (60%) and a report and presentation on a group assignment (40%). For group assignments, I will ask each student to report the degree of their own and
other members' contribution to the assignment, which will be taken into account in the evaluation of the group assignment.

MAN300MA（経営学 / Management 300）

キャリア開発論

展開科目

武石　惠美子

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
曜日・時限：**水**2/Wed.2　｜　配当年次：**2025年度以降入学者：3～42024年度以前入学者：2～4年**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経済社会や企業の雇用システムの構造変化の下で、個人のビジネスキャリアがどのように開発・形成されているのかを考察していきます。
今、社会は大きく変化しています。「人生100年時代」というように長寿化によりキャリアを考える期間は長期化し、同時に、人口構造の変化、デジタル化など社会の変動は大きく予測が難しくなっており、ビジネスキャリアのあり方も変化しています。個人のビジネスキャリア開発を社会構造、雇用システムとの関連においてとらえ直す必然性が高まっているといえます。
本授業では、キャリア開発にかかわる理論的な枠組みを踏まえ、キャリア開発の現状や課題をとらえる視点、方法論を学びます。近年話題のトピックである、「キャリア自律」、「ダイバーシティマネジメント」、「ワークキャリアとライフキャリアのバランス」などを重点的に取り上げます。

【到達目標】
本授業では、①ビジネスキャリア開発に関する基礎的な理論や知識の習得と、②キャリア開発が経済社会および企業の人事管理と関連し変化することの理解を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、ビジネスキャリア開発に関連して、理論等の概説や講義を中心に進めます。
適宜ミニレポート等を書いてもらい、それによって出席を確認します。このミニレポートの内容は、次回の授業において、全体に対してフィードバックを行います。
この授業で使用する資料等は、「学習支援システム」において事前に提供します。授業に出席する際には、この資料を準備して出席することが必須要件です。また、欠席した場合などは、必ず資料を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、キャリア開発概論	授業のオリエンテーション、キャリア開発概論
2	キャリア開発とは何か	ビジネスキャリア開発の現状
3	キャリア開発の主体	キャリア開発の主体は企業か個人か、キャリア開発の主体についての考え方を整理する。
4	経営環境とキャリア開発の変化	日本のキャリア開発や働き方の現状、その背景にある日本的雇用システムとその変化の動向
5	キャリア自律	キャリア自律の考え方とキャリア政策の概要
6	ダイバーシティ経営	キャリア開発を取り巻く重要な経営動向であるダイバーシティ・マネジメント
7	正社員の多元化とキャリア開発	正社員の働き方の現状、多元化の動向、勤務地政策の現状
8	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワークキャリアとライフキャリアの調和の問題、働き方改革の現状や課題
9	女性のキャリア開発	女性のキャリアをめぐる課題、政策
10	育児期のキャリア開発	育児と仕事の両立、育児期の男女のキャリア開発の課題
11	介護責任とキャリア開発	介護と仕事の両立、育児との違い、病気治療との両立も含めて議論
12	非正規労働者のキャリア開発	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題
13	職場の問題への対処	ブラック企業、ハラスメントなど職場の問題への対処のあり方
14	総括	講義の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業では、テキストに加えて、パワーポイント資料を使います。資料は学習支援システムを通じて事前に提供するので、それを必ず準備して出席してください。そうしないと授業のスピードについてこられません。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う（第2版）』（中央経済社）です。テキストを参照しながら授業を進めます。

【参考書】
それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、適宜参考文献を紹介します。関心のあるテーマがあれば、是非読んでください。

【成績評価の方法と基準】
評価は、期末試験結果60％と、平常点（授業への参加、ミニレポートの提出やその内容）40％で行います。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の人数にもよりますが、受講者が主体的に参加できるように討議等の時間を取りたいと思います。また、受講者からの質問は歓迎しますので、積極的に質問してください。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
【Course outline】 This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will learn how the circumstances surrounding careers are changing amid changes in the economy and society. This course covers such topics as career self-reliance, the diversity management, and work/life balance.
【Learning Objectives】 The goal of this course is to acquire basic theories and knowledge about business career development, and to understand how career development changes in relation to economic society and corporate personnel management.
【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination(60%) and in-class contribution(40%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-

武石　惠美子、佐藤　厚

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
曜日・時限：**火4**/Tue.4　｜　配当年次：**2〜4年**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍するユニオン(労働組合）リーダーをゲスト講師としてお招きし、働くことに伴う様々な課題や課題解決のための労働組合の活動などについて、働く側の目線で事例を交えながら講義していただき、受講者からの質疑により理解を深めます。

講義は、働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、具体的な企業情報や業界情報を交えながら行います。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどのような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。

学生の間に、働く現場のリアルで最新の情報を聞けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】

働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。
企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。質疑にあたっては、適宜、グループワークを取り入れる予定です。

授業の進め方やレポートに関する説明は第1回目の授業で行いますので、受講を考えている学生は、第1回目授業を必ず受講をしてください。

ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。

授業で使用する資料等は、学習支援システムにおいて、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認し、資料を準備して授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。なお、若手組合員とのグループディスカッションも可能な範囲で組み込む予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	【オリエンテーション】 労働組合とは何か	担当教員から授業の導入を行い、「労働組合とは何か」を理解する
2	【開講の辞】 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと 【課題提起①】 「働くこと」について考える〜労働組合の役割と意義〜	【開講の辞】 連合寄付講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいことは何かを理解してもらう。 【課題提起①】 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学び、労働組合がめざす社会のイメージを掴んでもらう。 （2024年度ゲストは教育文化協会）
3	【ケーススタディ①】 労働時間の短縮に向けた取り組み	働く者が健康で安心して暮らすために、労働組合はどのように取り組んでいるのか。長時間労働の是正や休暇取得の促進など、労働時間の短縮に向けた取り組み事例を聴き、理解してもらう。近年導入の進んでいるテレワークに関する事例にも触れてもらう。（2024年度ゲストは生保労連）
4	【ケーススタディ②】 公務労働の現状と公共サービスの役割	「安定した職場」と言われる公務員の働き方の現状はどうなっているのか。公務職場の現状・課題と良質な公共サービス（新しい公共）の実現に向けた公務労組の取り組み事例を聴き、理解してもらう。（2024度ゲストは自治労）
5	【ケーススタディ③】 雇用と生活を守る取り組み	技術革新やグローバル化が進む中、労働組合はどのように働く者の雇用と生活を守るのか。企業組織再編や倒産時などにおける中小企業労組の取り組み事例、ものづくり産業における熟練技能継承支援の取り組み事例、外国人労働者を取り巻く実情等を聴き、理解してもらう。 （2024年度ゲストはJAM。若手職員含めたグループディスカッションを実施）
6	【ケーススタディ④】 非正規雇用労働者の組織化と処遇改善に向けた取り組み	なぜ、非正規雇用労働者の組織化や処遇改善が必要なのか。企業別労組における非正規雇用労働者の労働組合加入および正規雇用労働者との処遇格差是正に向けた取り組み事例を聴き、考えてもらう。（2024年度ゲストは伊藤ハム労働組合）
7	【ケーススタディ⑤】 男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み	男女がともに活き活きと働き続けるための課題や具体策とは何か。職場の環境改善や当該課題の解決に取り組む労働組合役員から話を聴き、考えてもらう。 （2024年度ゲストはJP労組）
8	【ケーススタディ⑥】 デジタル化の進展に伴う課題と労働組合の役割	AI技術やDXの進展に伴う働き者への影響と、それに対して労働組合ではどのような対応が行われているのかを聞き、デジタル化が進展する中で働くということについて考えてもらう。 （2024年度ゲストはKDDI労働組合）。

9	【課題への対応①】 カスタマー・ハラスメントへの労働組合の対応	顧客からの悪質なクレーム（カスタマー・ハラスメント）が社会課題化する中で、現場の実態と、労働組合の対応について、法制化に向けた流れも含めた取り組みを聴き、理解してもらう。（2024年度ゲストはUAゼンセン）
10	【課題への対応②】 いま働く現場で何が起きているのか ～労働相談からみた若者雇用の現状～	若者に関わる労働相談事例等からいま職場で起きている問題を身近なものとして捉えてもらうとともに、それらの解決に向けた労働組合の役割とワークルールの重要性について理解してもらう。（2024年度ゲストは中央労働相談センター）
11	【課題への対応③】 労働諸条件の維持・向上に向けた取り組み	労働組合は、働く者の労働条件の維持・向上に向けて、どのように取り組んでいるのか。なかでも代表的な取り組みとして挙げられる「春闘」は、なぜ同時期に全国一斉に行うのか。連合の取り組みを聴き、学生に理解してもらう。（2024年度ゲストは連合（労働条件・中小地域対策局））
12	【課題への対応④】 労働者保護ルールの堅持・強化に向けた取り組み	働く者を守るために、労働組合は法改正や制度改正にどのように関わっているのか。働く者の健康確保や安全確保の強化や、雇用形態に関わらずすべての働く者の雇用安定・処遇改善に向けた取り組みを聴き、理解してもらう。（2024年度ゲストは連合（労働法制局））
13	【修了講義】 連合運動の現在と未来 ～これから社会へ出る皆さんへ～	すべての働く者が安心してくらすことができる社会の実現に向けて、連合・労働組合は何をすべきか。連合の課題認識を聴いて、これからの社会や働き方、連合運動の役割について具体的に考えてもらう。（2024年度ゲストは連合事務局）
14	【論点整理】 「働くということ」と労働組合	担当教員が、ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回授業時に全14回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（コメント内容含む）が50％、レポートが50％。
毎回の授業への積極的な参加を重視する。

【学生の意見等からの気づき】
労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

【その他の重要事項】
授業の予定はゲスト講師との調整により、テーマ内容の変更や順番の入れ替え等が発生する可能性があります。大きな変更は予定していませんが、最初の授業で詳細な予定を提示しますのでご了承ください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class is a donation course sponsored by the Union (Japan Trade Union Confederation) and the Education and Culture Association. Each time, we invite labor union officials who are active on the front lines of the workplace as guest lecturers to give lectures on the activities of the labor union with examples. Lectures will be given with company information and industry information, such as finding the meaning of work, improving the working environment and working conditions, and making colleagues in the workplace. In the changing work environment, the career design of workers is also shaking. What difficulties do the people working in it have, and what role does the union play? We will think together while listening to the stories of labor union officials from various positions.
【Learning Objectives】
Students are expected to understand deeply the changes in the workplace and the issues involved in working in a safe and secure environment.
They are also expected to acquire practical knowledge of companies and industries, labor laws, and social support.
【Learning activities outside of classroom】
A total of 14 lecture outlines will be distributed at the time of the first class. Use it to do some preliminary research on companies, industries, and trade unions. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
In-class contributions (including comments): 50%
Term-end report: 50%.

CAR300MA（キャリア教育 / Career education 300）

就業応用力養成Ⅰ

鈴木　美伸

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
曜日・時限：**水**3/Wed.3　｜　配当年次：**3～4年**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必須の知見（アカデミックスキル）を確認し、社会への応用力に発展させる時期です。
この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践知の理解・修得・発揮を目指します。
企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。
＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。
つまり、就職力は就業応用力の一部(発揮）ともいえます。

【到達目標】
修得すべき７つのチカラ
１．社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
　⇒組織を効率よく運営参画するスキル
　⇒社会規範となる倫理観
２．他者を説得できるロジカルシンキング
　⇒データの収集（質問票調査）を行う定量調査スキル
　⇒フィールドワークによる定性調査スキル
　⇒定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
３．他者を動かすコミュニケーション力
　⇒共感・質問・提言する個別対人スキル
　⇒カウンセリング・コーチング・コンサルティング
４．組織を動かすコミュニケーション力
　⇒社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
　⇒チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
５．組織を活性化するリーダーシップ
　⇒モチベーション・マネジメント
　⇒４つの状況対応型リーダーシップ
６．社会で未知の道を拓くチカラ
　⇒キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
　⇒自分自身の２０代のキャリアプランの作成
７．社会を生き抜くための実践知
　⇒暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
　⇒メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。
ＰＢＬ（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。
履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（レポート＆プレゼンテーション）を行います。
公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。
授業では毎回提出のリアクションペーパーを、次回授業でフィードバックします。
＊受講者の学習進捗状況とゲスト講師の都合で、授業順が変更になることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 ・各学部のアイデンティティ ・就業力とは ・学生と企業の認識差 ・社会で求められる力
2	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とは メタ認知とパラ認知の理解	グループディスカッション ・データの見方 ・討議の手法 ・ブレーンストーミング
3	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 ・作文と論文の違い ・ビジネス文書作成 ・エントリーシート解析
4	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	・ビジネスマナー ・報連相の重要点 ・トラブル対処力 ・顧客満足向上とは
5	ビジネス事例研究－１ 半導体業界 世界を制した経営者	起業家精神 ・ベンチャー企業経営 ・株主重視経営 ・資金調達力
6	ビジネス事例研究－２ 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	大企業経営 ・グローバル企業経営 ・提案力の構造 ・世界で通用する力
7	社会人ケーススタディ－１ 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	働き方の進化 ・大学と仕事の関係 ・企業と個人の関係 ・コンサルティング
8	食品関連業界事例研究 世界に通用するBtoB技術 知られざる世界一の優良企業	企業進化論 ・百年企業 ・最先端技術力 ・ビジネスプレゼンテーション
9	文房具旅行用品業界事例研究 モノヅクリの魅力 企業提案ワークショップ	中小企業経営 ・大企業との差別化 ・商品企画力 ・プレゼンテーション
10	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－１ 企業からの課題提示	・市場調査 ・新商品開発（マーケティング） ・チーム別ワークショップ
11	社会人ケーススタディ－２ 20代のキャリア形成 副業・兼業・越境学習 コンサルティング業界とは	新しい就労形態 ・パラレルキャリア ・進路の意志決定 ・大学生活とビジネスの接続
12	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－２ 課題討議	授業協力企業からの課題 ・ビジネスマナー ・ヒアリングスキル ・課題発見力

13	金融業界事例研究 地方創生事業の実際 六次産業への挑戦	金融機関の底力 ・起業家行動の支援 ・全国ネットワークの活用 ・中小企業診断士の力
14	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－３ 課題発表	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
＊事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。
但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】
授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績配点
・受講態度（発言数・発言内容）　⇒３０点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒３０点
・授業期間中レポート　⇒２０点
・期末レポート　⇒２０点
総合評点が６０点以上を合格とします。
（欠席が３回以上の者は成績評価対象外）
＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】
他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。
特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート＆プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立ったとのことです。

【学生が準備すべき機器他】
特にありませんが、学習支援システムを活用します。
レポート＆プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。
ＰＣは大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】
法政大学のテーマである「実践知育成授業」を目指します。
＊ゲスト招聘者・企業は、先方の都合により変更になる場合があります。
＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
　楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。
▼実務経験のある教員による授業
担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】
The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.
I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.
・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.
・ It is effective if you have a background in statistics and social research.
* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.
However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
Grade score
・ Attendance attitude (number of remarks /content of remarks /contribution in group work) ⇒ 30 points
・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points
・Report during class period ⇒20 points
・ Term-end report ⇒ 20 points
A passing score of 60 or higher is considered as a pass.
(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)
* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

CAR300MA（キャリア教育 / Career education 300）

就業応用力養成Ⅱ

鈴木　美伸

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
曜日・時限：**水**3/Wed.3　｜　配当年次：**3〜4年**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組みます。
未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。
同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。
アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対処、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。
＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。
つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】
どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の８つの力を修得します。
１．事実をベースに語る提言力　（事実と意見を峻別する）
２．３つの分析手法力　（時間・空間・実験分析）
３．知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
４．問題解決の視点力　（What? Why? How?）
５．構造分析の要素考察力
６．マクロとミクロの視点を統合力　（定量と定性調査力）
７．一次情報に触れる取材力　（但、百聞一見を盲信しない）
８．上記のスキルを統合・応用する力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。
ＰＢＬ（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。
履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション＆レポート）を行います。
公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。
授業では毎回提出のリアクションペーパーを、次回授業でフィードバックします。
＊受講者の学習進捗状況とゲスト講師の都合で、授業順が変更になることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アカデミックスキル 大学生で学ぶべきチカラ 大学を使い倒すために	８つのアカデミックスキルの具体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデミックスキルで分析する
2	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 共感・質問・提案	応談スキル ・カウンセリング ・コーチング ・コンサルティング
3	法政大学と実践知 自由を生き抜くとはどういう意味か？ 組織を動かすには （ビデオ教材使用）	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
4	ライフスタイル研究－１ 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ ２１世紀の生き方へ	社会人講話と質疑応答 ・20代、30代、40代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
5	ライフスタイル研究－２ パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
6	情報分析力グループワーク マスコミ情報の分析理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解
7	課題レポート＆プレゼンテーション－１ 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法
8	ライフスタイル研究－３ 社会課題解決のキャリアモデル 夢を形にして社会課題に取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
9	マーケティングスキルによる構造分析 グローバルビジネス企画 語学力と提案力 （ビデオ教材）	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
10	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－１ 広告代理店の事例 大学をプロデュースするには	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
11	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－２ 学生目線が採用担当者を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
12	人生の３つのカーブ 文献・統計・フィールドワークのデータ	世代別の課題 ・Ｊ字カーブ（20代） ・M字カーブ（30代） ・Ｘ字カーブ（40代）
13	課題レポート＆プレゼンテーション－２ 法政大学の実践知とは	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評
14	授業総括 課題発表ふりかえり	アカデミックスキル確認 ・受講生講評・プレゼンテーション力 ・課題確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
＊春学期「就業応用力養成Ｉ」の履修が望ましいですが、

事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。
但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】
授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績配点
・受講態度（発言数・発言内容）　⇒３０点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒３０点
・グループワークでの貢献度　⇒２０点
・期末レポート　⇒２０点
総合評点が６０点以上を合格とします。
（欠席が３回以上の者は成績評価対象外）
＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】
他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。
特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート＆プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立ったとのことです。

【学生が準備すべき機器他】
特にありませんが、学習支援システムを活用します。
レポート＆プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。
大学用意のＰＣを理由すれば結構です。

【その他の重要事項】
法政大学のテーマである「実践知育成授業」を目指します。
＊ゲスト招聘者・企業は、先方の都合により変更になる場合があります。
＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。
▼実務経験のある教員による授業
担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】
"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.
Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.
I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.
・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.
・ It is effective if you have a background in statistics and social research.
* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.
However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
Grade score
・Attendance attitude (number of remarks /content of remarks) ⇒ 30 points
・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points
・ Contribution in group work ⇒ 20 points
・ Term-end report ⇒ 20 points
A passing score of 60 or higher is considered as a pass.
(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)
* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

AGC300YA（農芸化学 / Agricultural chemistry 300）

食品科学

三浦　豊

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々が生きていくうえで不可欠である食品について、化学的・生物学的側面から学習することで、生命にとって食品とは如何なるものであるかを理解する。また講義で得られた知識をもとに学生諸君の食生活を見直し、健康な生活を送るための指針とすることを目標とする。さらに食品を取り巻く法的、社会的、産業的な動向についても理解を深めることを目標とする。

【到達目標】
日常摂取している食品がどのような成分から構成されており、我々の健康維持とどのように関わっているか、という点に関して理解し、考える機会を持てるようになることが目標である。具体的には、我々は何のために食品を摂取するのか、食品はどのような成分から構成されているのか、食品成分はどのような化学的性質を有しているのか、食品成分が生体にどのような影響を及ぼすのか、を理解し、食品と生体とのかかわりを総合的に理解することも目標とする。また最終的には講義で学習した内容を日々の食生活に生かしていけるようになってもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
講義の前半では食品に含まれる成分について、その分類、化学構造、生物機能を順次学習する。食品中には栄養素と非栄養素が含まれているため、5大栄養素と非栄養素について順次解説を行う。中間テストを挟み、講義後半では、食品と健康との関わりについて学習する。具体的には食品と病気（メタボリックシンドローム、糖尿病、癌）との関連を学習する。講義は配布するプリントに基づき実施する。
課題等の提出やそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。さらに最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説を行い、最終試験に向けた学習の指針も解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要を解説し、食品と生命の関わりについてオーバービューすると同時に最新のトピックスを紹介する。
第2回	食品成分の化学１	食品成分中の糖質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第3回	食品成分の化学２	食品成分中のアミノ酸、ペプチド、タンパク質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第4回	食品成分の化学３	食品成分中の脂質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第5回	食品成分の化学４	食品成分中のミネラルと水溶性ビタミンについて化学的な側面と生物機能を講義する。
第6回	食品成分の化学５	食品成分中の脂溶性ビタミンと非栄養素について化学的な側面と生物機能を講義する。
第7回	食品成分の生物学１	食品成分の消化・吸収について講義する。
第8回	食品成分の生物学２	食品成分の代謝とその調節機構について講義する。
第9回	中間テスト	前半の講義内容に関して中間テストを行う。
第10回	食情報について	食品と健康の関係を食品が含有する食情報という観点から講義する。
第11回	食品とメタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームと食品の関わりについて講義する。
第12回	食品と糖尿病	糖尿病と食品の関わりについて講義する。
第13回	食品と癌	癌と食品の関わりを講義する。
第14回	これからの食品科学	個人の体質に合った食習慣や食品を利用した先制医療など食品科学の将来を論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に予習を行う必要はないが、講義で学習したことの復習を行い、質問等があれば、翌週の講義時に聞くこと。また食品という日常生活に関連するものを対象とする講義であるため、毎日の食生活に学習した内容をフィードバックすることを常に意識してもらいたい。

【テキスト（教科書）】
講義はパワーポイントを用いて行うが、講義資料は学習支援システムを介して配布する。

【参考書】
「食品の科学」上野川修一、田之倉優編、東京化学同人
「健康栄養学」－健康科学としての栄養生理化学－　小田裕昭、加藤久典、関泰一郎編、共立出版

【成績評価の方法と基準】
平常点（１０％）、中間テスト（３０％）、期末テスト（６０％）とする。中間テスト、期末テストともに講義内容の理解度を判定する。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容が多岐にわたり、情報量が多くなる傾向があるため、大事な個所には時間を十分に掛けるなど、講義のメリハリをよりはっきりとつけるように努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
目標にも記載しましたが、食品は毎日摂取する身近なものであると同時に皆の生命を支える根幹です。講義内容をよく理解し、自らの食生活を見直すきっかけとなることを期待します。

【Outline (in English)】
Food is well known to be important for our life. In this lecture, the chemical and biological properties of foods are lectured. From this lecture, students will be able to get some knowledge for living better and healthy. The legal, social and industrial aspects of food development and food industry will be also lectured.
For this lecture, a work outside of class is not needed particularly, but the content of the lecture may be familiar for you and your daily life. So, the knowledge you will get in the lecture may be anticipated to be applicable for your healthy life.
For grading, your attitude in the class (10%), midterm test (30%), and final test (60%) will be evaluated. Both the midterm test and the final test will assess the level of understanding of the lecture content.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

金融論 A

武田　浩一

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の目的は，初めて金融を学ぶ人を対象として，金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説することを通じて，まず金融に興味を持ってもらい，さらには現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】
この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
今年度の本講義は，原則として対面講義形式で行います。
この講義では，「金融ビッグバン」という言葉に象徴されるように，日本や海外の金融が近年ダイナミックに変化を遂げて，少し前にあたかも金融の世界の常識であるかのようにいわれていた知識の多くが陳腐化して必ずしも実態にそぐわなくなりつつあることを念頭において，今動いている金融の実態に即したup-to-dateな金融論の基礎を紹介することに力を入れます。また、初めて金融を学ぶ人でも講義内容を理解できるように，金融を理解する上で不可欠となる専門的な用語や概念を初めて使うときには，それらの意味をできるだけ平易な言葉や図を使って解説するようにします。
講義のフィードバックは，授業の際や学習支援システム経由で行うほか，個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の方法や内容に関する説明
第2回	イントロダクション：金融とは	金融とは何か
第3回	直接金融と間接金融	直接金融と間接金融の違い
第4回	銀行の決済機能と信用創造機能	銀行の決済機能と信用創造機能の意味
第5回	日本の金融組織と銀行	日本の金融組織の特徴と銀行について
第6回	日本の金融組織	協同組織金融機関と証券会社について
第7回	日本の金融組織	保険会社とその他の金融機関について
第8回	資金循環と金融構造	マクロ的な資金循環から見た日本の金融の特徴
第9回	貨幣の意義と機能	貨幣の本質的な機能と通貨制度について
第10回	日本の決済システム	決済システムの仕組みについて
第11回	貨幣需要	人々はなぜ貨幣を保有するのか
第12回	貨幣供給と流動性のわな	貨幣供給について
第13回	マネーストック	マネーストックとは何か
第14回	公的金融	日本における公的金融の役割について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので，講義で分からないことがあるときには，教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして，次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。
経済学入門や企業と経済・基礎、現代経済学入門などで学ぶ経済学の基礎知識があれば，金融論の理解はより深まります。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣，2011年刊）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
主に学期末試験によって成績を評価します（80%）。学期末試験は教室での対面形式（参照不可）で行う予定です。
授業への参加状況や学習の進捗状況を平常点として成績評価に加味します（20％）。学習の進捗状況を確認するために、講義内容の理解度を確認する課題を学期中に出題します。

【学生の意見等からの気づき】
関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】
受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示、フィードバックなどに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.
Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

金融論 A

高橋　秀朋

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得し、金銭の貸借やそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。また、実際のデータなどを利用して、金融における諸問題を考察できるような力の基礎を身につけてもらう。

【到達目標】
本講義の目標は、金融システムにおける諸問題を経済学的観点から理解できるようになるために、その基礎となる貨幣の時間価値の概念、価値評価の概念、リスクの概念を理解し、身につけてもらうことにある。具体的な数値例を用いて、各概念を説明できるようになることが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義は、オンデマンド形式で実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、後半の演習回では課題に回答、提出するという学習サイクルで実施する。また、EXCELを利用したセミナー形式の演習もあわせて行う。本講義では、金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するための基本的なフレームワークを身につけてもらう。そのため、講義ではEXCELを利用し講義中に身につけた知識が実際に適用可能であることを示しいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融取引	金融取引における経済主体
2	金融の役割	異時点間、異状態間の所得移転
3	貨幣の時間価値1	将来価値、現在価値
4	貨幣の時間価値2	株価、債券価格の計算への応用
5	貨幣の時間価値3	株価、債券価格の計算への応用
6	債券管理	金利リスク
7	リスク評価1	2状態モデルによるリスク評価
8	リスク評価2	複数状態モデルと分散化
9	リスク評価3	複製戦略によるオプション評価
10	リスク評価4	状態価格によるオプション評価
11	演習1	小テスト（将来のCFが確実な証券の価格評価）
12	演習2	小テスト（将来のCFが不確実な証券の価格評価）
13	演習3	EXCELの関数を利用した将来価値、現在価値の計算
14	演習4	リスク資産の収益率の記述統計量（EXCEL利用）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週2時間）。また、講義後に取り扱った計算例を復習するとともに、日本経済新聞、ロイター、ＦＴ等に掲載された市場の価格情報を通じて学習した内容がどのように活用されているのかを実感すること（週2時間）。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 13th Edition』（Pearson Education, 2021）
※当該テキストのPart 2が学習の対象

【成績評価の方法と基準】
評価は期末試験80％、4回の演習における課題の評価20%として行う。提出課題の基本点は各回5%相当であるが、特に優秀な課題に関しては追加で加点を行う。当該加点を含めて100%を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容の復習を効率的に行うために、小テストや演習の解説はオンデマンド形式のコンテンツとしてアップロードしておく。
※昨年度は対面/オンラインのハイブリッド運用

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to the theories and the methods in finance such as future/present value, risk, and state price. This course also shows what role each economic entity plays and how important their roles are. Through this course, students are expected to obtain abilities to consider economic/financial issues and problems in the real world from the academic perspective. Before each class meeting, students are expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be evaluated according to the in-class assignments (20%) and term-end exam (80%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

金融論 B

武田　浩一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，金融の基本的な仕組みを紹介し，金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説します。講義の目的は，初めて金融を学ぶ学生に，まず金融の面白さに触れてもらい，さらには現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】
この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
今年度の本講義は，原則として対面講義形式で行います。
この講義では，金融市場の動向や金融取引の仕組み，貸出市場とメインバンク，新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説します。金融取引は，近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており，従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつありますが，この講義では，金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって，金融市場はどのように機能し，そこで市場参加者はどのように行動しているのか，また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか，などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆきたいと考えています。
講義のフィードバックは，授業の際や学習支援システム経由で行うほか，個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容や方法の説明
第2回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第3回	金融市場	短期金融市場について
第4回	債券市場と株式市場	長期金融市場について
第5回	外国為替市場	外国為替市場について
第6回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第7回	資産証券化	資産証券化とは何か
第8回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第9回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第10回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とプルーデンス政策について
第11回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティーネットについて
第12回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第13回	ヨーロッパの金融システム	ヨーロッパの経済通貨統合について
第14回	企業金融	企業の資金調達について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので，講義で分からないことがあるときには，教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして，次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。
経済学入門や企業と経済・基礎、現代経済学入門などで学ぶ経済学の基礎知識があれば，金融論の理解はより深まります。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣，2011年刊）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
主に学期末試験によって成績を評価します（80%）。学期末試験は教室での対面形式（参照不可）で行う予定です。
授業への参加状況や学習の進捗状況を平常点として成績評価に加味します（20％）。学習の進捗状況を確認するために、講義内容の理解度を確認する課題を学期中に出題します。

【学生の意見等からの気づき】
関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】
受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示などに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.
Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

金融論Ｂ

高橋　秀朋

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを一通り学習した者を対象として、金融システムの役割や現実の金融における諸問題を分析する力を身につけることにある。身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを、金融論Ａの知識を発展させ、情報の経済学を利用して分析する。

【到達目標】
本講義の目標は、金融論Ａで学習したフレームワークを基礎に、いくつかのミクロ経済学のフレームワークを付加し、金融市場、金融仲介機関の機能、金融規制、銀行規制などを理解することにある。最終的な目標は、具体的な数値例を用いて、金融取引における情報の非対称性や契約の不完備性に関わる諸問題を説明できるようになることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義は、オンデマンド形式で実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、後半の演習回に課題に回答、提出するという学習サイクルで実施する。また、EXCELを利用したセミナー形式の演習もあわせて行う。金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するためのフレームワークを身につけてもらい、知識が実際に適用可能であることを示しいく。金融論Ｂではミクロ経済学に基礎をおいた経済学的フレームワークを利用して、金融に関する経済現象の分析を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融論Aの復習	金融の機能
2	リスクと資産評価	債券、株式の評価
3	情報の非対称性1	逆選択問題
4	情報の非対称性2	モラルハザード
5	情報の非対称性3	自己選択、インセンティブメカニズム
6	契約の不完備性	不完備契約における諸問題
7	金融市場と仲介機関	金融市場概観
8	金融市場への応用1	証券の発行市場
9	金融市場への応用2	証券の流通市場
10	金融仲介機能への応用	情報の非対称性と金融仲介機関
11	演習1	小テスト（2状態モデルとリスク）
12	演習2	小テスト（逆選択）
13	演習3	小テスト（モラルハザード）
14	演習4	小テスト（契約の不完備性）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週2時間）。また、情報の経済学に基づく金融論は、実際の経済における金融に関わる事象をモデルによって説明しようと試みているため、講義で学習する知識だけでなく、日本経済新聞、ロイター、ＦＴ等の経済情報に目を通してその内容を実感すること（週2時間）。

【テキスト（教科書）】
村瀬英彰『新エコノミクス　金融論　第2版』（日本評論社、2016年）

【参考書】
F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 13th Edition』（Pearson Education, 2021）
※当該テキストのPart 3 およびPart 4が対象。

【成績評価の方法と基準】
評価は期末試験80％、4回の演習における課題の評価20%として行う。提出課題の基本点は各回5%相当であるが、特に優秀な課題に関しては追加で加点を行う。当該加点を含めて100%を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容の復習を効率的に行うために、小テストや演習の解説はオンデマンド形式のコンテンツとしてアップロードしておく。
※昨年度は対面/オンラインのハイブリッド運用

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to introduce more sophisticated concepts and frameworks than those students learn in Monetary and Finance A (Kin-yuron A). Students are expected to acquire ablity to analyze real financial activities with knowledge ralated to information economics. In this lecture, employing the information theory and fundamental knowledge of Finance, we apply the theories to analysis of the real world. The goal of this course is to obtain abilities to apply economic tools to the real world. Before each class meeting, students are expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the in-class assignments (20%) and term-end exam (80%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

現代ファイナンス入門A

湯前　祥二

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します．ファイナンスでは，リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて，資産運用にまつわる具体的な問題を扱います．

【到達目標】
株式会社について理解し，株式の理論価格を計算することができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち，賢い選択をする」ための道具です．日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で，ポイントは無駄（無駄な手数料，無駄なリスク）を省くことです．
春学期は，株式の理論価格を題材にして，リターンを中心に学びます．課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ファイナンス	ファイナンスを学ぶ理由
第2回	株式の価格付けの流れ	配当割引モデルに至る流れ
第3回	事業循環	材料仕入れ，製造，販売，決算
第4回	財務諸表・事業計画	損益計算書，貸借対照表，改善ポイント
第5回	財務諸表分析	有価証券報告書
第6回	収益性の分析	資本利益率
第7回	安定性の分析	株主資本比率
第8回	デュポン・システム	株価と財務比率
第9回	株価の分解	EPSとPER
第10回	配当利回り	株価とDPS
第11回	キャッシュフロー	将来価値と現在価値
第12回	配当割引モデル	株式投資のキャッシュフロー
第13回	株主資本の増加と配当の成長	サステイナブル成長率
第14回	株価と配当政策	配当性向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義に使う図表をまとめた資料を，随時，「学習支援システム」で配布します．受講者は，この資料を講義までに取得して，目を通しておいてください．わからない内容があれば調べ，関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい．この資料は，印刷したものを，講義に持参してください．また，関数電卓を利用するので，使用法に慣れてください．本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
井手正介，高橋文郎（2001），証券投資入門，日本経済新聞社．
井手正介，高橋文郎（2005），証券分析入門，日本経済新聞社．
井出正介（2008），株式投資入門，日本経済新聞出版社．

【成績評価の方法と基準】
試験によって評価します（100%）．

【学生の意見等からの気づき】
ノートに書き写す時間と，説明を聞く時間が重ならないよう努めます．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を使用します．

【Outline (in English)】
This course is a primer on finance.
It deals with specific issues concerning asset management.
The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）

現代ファイナンス入門Ｂ

湯前　祥二

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します．ファイナンスでは，リターンとリスクという２つのキーワードを中心に据えて，資産運用にまつわる具体的な問題を扱います．

【到達目標】
リターンとリスクについて理解し，両者を計算で求め，投資判断に用いることができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち，賢い選択をする」ための道具です．日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で，ポイントは無駄（無駄な手数料，無駄なリスク）を省くことです．
秋学期はリスクを扱います．リスク管理に必要な，リスク指標の計算方法や，リスク分散を学びます．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	投資信託の仕組み	投資信託の種類
第２回	インデクス運用	市場ポートフォリオ
第３回	アクティブ運用	成功の条件
第４回	複利	最初の数字の賭け，割り算距離
第５回	複利計算の頻度	半年複利，連続複利
第６回	確定利付証券	元本，クーポン
第７回	金利期間構造	期間構造仮説
第８回	リスク管理	金融工学の機能
第９回	分布	離散型と連続型
第10回	リスク指標	プロジェクト選択の基準
第11回	標準偏差とVaR	正規分布
第12回	リスク分散	プロジェクトの組み合わせ
第13回	ポートフォリオのリスク	株式投資のリスク分散
第14回	モンテカルロ法	金融派生商品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義に使う図表をまとめた資料を，随時，「学習支援システム」で配布します．受講者は，この資料を講義までに取得して，目を通しておいてください．わからない内容があれば調べ，関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい．この資料は，印刷したものを，講義に持参してください．また，関数電卓を利用するので，使用法に慣れてください．本授業の準備学習・復習時間は，各２時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
井手正介，高橋文郎（2001），証券投資入門，日本経済新聞社
井手正介，高橋文郎（2005），証券分析入門，日本経済新聞社
井出正介（2008），株式投資入門，日本経済新聞出版社．

【成績評価の方法と基準】
試験によって評価します（100%）．

【学生の意見等からの気づき】
ノートに書き写す時間と，説明を聞く時間が重ならないよう努めます．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を使用します．

【Outline (in English)】
This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.
The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

POL200CA（政治学 / Politics 200）

国際関係論 A

冨永　靖敬

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障をめぐる国家間関係を対象とし、特に戦争の原因・メカニズムを近年の研究動向を踏まえて多面的に学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】
1.国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2.国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3.日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は，コンテンツ（動画）配信を中心としたオンディマンド授業とする。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜授業内容の理解度を確認するための小テスト、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（またGoogle Driveでのファイル共有）を通じて配信し、小テストは学習支援システムのテスト機能を用いる。また、教員との質疑応答はZoomを用いて行う。講義動画は1本60分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	国際関係論の射程	本授業の狙い、授業の概要
第2回	国際システムの構造	主権国家とは，主権国家システム
第3回	伝統的国際関係論の視点 I	リアリズム:国家のパワーゲーム，古典的リアリズム，ネオリアリズム
第4回	伝統的国際関係論の視点 II	勢力均衡と同盟論
第5回	伝統的国際関係論の視点 III	リベラリズム:協力と平和の可能性，国際制度と国際協調
第6回	伝統的国際関係論の視点 IV	構成主義：社会的な意味とアイデンティティ
第7回	理論間の対立	「イズム」の限界
第8回	交渉理論に基づく戦争論	戦争はなぜ起こるのか？，事例：イラク戦争
第9回	交渉理論 I	情報の非対称性
第10回	交渉理論 II	コミットメント問題
第11回	国内政治と戦争	なぜ国内要因が重要なのか
第12回	リーダーと戦争	評判(reputation)と信頼(credibility)，リーダーの個人的性質，結集効果
第13回	今学期のまとめ	春学期の振り返り
第14回	期末試験（オンライン）	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められる。また、授業後には、授業で用いたスライドに基づいて復習をすることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
多湖淳(2020)『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社（中央公論新書 2574). 定価880円（本体 800円） ISBN978-4-12-102574-6.

【参考書】
【特に推薦するのは以下の三冊】
1. Kydd, Andrew H. (2015). International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach. Cambridge: Cambridge University Press.
2. クリストファー・ブラットマン（神月謙一訳）(2023)『戦争と交渉の経済学ー人はなぜ戦うのかー』草思社。定価3,740円（本体 3,400円)ISBN978-4-7942-2662-4
3. Spaniel, William (2023). Formal Models of Crisis Bargaining: Applications in the Politics of Conflict. Cambridge: Cambridge University Press.
【その他】
草野大希・小川裕子・藤田泰昌（編）(2023)『国際関係論入門』ミネルヴァ書房。定価3,520円（本体 3,200円）ISBN978-4-623-09577-3
砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015)『政治学の第一歩 (有斐閣ストゥディア)』有斐閣。定価 2,052円（本体 1,900円）ISBN 978-4-641-15025-6
鈴木基史・岡田章（2013)『国際紛争と強調のゲーム』有斐閣。定価2,808円（本体 2,600円）ISBN 978-4-641-14904-5
浅古泰史（2018)『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価2,860円（本体 2,600円）ISBN978-4-641-14928-1
村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015)『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376円（本体2,200円）ISBN 978-4-641-17722-2
山本吉宣・河野勝（2005)『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価3,024円 （本体 2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】
【成績評価の方法】
本授業の評価は、小テスト（30%）と期末試験（70%）で行う。小テスト，期末試験ともに「学習支援システム」を通じてオンラインで実施する予定である。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業で使用する資料の配布、ならびに学期中のテストは、「学習支援システム」を通じて実施する。資料のダウンロードおよびテストの実施のために、デバイス（PCなど）とオンライン環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】
以下に生成AI使用のルールを明示します。
【ルールの目的】
本授業では，学生の皆さんが自らの思考力・分析力・表現力を養うことを重要な学習目的としています。生成AI（ChatGPTなど）の技術をリサーチや情報探索の一助として活用すること自体は否定しませんが，論述やレポートの文章自体をAI任せにしてしまうと，本来の学習効果が損なわれるおそれがあります。そこで，生成AIの利用に関しては，以下のルールを設けます。
【生成AIはあくまでリサーチの補助】
・許容される行為例
　・キーワード・用語の検索
　・史実や統計データの有無を確認（※出典元が明確である場合に限る）
　・参考文献のヒント探し（※実際には一次情報・正式な文献を自分で確認すること）
・禁止される行為例
　・AIに要約や文章を生成させ，そのまま引用・転用すること
　・AIから得た引用元不明の「事実」を裏付け確認せずに用いること
　・「文章構成への直接的寄与」となるような内容（段落まとめ、序論や結論のドラフトなど）の作成をAIに委ねること
【AIが作成した文章の使用禁止】
・論述・レポート
　・AIが作成した文章を，一部でもそのままあるいは表面的な改変（接続語の入れ替えや文末の書き換え程度）をして使用することは禁止します。
　・これはコピペに準ずる行為とみなし，学問的誠実性に反する行為と判断します。
・引用・参考資料
　・AIを「著者」として引用することは認めません。AIは二次的・三次的情報を推測的に生成する仕組みであり，正確性や一次性を保証しません。
　・AIが提示した文献・統計を活用したい場合は，必ず元の一次資料を学生自身で確認し、その一次資料を引用してください。
【チェッカーによる検証と不正行為の判断】
・AIチェッカーの活用

・提出された論述・レポートに対し，複数のAI生成検知ツールを用いてチェックを行います。
・AI生成の可能性が高いと検知された場合，さらに内容の精査や学生へのヒアリングを行う場合があります。
・不正が疑われる場合
・学生本人に口頭での追加説明や質疑応答を求めることがあります。そこでも十分な説明が得られない場合，剽窃・不正行為と見なされる可能性があります。
・不正行為と認定された場合は，大学の規定に基づき成績評価の取消や該当授業の単位不認定などの処分が下されることがあります。
【適切なAI利用のすすめ】
・AIはあくまで“補助”です
・上記のようなルールを設けても，「AIを一切使うな」という意味ではありません。実際には，キーワード検索や概要把握，論点の整理など，学習者が合理的にAIを使う方法はあります。ただし，最終的な文章構成・論理展開・結論は必ず自分自身で組み立てることを徹底してください。
・情報の真偽は自分で確認する
・国際関係論・国際政治の分野は情勢が流動的かつ複雑で、AIの提示する情報が誤りや不十分である場合も少なくありません。どのようなツールを使うにせよ、最終的な情報の検証責任は学習者自身にあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is an introductory course that intends to provide students with basic knowledge which is essential to understand the nature of current international relations. This course pays particular attention to security issues exploring causes and consequences of war.
【Learning objectives】
1. To acquire knowledge of theoretical conceptions of international politics
2. To acquire the ability to explain current issues of international politics logically and with evidence
【Learning activities outside of classroom】
Before each class: To read the assigned part of the textbook (2 hours)
After each class: To review the slide (2 hours)
【Grading Criteria/Policy】
Quizzes (30%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)
Term-end exam (70%)

POL200CA（政治学 / Politics 200）

国際関係論 B

冨永　靖敬

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障問題について幅広く学習する。国際関係論Aでは，主権国家システム，国内・国際制度，リーダーの性質など，国際政治現象一般を分析する際に必要となる諸モデルを紹介したが，国際関係論Bでは，国家間戦争，内戦やテロリズムといった国家間・国家内で発生する戦争，あるいは越境的な国際犯罪を対象とする。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際問題を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】
1.国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2.国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3.日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は，コンテンツ（動画）配信を中心としたオンディマンド授業とする。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜授業内容の理解度を確認するための小テスト、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（またGoogle Driveでのファイル共有）を通じて配信し、小テストは学習支援システムのテスト機能を用いる。また、教員との質疑応答はZoomを用いて行う。講義動画は1本60分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	導入	前学期の復習、本授業の概要
第2回	核兵器と軍備管理・抑止論	国際危機外交，安全保障のジレンマ，シグナリング，評判，抑止論とその効果
第3回	テロリズム・非国家主体の暴力	テロリズムの定義、原因、対策
第4回	内戦・国内紛争の国際化	内戦の原因論（民族，貪欲と不満），交渉モデル
第5回	紛争解決：平和への道筋	交渉、仲介、調停など紛争解決の理論と実践
第6回	事例分析	スリランカ内戦・コロンビア内戦・ミャンマー内戦など
第7回	制度と規範：国際社会の秩序形成	国際制度と国際規範が国家の行動をどのように制約し、協力を促進するのか
第8回	国際規範と人権	国際人権規範の発展と課題
第9回	気候変動と国際協力（地球規模の課題への対応）	気候変動が国際社会に与える影響を分析し、気候変動問題への国際的な取り組みを検討する
第10回	サイバーセキュリティと国際関係	新たな脅威の出現，サイバー空間における国家間の競争と協力
第11回	貧困と開発	資源の呪い，国連の持続可能な開発
第12回	貧困と開発の制度的説明	富の独占と政治体制，selectorate theory
第13回	学期のまとめ	秋学期の振り返り
第14回	期末試験（オンライン）	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められる。また、授業後には、授業で用いたスライドに基づいて復習をすることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
多湖淳(2020)『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社。定価880円（本体800円）ISBN978-4-12-102574-6

【参考書】
Kydd, Andrew H. (2015). International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach. Cambridge: Cambridge University Press.
草野大希・小川裕子・藤田泰昌（編）(2023)『国際関係論入門』ミネルヴァ書房。定価3,520円（本体3,200円）ISBN978-4-623-09577-3
クリストファー・ブラットマン（神月謙一訳）(2023)『戦争と交渉の経済学ー人はなぜ戦うのかー』草思社。定価3,740円（本体3,400円)ISBN978-4-7942-2662-4
砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015)『政治学の第一歩 (有斐閣ストゥディア)』有斐閣。定価2,052円（本体1,900円）ISBN 978-4-641-15025-6
鈴木基史・岡田章（2013)『国際紛争と強調のゲーム』有斐閣。定価2,808円（本体2,600円）ISBN 978-4-641-14904-5
浅古泰史（2018)『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価2,860円（本体2,600円）ISBN978-4-641-14928-1
村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015)『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価2,376円（本体2,200円）ISBN 978-4-641-17722-2
山本吉宣・河野勝（2005)『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価3,024円 （本体2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3
東大作(2020)『内戦と和平 現代戦争をどう終わらせるか』中央公論新社。定価968円(本体880円)ISBN978-4-12-102576-0

【成績評価の方法と基準】
【成績評価の方法】本授業の評価は、小テスト（30%）と期末テスト（70%）で行う。テストは、「学習支援システム」を通じてオンラインで実施する予定である。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業で使用する資料の配布、ならびに学期中のテストは、「学習支援システム」を通じて実施する。資料のダウンロードおよびテストの実施のために、デバイス（PCなど）とオンライン環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】
以下に生成AI使用のルールを明示します。
【ルールの目的】
本授業では，学生の皆さんが自らの思考力・分析力・表現力を養うことを重要な学習目的としています。生成AI（ChatGPTなど）の技術をリサーチや情報探索の一助として活用すること自体は否定しませんが，論述やレポートの文章自体をAI任せにしてしまうと，本来の学習効果が損なわれるおそれがあります。そこで，生成AIの利用に関しては，以下のルールを設けます。
【生成AIはあくまでリサーチの補助】
・許容される行為例
　・キーワード・用語の検索
　・史実や統計データの有無を確認（※出典元が明確である場合に限る）
　・参考文献のヒント探し（※実際には一次情報・正式な文献を自分で確認すること）
・禁止される行為例
　・AIに要約や文章を生成させ，そのまま引用・転用すること
　・AIから得た引用元不明の「事実」を裏付け確認せずに用いること
　・「文章構成への直接的寄与」となるような内容（段落まとめ、序論や結論のドラフトなど）の作成をAIに委ねること
【AIが作成した文章の使用禁止】
・論述・レポート
　・AIが作成した文章を，一部でもそのままあるいは表面的な改変（接続語の入れ替えや文末の書き換え程度）をして使用することは禁止します。
　・これはコピペに準ずる行為とみなし，学問的誠実性に反する行為と判断します。
・引用・参考資料
　・AIを「著者」として引用することは認めません。AIは二次的・三次的情報を推測的に生成する仕組みであり，正確性や一次性を保証しません。
　・AIが提示した文献・統計を活用したい場合は，必ず元の一次資料を学生自身で確認し、その一次資料を引用してください。
【チェッカーによる検証と不正行為の判断】

・AIチェッカーの活用
　・提出された論述・レポートに対し，複数のAI生成検知ツールを用いてチェックを行います。
　・AI生成の可能性が高いと検知された場合，さらに内容の精査や学生へのヒアリングを行う場合があります。
・不正が疑われる場合
　・学生本人に口頭での追加説明や質疑応答を求めることがあります。そこでも十分な説明が得られない場合，剽窃・不正行為と見なされる可能性があります。
　・不正行為と認定された場合は，大学の規定に基づき成績評価の取消や該当授業の単位不認定などの処分が下されることがあります。
【適切なAI利用のすすめ】
・AIはあくまで“補助”です
　・上記のようなルールを設けても，「AIを一切使うな」という意味ではありません。実際には，キーワード検索や概要把握，論点の整理など，学習者が合理的にAIを使う方法はあります。ただし，最終的な文章構成・論理展開・結論は必ず自分自身で組み立てることを徹底してください。
・情報の真偽は自分で確認する
　・国際関係論・国際政治の分野は情勢が流動的かつ複雑で、AIの提示する情報が誤りや不十分である場合も少なくありません。どのようなツールを使うにせよ、最終的な情報の検証責任は学習者自身にあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course intends to provide students with essential knowledge to understand international relations. This course focuses on not just traditional security issues such as nuclear deterrence and balance of power but also non-traditional security issues such as civil war and terrorism.
【Learning objectives】
1. To acquire knowledge of the essential conceptions of international relations
2. To acquire the ability to explain the phenomenon of international relations logically and with evidence
【Learning activities outside of classroom】
Before each class: To read the assigned part of the textbook (2 hours)
After each class: To review the slide (2 hours)
【Grading Criteria/Policy】
Quizzes (30%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)
Term-end exam (70%)

SES300CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300）

地球環境論Ａ

山﨑　友紀

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球環境の多様性・法則性・相互関連性を理解するために、身の回りの自然環境から、地球または宇宙規模での環境について学びます。様々な人間の経済活動と地球環境との相互関係について理解を深めるため、環境保全、資源、エネルギー、生物多様性など多面的な学習を展開します。

【到達目標】
諸資料を活用し、地球規模で生じている諸現象を考察し、広い視野で解決策を見出そうとする見識と判断力を身に付ける。さらに、自発的に地球規模での問題に気づき、的確な情報によって批判できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式を主体とするが、VTR鑑賞や演習（クイズ）も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に復習課題を課し、授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明と希望アンケート。環境の定義、環境学の全体像を紹介
2	自然科学の基礎	環境学を学ぶために最低限必要な項目
3	太陽系と地球システム	地球システムを天文学的に考察する。宇宙、地球の歴史、太陽からの影響
4	地球環境を“みる”	地球環境の計測・探査方法
5	地球内部のしくみ	地球の形成や地下深部の構造
6	地球の大気と水	地球大気の大循環と、それによる気象変化
7	地球の水循環	地球規模の水循環
8	これまでの復習のための演習	参考となるビデオ観察、グラフや計算を用いた演習
9	地球の物質循環	地球規模で起きている、炭素循環、窒素循環、リンの循環
10	生物と生態系	地球における生物の役割と生態系
11	生物の歴史	生物の進化と歴史の物質循環における役割
12	生命、遺伝子に関する学習	VTRなどによる遺伝子の役割紹介
13	生物多様性	環境における生物多様性の重要性と意義
14	授業内試験	これまでの学習の理解度を筆記試験でチェックする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料や課題は学習支援システムで配布する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
１『地球環境学入門　第３版』山﨑友紀（講談社サイエンティフィク）2800円

【参考書】
１『環境・エネルギー・健康 20講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
２『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott &Matthew Laposata , Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】
試験（60%）、提出課題と授業への取組の総合点(40%)とし、合計の60％以上得点できた場合に単位を認める。ただし授業欠席回数が50%を上回る者には単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】
理系科目を多く学んでこなかった学生さんにも親しめる内容とする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに登録してください。

【その他の重要事項】
学生は授業中にPC、スマートフォン、タブレットを使用しないこと。
「実務経験のある教員による授業」として、教員はSRI Internationalにて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。
本授業については、今後のオンデマンド授業化を踏まえ、授業を撮影する場合があります。撮影は教室後方等からとし、受講生の顔が映り込まないよう配慮します。

【Outline (in English)】
In order to understand the mechanisms of the global environment, you will learn diversity, interrelationships and rules of the environment on our planet. Based on the natural history of the formation of the Earth, you will learn how human activities work for the environment.
The standard preparation and review time for this class is two hours each.
Grading criteria is Assighments(60%), Class Contribution(20%), and
Report or Quiz contribution(20%).

SES300CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300）

地球環境論Ｂ

山﨑　友紀

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**２単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球規模での環境保全の概念と基礎事項、環境問題の現状と対策などについて理解を深める。様々なエネルギー問題、廃棄物問題、環境保全などについて、正しい情報とともに課題と解決策を見出す力を養う。

【到達目標】
自然環境と人間の調和を支える良識ある公民の資質として、地球規模の広い視野で解決策を見出そうとする見識と総合的な判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式を主体とするが、VTR鑑賞や演習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に授業内課題および復習課題を課す。授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・地球の人口	講義内容、計画、評価方法の紹介。環境とは何か、エコとは何か。地球が直面する課題を知る。
2	地球上の資源	化石燃料、非化石燃料、鉱物資源などの特徴を知る
3	資源とエネルギー	発電技術、資源・エネルギーに関する諸問題を議論する
4	原子力の利用と問題点	核エネルギーと発電のしくみ、原発問題
5	放射線の性質と利用	放射線の性質、生体への影響、利用方法について
6	再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、バイオマスなどのエネルギー
7	地球大気の異変	温室効果、温暖化を正しく学ぶ。大気汚染、オゾン層破壊、異常気象のメカニズム
8	地球規模の水問題	河川、湖沼、海域の水質問題と、異常気象の関係
9	水質汚濁と土壌汚染	地球規模の飲料水確保、下水処理、水質と土壌の関係
10	食品と環境	食品汚染、食品ロス、農業問題、毒とは何か
11	化学物質と環境	化学物質の影響。環境アセスメントと環境分析
12	廃棄物・廃プラスチックと環境	地球規模での廃棄物問題、海洋プラスチック問題
13	環境と経済	経済活動と環境のかかわり、ビジネスと環境。
14	授業内試験	理解度を筆記試験で評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報道ニュースなどの環境関連事項に注意し、目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
1）『地球環境学入門　第３版』　山﨑友紀　（講談社サイエンティフィク）2800円

【参考書】
1）『環境・エネルギー・健康 20講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2）『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott &Matthew Laposata , Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】
試験（60%）、提出課題と授業への貢献度(40%)とし、合計の60％以上得点できた場合に単位を認める。ただし授業欠席回数が50%を上回る者には単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】
理科系科目の苦手な学生も理解できるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
授業の予習復習の際に学習支援システムが使える環境。

【その他の重要事項】
学生は授業中にPC、タブレット、スマートフォンを使用しないこと。「実務経験のある教員による授業」として、教員はSRI Internationalにて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

【Outline (in English)】
The current situation of environmental problems are already very complicated. You will learn the relationship between human activities and environmental problems. The main theme of this semester is to discuss how we can conquer problems, such as climate change, disasters, exhaustion of resources, and so on.
The standard preparation and review time for this class is two hours each.
Grading criteria is Assighments(60%), Class Contribution(20%), and
Report or Quiz contribution(20%).

SES300CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300）

自然環境論Ａ

山﨑　友紀

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**２単位**

その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球環境の多様性・法則性・相互関連性を理解するために、身の回りの自然環境から、地球または宇宙規模での環境について学びます。様々な人間の経済活動と地球環境との相互関係について理解を深めるため、環境保全、資源、エネルギー、生物多様性など多面的な学習を展開します。

【到達目標】
諸資料を活用し、地球規模で生じている諸現象を考察し、広い視野で解決策を見出そうとする見識と判断力を身に付ける。さらに、自発的に地球規模での問題に気づき、的確な情報によって批判できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式を主体とするが、VTR鑑賞や演習（クイズ）も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に復習課題を課し、授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明と希望アンケート。環境の定義、環境学の全体像を紹介
2	自然科学の基礎	環境学を学ぶために最低限必要な項目
3	太陽系と地球システム	地球システムを天文学的に考察する。宇宙、地球の歴史、太陽からの影響
4	地球環境を“みる”	地球環境の計測・探査方法
5	地球内部のしくみ	地球の形成や地下深部の構造
6	地球の大気と水	地球大気の大循環と、それによる気象変化
7	地球の水循環	地球規模の水循環
8	これまでの復習のための演習	参考となるビデオ観察、グラフや計算を用いた演習
9	地球の物質循環	地球規模で起きている、炭素循環、窒素循環、リンの循環
10	生物と生態系	地球における生物の役割と生態系
11	生物の歴史	生物の進化と歴史の物質循環における役割
12	生命、遺伝子に関する学習	VTRなどによる遺伝子の役割紹介
13	生物多様性	環境における生物多様性の重要性と意義
14	授業内試験	これまでの学習の理解度を筆記試験でチェックする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料や課題は学習支援システムで配布する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
１『地球環境学入門　第３版』山﨑友紀（講談社サイエンティフィク）2800円

【参考書】
１『環境・エネルギー・健康 20講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
２『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott &Matthew Laposata , Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】
試験（60%）、提出課題と授業への取組の総合点(40%)とし、合計の60％以上得点できた場合に単位を認める。ただし授業欠席回数が50%を上回る者には単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】
理系科目を多く学んでこなかった学生さんにも親しめる内容とする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに登録してください。

【その他の重要事項】
学生は授業中にPC、スマートフォン、タブレットを使用しないこと。
「実務経験のある教員による授業」として、教員はSRI Internationalにて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。
本授業については、今後のオンデマンド授業化を踏まえ、授業を撮影する場合があります。撮影は教室後方等からとし、受講生の顔が映り込まないよう配慮します。

【Outline (in English)】
In order to understand the mechanisms of the global environment, you will learn diversity, interrelationships and rules of the environment on our planet. Based on the natural history of the formation of the Earth, you will learn how human activities work for the environment.
The standard preparation and review time for this class is two hours each.
Grading criteria is Assighments(60%), Class Contribution(20%), and
Report or Quiz contribution(20%).

SES300CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300）

自然環境論Ｂ

山﨑　友紀

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2単位**

その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球規模での環境保全の概念と基礎事項、環境問題の現状と対策などについて理解を深める。様々なエネルギー問題、廃棄物問題、環境保全などについて、正しい情報とともに課題と解決策を見出す力を養う。

【到達目標】
自然環境と人間の調和を支える良識ある公民の資質として、地球規模の広い視野で解決策を見出そうとする見識と総合的な判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式を主体とするが、VTR鑑賞や演習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に授業内課題および復習課題を課す。授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・地球の人口	講義内容、計画、評価方法の紹介。環境とは何か、エコとは何か。地球が直面する課題を知る。
2	地球上の資源	化石燃料、非化石燃料、鉱物資源などの特徴を知る
3	資源とエネルギー	発電技術、資源・エネルギーに関する諸問題を議論する
4	原子力の利用と問題点	核エネルギーと発電のしくみ、原発問題
5	放射線の性質と利用	放射線の性質、生体への影響、利用方法について
6	再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、バイオマスなどのエネルギー
7	地球大気の異変	温室効果、温暖化を正しく学ぶ。大気汚染、オゾン層破壊、異常気象のメカニズム
8	地球規模の水問題	河川、湖沼、海域の水質問題と、異常気象の関係
9	水質汚濁と土壌汚染	地球規模の飲料水確保、下水処理、水質と土壌の関係
10	食品と環境	食品汚染、食品ロス、農業問題、毒とは何か
11	化学物質と環境	化学物質の影響。環境アセスメントと環境分析
12	廃棄物・廃プラスチックと環境	地球規模での廃棄物問題、海洋プラスチック問題
13	環境と経済	経済活動と環境のかかわり、ビジネスと環境。
14	授業内試験	理解度を筆記試験で評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報道ニュースなどの環境関連事項に注意し、目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
1）『地球環境学入門　第３版』　山﨑友紀　（講談社サイエンティフィク）2800円

【参考書】
1）『環境・エネルギー・健康 20講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2）『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott &Matthew Laposata , Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】
試験（60%）、提出課題と授業への貢献度(40%)とし、合計の60％以上得点できた場合に単位を認める。ただし授業欠席回数が50%を上回る者には単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】
理科系科目の苦手な学生も理解できるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
授業の予習復習の際に学習支援システムが使える環境。

【その他の重要事項】
学生は授業中にPC、タブレット、スマートフォンを使用しないこと。「実務経験のある教員による授業」として、教員はSRI Internationalにて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

【Outline (in English)】
The current situation of environmental problems are already very complicated. You will learn the relationship between human activities and environmental problems. The main theme of this semester is to discuss how we can conquer problems, such as climate change, disasters, exhaustion of resources, and so on.
The standard preparation and review time for this class is two hours each.
Grading criteria is Assighments(60%), Class Contribution(20%), and
Report or Quiz contribution(20%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

国際協力論

小林　尚朗

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界経済の現状やグローバルな開発目標（持続可能な開発目標：SDGs）などを把握したうえで、国際協力の理論および実践を学ぶ。

【到達目標】
「自国第一」の風潮が強まるなかで、なぜ国際協力が必要なのか、またなぜ国際協力への反動が起こっているのか、地球市民として、また将来国際社会に関わろうとしている学生として、必要な基礎知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式での授業が中心になります。初めてこの授業を担当するので、履修者の状況や人数がよくわからないのですが、適正規模の場合はディスカッションなども行います。
毎時間とは限りませんが、リアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーに書かれた意見や質問については、原則として次の時間に全体に対してフィードバックを行います。
本講義の授業計画のお知らせや教材の提示は、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の概要、ポイントを紹介
第2回	世界の現状とグローバルサウス	世界の現状とグローバルサウスの概念について
第3回	SDGs時代の国際社会	国連でSDGsが採択された背景とその意義
第4回	トランプ政権の衝撃と国際協力	自国ファーストの世界を考える
第5回	なぜ遠くの誰かを助けるのか？	国際協力の理念
第6回	国際機関と国際協力	国際機関と国際協力について
第7回	日本のODA	その変遷と意義
第8回	JICA海外協力隊	その現状と意義
第9回	プラント輸出と経済開発	インフラ整備と国際協力
第10回	移民・外国人労働者と国際協力	日本の外国人労働力政策の現状
第11回	フェアトレードの可能性①	アンフェアトレードの持続不可能性
第12回	フェアトレードの可能性②	エシカル消費を通じた国際協力
第13回	国際協力に関する課題	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
外務省『開発協力白書』。
妹尾裕彦・田中綾一・田島陽一『地球経済入門－人新世時代の世界をとらえる』（法律文化社、2021年）
長坂寿彦編著『フェアトレードビジネスモデルの新たな展開－SDGs時代に向けて 第２版』（明石書店、2023年）。
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーの提出（平常点）：50％、課題提出（発表も予定）：50%

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用するための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合があります。

【担当教員の専門分野】
世界経済論、アジア経済論、貿易政策論、フェアトレード。

【Outline (in English)】
【Course Outline】The aim of this course is to help students acquire basic theories, practices, and important findings on international cooperation and development.
【Learning Objectives】By the end of the course, students are expected to gain a foundational understanding of international cooperation and development.
【Learning activities outside of classroom】Before and after each class, students are expected to spend 2 hours each to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be determined based on reaction papers (50%) and report and presentation (50%).

MAN300JB（経営学 / Management 300）

NPO論

渡真利　紘一

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6155」を選択すること。旧「非営利組織の運営」修得者は不可。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPOの成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の主体（ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など）との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】
・NPOの社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができる
・自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方を学ぶ
NPOを論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること／他者に対して寛容であること／仲間を持つこと／社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半は、NPOに関する基本的な内容（歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等）について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO活動実践者から実践を聞き、体験的に実践を把握できる機会をつくります。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。
各回の授業計画の変更が生じる場合があります。変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション/NPOのイメージ	NPOのイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第2回	NPOの活動分野と関心分野	映像資料等を活用しながら、NPOの活動分野について知るとともに各々の関心分野について話し合う。
第3回	NPOの歴史的背景と社会的意義	非営利な活動の歴史的背景やNPO法設立経緯等から、NPOの文脈を辿る。
第4回	NPOの社会的意義	行政や企業等との比較を通じ、NPOの社会的意義について考察する。
第5回	NPOの組織運営	NPO組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解する。
第6回	NPOと他の主体との関係	他の主体（ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など）との関係について把握する。
第7回	中間課題の共有	中間課題で調べたり考えたことを共有し、お互いの観点から学ぶ。
第8回	実践から考えるシリーズ「資金を調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPOの多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第9回	実践から考えるシリーズ「協力関係をつくる」	コミュニティ・オーガナイジングや協力のテクノロジー等の理論や具体例を取り上げ、協力関係をつくる方法について考察する。
第10回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第11回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第12回	期末課題発表会１	グループ又は個人で期末課題の発表を行う。
第13回	期末課題発表会２	グループ又は個人で期末課題の発表を行う。
第14回	最終講義「これからの市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点とは何か、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の振り返りの時間を大切にしてください。
また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、ニュースや映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。
授業で紹介したNPOの主催するイベント等へ参加したり、NPO活動へボランティアや取材等を通じて主体的に関わることを推奨します。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
（1）平常点（出席・リアクション）50点、（2）中間課題（NPO活動計画書）10点、（3）期末課題（発表、レポート）40点。
平常点については、授業ごとに授業中の発言又はリアクションペーパーによって評価・採点します。
なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。
・NPOを論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
・クラスメイトが関心分野への理解を深めることにどのくらい協力して取り組めたか
（注）授業を欠席する場合は事前に連絡してください。
（注）実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】
・受講者同士がお互いの観点を尊重して学びを深める環境をつくります。
・授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
・NPO活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践からNPO活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料の閲覧や調べ物をする際に使用するため、パソコン又はスマートフォンを持参してください。

【その他の重要事項】
授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline (in English)】
NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.
The goals of this course are to “To understand Social significance of Non Profit Organization”.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 40%、Short reports : 10%、in class contribution: 50%

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

災害支援論

青木　信夫、正谷　絵美

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
災害が発生した後に余儀なくされる避難生活や生活再建などへの支援の在り方また、災害発生後の支援を効果的に行うために必要な事前の備えなどについて総合的に学び実践するための知識や技術を習得して、年々繰り返され巨大化する自然災害の被災者に必要な支援とは何か、支援のあるべき姿を探求していく。

【到達目標】
被災者に必要とされる支援や支援の方法について知り、実践的な支援のあり方について理解を深める。
・我が国における災害支援の体制を知り、日常生活でどのような備えが必要であるか考える。
・一方的な支援だけでなくお互いに支援し合えるコミュニティの形成と共助を通して人々が地域を支えて行くことの大切さを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義のほかに、グループ討議や図上演習を実施することで学生自身が考え、災害をイメージして支援のあり方について気づかせる。また、被災者と交わる支援のあり方として、体験型の授業を取り入れる。レポート等の提出、フィードバックはメールあるいは「学習支援システム」を通じて行い、最終授業では13回までの各講義内容のまとめやレポート等の講評、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①授業のオリエンテーション ②ワークショップ	・授業の概要や目的及び進め方、理解すべき点や評価方法等について知る。 ・災害支援のあり方について、グループ討議を行い被災者が本当に必要とする支援のあり方について知る。
2	体験学習 ・震動体験（起震車） ・煙避難体験（煙体験ハウス） ・初期消火（訓練用消火器）	・東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の実際の地震観測データを基に３次元で再現された震動を体験する。 ・人体に無害な煙を充満させたテント内に入り、火災時における煙の怖さと避難方法などを体験する。 ・初期消火の必要性を学び、消火器の操作手順を体験する。
3	防災講話 ・地域防災（自助、共助、公助）	・地域防災を、「自助」「共助」「公助」の視点から考え、平常時及び発災時の行動について考える。
4	ロープワーク ・結びの基本と応用	・日常生活では勿論のこと、災害発生時には人命救助や避難生活にも役立つロープの結び方の基本を体験する。
5	災害の種類と災害心理	・地震、津波、水害、火災など各災害の原因、特徴、対策と共に逃げ遅れの原因となる災害心理について学ぶ。
6	クロスロード	・災害発生後に行う支援のあり方について出された質問にYESまたはNOで答え、自分ならどのように対応するかを考える。
7	心肺蘇生法 ・胸骨圧迫／AED操作 応急手当 ・止血法・災害時の手当	・救命の重要性を理解する。 ・心肺蘇生に必要な胸骨圧迫とAED操作を体験し、実施手順を知る。 ・災害時の傷病者に対して身の回りにあるものを利用して一時的に施す手当の方法を知る。
8	避難計画、避難行動	・避難計画や避難行動のあり方について知り、避難に必要な支援とはなにかを考える。
9	災害ボランティアセンター実施訓練	・災害ボランティアセンターの仕組みを理解し、運営に必要な技術を実施訓練により習得する。
10	避難所HUG	・避難所の開設、運営を模擬的に体験することにより、避難所で起こる様々な問題にどう対応するかまた、避難所で生活する被災者への支援をどのようにするかについて考える。
11	防災グッズの作成	・災害時に身の回りにあるものを利用して避難生活などに役立つ防災グッズを作成する。
12	国の支援構造	・災害時、有事の際、国がどのように行動し、どのように支援するかその構造を学ぶ。
13	図上演習DIG	・災害発生後に行う、「避難行動要支援者」への支援のあり方と事前に必要な体制づくりについて考える。
14	①授業のまとめ ②春学期定期試験	・各授業の要点をまとめ、レポート等の講評、質疑応答、ディスカッションを通して災害支援を掘り下げる。 ・本授業を終えた後の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
災害支援に関する学問は、「災害支援学」などのように決められた枠組みの中だけに存在するのではなく、日常生活の中にこそ多くのヒントが潜在していることから、自身が日常生活を送る中で防災や減災とどう取り組んで行くべきか考えることが大切であり、人と交わることで多くの気づきを得ることができるので積極的に情報を得て人と共有するようにする。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
授業時に参考となる資料を配布する。

【参考書】
授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
春学期定期試験50%、平常点40%、レポート10%
演習や体験型授業を行うので継続的な出席を求める。単位取得の前提条件となる出席回数については、オリエンテーション時（初回授業）に明示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、講師陣の防災啓発活動の現場や被災地での活動体験を基に、学生が災害の当事者として支援のあり方を自ら考え理解できるような内容に心がける。

【Outline (in English)】
[Course outline] Knowledge of how to provide comprehensive support for evacuation and rebuilding of life after a disaster occurs, as well as the necessary preparation for effective support after a disaster occurs. They will acquire skills and explore what kind of support is needed for victims of natural disasters that are repeated and huge every year.

[Learning Objectives] Learn about the support and support methods needed by disaster victims and deepen their understanding of practical support.
—Learn about the disaster support system in Japan and think about what kind of preparations are necessary in daily life.
—Learn the importance of people supporting the community not only through one-sided support but also through the formation and mutual assistance of communities that can support each other.
[Learning activities outside of classroom] The study of disaster relief does not exist only within a fixed framework such as "disaster support studies", but because many hints are latent in daily life, oneself has a lot of hints in daily life. It is important to think about how to tackle disaster prevention and mitigation while sending a message, and since you can get a lot of awareness by interacting with people, actively obtain information and share it with people. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy] Fall semester regular exam 50%, normal score 40%, report 10%
Since we will hold exercises and hands-on lessons, we request continuous attendance. The number of attendances, which is a prerequisite for earning credits, will be clearly stated at the time of orientation (first class).

MAN300JB（経営学 / Management 300）

NPO論（SSI）

渡真利　紘一

配当年次／単位数：**2～4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**SSI生向けの科目につき、SSI生以外は授業コード「N1155」を選択すること。旧「非営利組織の運営」修得者は不可。**

その他属性：〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPOの成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の主体（ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など）との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】
・NPOの社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができる
・自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方を学ぶ
NPOを論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること／他者に対して寛容であること／仲間を持つこと／社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半は、NPOに関する基本的な内容（歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等）について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO活動実践者から実践を聞き、体験的に実践を把握できる機会をつくります。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。
各回の授業計画の変更が生じる場合があります。変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション/NPOのイメージ	NPOのイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第2回	NPOの活動分野と関心分野	映像資料等を活用しながら、NPOの活動分野について知るとともに各々の関心分野について話し合う。
第3回	NPOの歴史的背景と社会的意義	非営利な活動の歴史的背景やNPO法設立経緯等から、NPOの文脈を辿る。
第4回	NPOの社会的意義	行政や企業等との比較を通じ、NPOの社会的意義について考察する。
第5回	NPOの組織運営	NPO組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解する。
第6回	NPOと他の主体との関係	他の主体（ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など）との関係について把握する。
第7回	中間課題の共有	中間課題で調べたり考えたことを共有し、お互いの観点から学ぶ。
第8回	実践から考えるシリーズ「資金を調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPOの多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第9回	実践から考えるシリーズ「協力関係をつくる」	コミュニティ・オーガナイジングや協力のテクノロジー等の理論や具体例を取り上げ、協力関係をつくる方法について考察する。
第10回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第11回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第12回	期末課題発表会１	グループ又は個人で期末課題の発表を行う。
第13回	期末課題発表会２	グループ又は個人で期末課題の発表を行う。
第14回	最終講義「これからの市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点とは何か、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の振り返りの時間を大切にしてください。
また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、ニュースや映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。
授業で紹介したNPOの主催するイベント等へ参加したり、NPO活動へボランティアや取材等を通じて主体的に関わることを推奨します。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
（1）平常点（出席・リアクション）50点、（2）中間課題（NPO活動計画書）10点、（3）期末課題（発表、レポート）40点。
平常点については、授業ごとに授業中の発言又はリアクションペーパーによって評価・採点します。
なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。
・NPOを論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
・クラスメイトが関心分野への理解を深めることにどのくらい協力して取り組めたか
（注）授業を欠席する場合は事前に連絡してください。
（注）実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】
・受講者同士がお互いの観点を尊重して学びを深める環境をつくります。
・授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
・NPO活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践からNPO活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料の閲覧や調べ物をする際に使用するため、パソコン又はスマートフォンを持参してください。

【その他の重要事項】
授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline (in English)】
NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.
The goals of this course are to “To understand Social significance of Non Profit Organization”.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 40%、Short reports : 10%、in class contribution: 50%

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木　誠

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は金融をこれまで学んだことのない学生向けに、経済学における金融に焦点を当てた授業を行う。大学生として、卒業後の社会人として、金融に触れずに過ごすことは困難である。春学期の授業では、経済学における金融の意味と金融で利用される言葉やその意味、さらに計算方法などを身に着け、生活の上で、金融のリテラシーを身に着けることを目指す。

【到達目標】
この授業では、金融リテラシーを身に着けるために、1、歴史的な金融の発展、2．身近な金融活動の発見、3．金融の意義と意味、4．自ら金融取引を確認する、ことを学ぶ。金融の知識は不要と考える人もいるだろう、しかし、卒業後、家を購入する、保険に入る、ローンを組む、年金資産運用するなど、金融知識がすぐにでも必要となってくる。必要な時に備えて、今、これらの知識を準備する。春学期の目標は、一般の新聞に書かれている経済面の金融に関する記事が読んで、理解できる水準への到達である。いわばリテラシーを高めることを目標とする。金融についてさらに、一歩踏み出した議論は、秋学期に行いたいと考えているので、履修する学生には春と秋の履修を勧めたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
対面による授業として実施します。ただし、履修生の皆さんには資料を配信し、各自で理解を深めてもらうように配慮する。なお、配布する資料は教科書と合致しない部分も一部あります。理解する目的は同じであっても、履修する皆さんにとって理解のしやすい方法で、あるいは、理解できる段階から説明することを心掛けて作成しているためです。
大学で初めて学習する内容となるはずなので、継続した授業への出席が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業内容の紹介、歴史的な経済活動の発展	本授業の進め方、評価についての解説、人類の経済活動の発展と経済行動における工夫や発明を映像資料を見て動機付けを行う
2	身近にみる金融商品や金融活動	日ごろの生活で利用される金融商品や金融活動について詳しく学ぶ
3	金融取引と必要な知識	銀行における取引について考える、また、その際に必要とされる知識について学ぶ
4	評価する、価値を測る（第1章、第2章）	金融活動において、将来の価値や現在の価値を測ることが重要となる。その方法を学ぶ
5	企業における金融取引、債券と株式の発行と投資	企業が発行する債券と株式について学ぶ。特にその違いについて理解を深める。
6	債券の評価（第3章）	債券の価格をどのように求めるか、その方法を学ぶ
7	債券投資の理論（第10章）	債券を運用する際の基礎となるデュレーションについて意味と計算方法を学ぶ。
8	債券投資の理論（第10章）続き	債券ポートフォリオのデュレーションとイミュニゼーションについて学ぶ
9	中間テスト	第1講から第8講までの内容の理解を確認する。
10	確率変数の基礎知識（第11章）とポートフォリオ理論（第12章）	期待値や標準偏差など統計値の計算方法を確認する。ポート不フォリオ理論の導入を図る。
11	投資理論（第12章と第13章）	2資産からなる危険資産によるポートフォリオを構築する。ポートフォリオ理論を発展させCAPMについて学習する
12	コーポレートファイナンス①（第7章）	企業の資金調達について検討する。
13	コーポレートファイナンス②（第7章）	企業の資金調達におけるモジリアニ＝ミラーの定理（MM理論）を学習する。
14	期末試験	これまで学習した全範囲の試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
特に力を入れてほしいのは、復習と日ごろの生活での習慣である。復習はしっかりと自分の頭で考えたり、計算をしてほしい。目で見て理解しただけでは利用することはできない。日々の生活では、ニュースを見る、新聞を読む、30分でも日々の生活で経済事象を知ることは、授業を受ける上で大きなきっかけとなる。

【テキスト（教科書）】
手嶋宜之著「基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門」ダイヤモンド社
ISBN:978-4-478-01630-5

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は次の３つの項目に基づいて行う。１、各回の授業に付随するクイズ（20％）、２、第8回に実施する中間テスト（40％）、３．第15回に実施する期末テスト（40％）である。
中間試験と期末試験は授業期間内で行う。また、各回のクイズはHoppi上で提示される。なお、クイズは毎回実施するとは限らない。成績評価は以下の通りである。S:特に優れた成績である者、概ね90％以上、A:優れた成績であるもの、概ね80％以上、B:秀でた成績である者、概ね70％以上、C:平均的な水準である者、概ね60％以上、D:基準に満たない者。

【学生の意見等からの気づき】
質問のあった個所については、授業でも取り上げて参加者全員の理解を図るようにする。

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓があるとよい。ない場合にはスマートフォンに付帯されている計算機能（関数電卓）を利用するとよい。ただし、中間と期末試験の際にはスマホの計算機能は利用できないので注意。

【その他の重要事項】
新聞やニュースを通して、日々、経済や金融の情報に触れることが望ましい。
なお、本授業の講師はファイナンスの実務経験を通算20余年有している。うち、10年は米国ニューヨークで勤務し、ノーベル経済学受賞者との共同研究、米国著名大学大学院修了（MBA）している。また、経済金融教育アドバイザーでもある。実務経験を授業に反映させる予定である。

【Outline (in English)】
This class focuses on finance in economics for students who have never studied finance before. As a university student and a member of society after graduation, it is difficult to spend time without touching finance. In the spring semester class, students will learn the meaning of finance in economics, the words used in finance, their meanings, and calculation methods, and aim to acquire financial literacy in their daily lives.
A "Finance" is indispensable in daily transactions. In the class, we study theories and systems related to financial transactions, but it is also very important to learn about the relationship between finance and the economy through daily news and newspaper reports. I hope that students will pay attention to financial information outside of class hours.
Grading for students will consist of two parts: 80%will be based on mid-term and final exams. 80%will be based on mid-term and final exams, and 20%will be based on class participation and quizzes/assignments. A grade of "S" is given to students who have achieved 90%or more in all grades, "A" is given to students who have achieved 80%or more, "B" is given to students who have achieved 70%or more, and "C" is given to students who have exceeded the minimum passing grade. Students who fail the course will receive a grade of "D". This evaluation method is in accordance with the Hosei University evaluation standards.

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木　誠

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**1/Tue.1
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は既に金融の「入門レベル（経済学LA)」を学んだ学生向けに、広く、深く金融を学習することを目的としている。したがって、金融システム、金融制度など幅広く経済学における金融に焦点を当てた授業を行う。大学生として、卒業後の社会人として、金融に触れずに過ごすことは困難である。しっかりと金融知識を身に着けてほしい。

【到達目標】
　この授業では、経済学LAに始まる金融リテラシーを身に着けるために、１、歴史的な金融の発展、２．身近な金融活動の発見、3.金融の意義と意味、４．自ら金融取引を確認する、ことを継続して学ぶ。
　秋学期の経済学LBの目標は、経済専門の新聞に書かれている経済面の金融に関する記事を読んで内容が概ね理解できることを目標としたい。通常、経済専門紙の記事を完璧に理解できる水準は金融業界に身を置かない限り、困難である。本講座は、入門レベル（経済学LA)を経て、金融基礎知識を固める初級から中級レベルの水準に達することを目標に掲げたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
対面で授業を実施する。経済学LAと同じである。
授業はテキストと配布資料に基づいて行われる。適宜、履修者の理解の定着を図る目的でクイズやテキスト章末問題を課題とすることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	利子率、将来価値、現在価値（第1章）	単利と複利、現在価値・将来価値を計算する、複利利回りの種類を知る。今学期から参加した学生にも理解しやすいように経済学LAの内容を一部復習する。
2	債券入門（第2章)、債券分析の基礎（第3章）①	最終利回り、債券投資のリスクについて学ぶ。（経済学LAの復習、一部あり）
3	債券分析の基礎（第3章）②	デュレーション分析、イールドカーブ分析、債券の投資方法について学習する。
4	ポートフォリオ理論入門①（第8章）	経済学LAにおいてファイナンスで利用する基礎統計学は学習しているので、その前提で2つの危険資産によるポートフォリオを作成する。
5	ポートフォリオ理論入門②（第8章）	安全資産を組み入れた場合のドミナントな組み合わせを考える。CAPMの導出を行う。（一部経済学LAの復習あり）
6	株式入門（第4章）①	株式とは、株式発行市場、流通市場、配当割引モデルの紹介
7	株式入門（第4章）②	配当割引モデル応用、株価評価の指標、
8	中間試験	これまでに学習した内容をテストする。60分間。
9	デリバティブズ	先渡し取引、先物取引の市場、取引の仕組み、価格の計算方法と利用について学習する
10	リーマンショックを考える	リーマンショックの原因はなんであったか、動画を視聴して考えたい。
11	オプション入門①（第6章）	オプションの基本的な仕組みと性質の紹介、オプション市場、オプション取引の仕組みを学習する。
12	オプション入門②（第6章）	オプションを用いた投資戦略、バイノミアル（二項価格評価）モデルによるオプション価値の推定する。
13	効率的市場仮説（第11章）	市場モデルとCAPMの類似点と相違点を整理する。 市場の効率性について学習する。
14	期末試験	学習した範囲（第1回から第13回まで）の試験を行う。授業内で実施する。60分間

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
春学期より少しだけレベルが上がった内容となるので、授業の資料を読む前に関連する該当箇所を読んでおくと、理解の助けとなる。さらに、授業後に、もう一度同じ個所を読み直すと理解が深まる。また、必要な計算は必ず手を動かしてやってほしい。資料やテキストを読んでいても、自分の力にはならない。また、日常的に新聞やニュースに触れて、金融に関する言葉を利用する場面を知ってほしい。

【テキスト（教科書)】
岸本直樹、池田正幸「入門・証券投資論」有斐閣ブックス、ISBN:978-4-641-18447-3

【参考書】
手嶋宣之「ファイナンス入門」ダイヤモンド社、ISBN:978-4-478-01630-5
大村敬一・俊野雅司「証券論」有斐閣、ISBN:978-4-461-16427-7

【成績評価の方法と基準】
成績評価は次の３つの項目に基づいて行う。
１、授業における貢献などの平常点と授業に関連したクイズ（試験ではない）（20 %)、
２、第 8 回に実施する中間テスト（40 %)、
３、第 15 回に実施する期末テスト（40 %）である。
中間試験と期末試験は 原則教室で実施する予定であるが、感染状況によりHoppi上で行う場合もある。実施予告の指示に従って受験してほしい。
成績評価は法政大学の基準に従って行う。概ね、以下の通りである。S:特に優れた成績である者、概ね 90 %以上、A:優れた成績であるもの、概ね 80 %以上、B:秀でた成績である者、概ね 70 %以上、C:平均的な水準である者、概ね 60 %以上、D:基準に満たない者。

【学生の意見等からの気づき】
経済学LB(秋学期)は経済学LA同様、対面授業の予定となっている。対面授業ではあるが、スライドで利用する資料等はHoppii上に掲示（授業開始から１週間のみダウンロード可）する予定である。

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓があるとよい。ない場合にはスマートフォンに付帯されている計算機能（関数電卓）を利用するとよい。ただし、中間・期末試験いおいてスマホの計算機能を利用することはできないので、留意してほしい。

【その他の重要事項】
配布する資料は指定した教科書を理解しやすくするために作成したものである。資料だけでは、教科書の内容を理解することは不可能であるので、必ず、指定した教科書を用意してほしい。ただし、参考図書はその限りではない。また、新聞やニュースを通して、日々、経済や金融の情報に触れることがファイナンスの理解の早道でもある。なお、本授業の講師はファイナンスの実務経験を通算20余年有している。うち、10年は米国ニューヨークで勤務し、ノーベル経済学受賞者との共同研究、米国著名大学大学院修了（MBA)している。金融経済教育アドバイザーでもある。実務経験を授業に反映させる予定である。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to provide a broad and deep study of finance for students who have studied finance at an introductory level (Economics LA). Therefore, the class will focus on finance in economics, including financial systems and financial institutions. As a undergraduate student and a member of society after graduation, it is difficult to spend time to finance. I would recomend you to acquire a financial literacy for your life.
A "Finance" is indispensable in daily transactions. In the class, we study theories and systems related to financial transactions, but it is also very important to learn about the relationship between finance and the economy through daily news and newspaper reports. I hope that students will pay attention to financial information outside of class hours.
Grading for students will consist of two parts: 80%will be based on mid-term and final exams. 80%will be based on mid-term and final exams, and 20%will be based on class participation and quizzes/assignments. A grade of "S" is given to students who have achieved 90%or more in all grades, "A" is given to students who have achieved 80%or more, "B" is given to students who have achieved 70%or more, and "C" is given to students who have exceeded the minimum passing grade. Students who fail the course will receive a grade of "D". This evaluation method is in accordance with the Hosei University evaluation standards.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

西村　一帆

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。
全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。
体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック 健康とは	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動 フィットネス	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ネットスポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、パラスポーツのボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。
8	卓球	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	フットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60％、期末レポート20％、授業への参画状況20％の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。
使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】
問い合わせ教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.
【到達目標（Learning Objectives）】
(1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
(2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
(3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
(4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
(5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.
It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

西村　一帆

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。
全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システム(Hoppii)を通して告知する。 体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。 毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック 健康とは	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る (講義)。
4	筋力アップ運動 フィットネス	トレーニング機器や自重による運動を行う (講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ネットスポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、またパラスポーツとしてボッチャを行う (講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う (講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える (講義)。
8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う (講義と実習)。
9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う (講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う (講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策 (講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う (講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う (講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る (講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。 また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど)60 %、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が 授業実施回数の2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。
使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】
問い合わせ教員連絡先: kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【授業の概要(Course outline)】In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.
【到達目標(Learning Objectives)】
(1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
(2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
(3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
(4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
(5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).
【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.
【授業の概要と目的(何を学ぶか)】
It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class. 【成績評価の方法と基準(Grading Criteria /Policy)】Assignments
(reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**2/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の科学技術の発展により、スポーツ科学および健康科学も多くの進化を遂げている。それにより、運動を効果的、効率的、そして安全に実施する方法や自身の健康を管理するための方法が数多く提唱されている。この授業は運動・スポーツ、特にラケットスポーツ、ニュースポーツを通してスポーツ科学に触れると共に、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持・増進に資する健康科学について理解を深め、実践する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業はグループワークおよび講義、実習から構成され，様々な実技種目を通じて、スポーツ科学および健康科学について学ぶ。
評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともに実習への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク ドッジビー	グループワーク「他己紹介」を通じたアイスブレイク。（グループワークおよび実習）
3	スポーツ科学・健康科学とは バドミントン	競技スポーツの場面から日常生活まで、スポーツ科学と健康科学の活用事例について学ぶ（講義および実習）
4	運動の心理的効果 バドミントン	運動の心理的効果について、気分調査尺度を用いて検証する。（講義及び実習）
5	運動の身体的効果 バドミントン	運動の身体的効果について学ぶ（講義及び実習）
6	技術を高める効果的な練習法：注意の焦点 バスケットボール(+派生バスケ)	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として注意の焦点を学ぶ。（講義および実習）
7	技術を高める効果的な練習法：フィードバック法 ネオテニス	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法としてフィードバック法を学ぶ（講義および実習）
8	技術を高める効果的な練習法：運動イメージ ネオテニス	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として運動イメージを学ぶ（講義および実習）
9	技術を高める効果的な練習法：ブロック・ランダム法 卓球	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法としてブロック・ランダム法を学ぶ（講義および実習）
10	技術を高める効果的な練習法：観察学習法 卓球	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として観察学習法を学ぶ（講義および実習）
11	効果的な練習方法の探索 卓球	グループワークを通じて、効果的に運動を学習するための方法について探索する（講義及びグループワーク）
12	効果的な練習方法の実践 ユニホック	「効果的な運動学習法の探索」での結果を踏まえて、効果的に運動を学習するための方法を実践する（講義および実習）
13	Tea(お茶)とスポーツボッチャ	Tea(お茶)は時に、人の歴史を大きく動かしてきた。お茶を巡る歴史とその健康効果を学ぶ（講義および実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ科学および生涯スポーツについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツや健康関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート・試験40％の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1.レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2.リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3.リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5.原則として欠席4回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6.やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

7.前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1.食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2.多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3.各スポーツ種目の未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。
ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】
1.学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2.授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3.授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。初回のガイダンスに出席してください。
5.授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】
With the development of science and technology in recent years, sports science and health science have also undergone many advances. Effective, efficient, and safe methods of exercising and managing one's health have been proposed.
The purpose of this course is to expose students to the latest sports science through exercise and sports and to deepen their understanding and practice of the latest health science that contributes to maintaining and improving physical, mental, and social health throughout life.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
(2) Report on the lecture: 40%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**2/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の科学技術の発展により、スポーツ科学および健康科学も多くの進化を遂げている。それにより、運動を効果的、効率的、そして安全に実施する方法や自身の健康を管理するための方法が数多く提唱されている。この授業は運動・スポーツ、特にラケットスポーツ、ニュースポーツを通してスポーツ科学に触れると共に、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持・増進に資する健康科学について理解を深め、実践する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業はグループワークおよび講義、実習から構成され，様々な実技種目を通じて、スポーツ科学および健康科学について学ぶ。
評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともに実習への取り組みに対する動機づけを図る。（講義）
2	アイスブレイク ドッジビー	グループワークを通じたアイスブレイク。実技種目はドッジビーを用いる（グループワークおよび実習）
3	スポーツ科学・健康科学とは バドミントン	競技スポーツの場面から日常生活まで、スポーツ科学と健康科学の活用事例について学ぶ（講義および実習）
4	プレッシャーとスポーツ：実践 バスケットボール(+派生バスケ)	スポーツの場面ではしばしば緊張が高まる場面でのプレーが求められる。バスケットボールのフリースローを通じて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について検証する（講義及び実習）
5	プレッシャーとスポーツ：基礎理論 バドミントン	「プレッシャーとスポーツ：実践」での結果を踏まえてプレッシャーが心身に及ぼす影響について学ぶ（講義及び実習）
6	プレッシャーとスポーツ：あがりへの対処 バドミントン	「プレッシャーとスポーツ」での結果と基礎理論を踏まえて、プレッシャーがかかる場面でも実力発揮をするための方法とあがりへの対処法を学ぶ（講義および実習）
7	スポーツの価値 卓球	これまでに五輪スポーツから地域レベルでのレクリエーションスポーツまで数多のスポーツ種目が生み出されてきた。既存のスポーツ種目を概観すると共にスポーツの本質的価値を学ぶ（講義および実習）
8	Tea(お茶)とスポーツ 卓球	Tea(お茶)は時に、人の歴史を大きく動かしてきた。お茶を巡る歴史とその健康効果を学ぶ（講義および実習）
9	運動の功と罪 卓球	運動による健康効果についてはよく知られている。一方で、運動が心身に及ぼす負の影響についてはあまり知られていない。運動の功と罪について学ぶ（講義および実習）
10	ニュースポーツと地域活性 ネオテニス	ニュースポーツがどのように地域活性に役立っているか、また地域の取り組みについて具体的事例を挙げながら紹介し、生涯スポーツに対する理解を深める（講義および実習）
11	スポーツ栄養 ネオテニス	食の欧米化と多様化により、様々な健康リスクが増加した。近年、危惧されている超加工食品の摂取と健康リスクの関連について学ぶ（講義および実習）
12	睡眠の効果 ボッチャ	睡眠は健康に大きな影響を及ぼす。睡眠の効果について学ぶ（講義および実習）
13	スポーツとコーピング ユニホック	社会生活を営む中で、様々な心理的ストレスを受ける。ストレスに対処する方法を学ぶ（講義および実習）
14	総括・試験	総括およびレポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ科学および生涯スポーツについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツや健康関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート・試験40％の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。

3.リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5.原則として欠席4回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6.やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7.前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1.食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2.多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3.各スポーツ種目の未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。
ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】
1.学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2.授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3.授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。初回のガイダンスに出席してください。
5.授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】
With the development of science and technology in recent years, sports science and health science have also undergone many advances. Effective, efficient, and safe methods of exercising and managing one's health have been proposed.
The purpose of this course is to expose students to the latest sports science through exercise and sports and to deepen their understanding and practice of the latest health science that contributes to maintaining and improving physical, mental, and social health throughout life.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
(2) Report on the lecture: 40%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

白井　隆長

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年におけるテクノロジーの著しい発展に伴い、スポーツサイエンスの分野においても顕著な進化が見られ、スポーツをより効果的かつ効率的に、そして安全に実践するための多様な方法が提案されている。本講義では、ゴール型競技、ネット型競技、対人型競技など、異なる競技特性を有するスポーツを対象とし、最新のスポーツ科学に関する理解を深めることを目的とする。また、各競技における技術の習得および向上を目指し、理論的知識と実践的スキルの双方を習得することに重点を置く。さらに、身体活動の意義や役割について包括的に理解を深めるとともに、生涯を通じた身体的・精神的・社会的健康の維持・向上に寄与する基礎的な知識の修得を促進し、自己管理能力の涵養を図る。本講義では、これらの知識や態度を、講義と実習を通じて総合的に育成することを目標とする。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について スポーツ科学の視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 人体のしくみを理解することで自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 健康に関する情報の取捨選択ができるようになるために、科学的根拠を踏まえた健康リテラシーを醸成する。
⑤ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して 、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑥ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る 。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
　この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいてレポート選抜で履修可能者をする。
　授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
　授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	実技＆講義 ：バスケットボール①	ストレッチ・体操(フィットネス) バスケットボールの基本的技術とルール
3	実技＆講義 ：バスケットボール②	ストレッチ・体操(フィットネス)・レクリエーション、バスケットボールの応用的技術と戦術理解
4	実技＆講義 ：バレーボール①	ストレッチ・体操(フィットネス)・レクリエーション、バレーボールの基本的技術とルール
5	スポーツ科学とは？（講義）	スポーツ科学とは トップアスリートの特徴 サイエンスの活用
6	運動と代謝（講義）	代謝とそのメカニズム 運動が健康に与える影響
7	実技＆講義 ：卓球①	ストレッチ・体操（フィットネス） 卓球の基本的技術とルール
8	実技＆講義 ：卓球②	ストレッチ・体操(フィットネス) ダブルスの応用的技術とルール
9	実技＆講義 ：バドミントン①	ストレッチ・体操(フィットネス) バドミントンの基本的技術とルール、試合形式のゲーム
10	実技＆講義 ：バドミントン②	ストレッチ・体操(フィットネス) バドミントンのダブルスの応用的技術とルール、試合形式のゲーム
11	実技＆講義 :バレーボール②	ストレッチ・体操（フィットネス） バレーボールの応用的技術とルール
12	実技 ＆講義 :その他の種目	ストレッチ・体操(フィットネス) ドッヂボール、フリスビー、ユニホック、ホッケーの基本技術とルール
13	サクセスフルエイジングの達成（講義）	エイジング 老化と加齢 エクササイズの効能
14	授業の総括、簡易テスト	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
　本授業は、講義および実習を通じて、スポーツ活動が身体的および精神的健康の維持・増進に寄与し、さらに良好な対人関係の構築を促進することについて理解を深めることを目的としている。その一環として、日常生活における身体活動に費やした時間、食事内容、睡眠時間などの生活習慣を記録し、それらを振り返ることで、身体活動がもたらす効果を評価するとともに、今後の課題を明確にすることが求められる。また、テレビ、新聞、Webメディアなどを通じて発信される多様なスポーツ関連情報に注意を向け、それらを積極的に収集・分析する習慣を身につけることも推奨される。これらの取り組みにより、本授業で扱う内容への理解が一層深まり、スポーツ活動の意義についての認識を高めることが期待される。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート40％の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。
1.レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で論理的かつ適切な記述がされているかについて評価する。
2.リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3.リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5.原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6.やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7.前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
本授業では、スポーツ競技の優れた技術をマスターすることを目的としていないため、初心者でもスポーツに親しめるよう授業の難易度を低く設定しています。そのため、競技に不安のある方でも楽しく参加できるよう配慮しております。

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1.原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoomなどによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2.授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする
4.本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること。
5.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある

【Outline (in English)】

【Course outline】With the development of technology in recent years, sports science has evolved in various ways, and many methods have been proposed to make sports more effective, efficient, and safe.　In this lecture, we will deepen our understanding of the latest sports science using sports with various characteristics such as goal-based, net-based, and opponent-based, and aim to acquire and improve skills in each sport. This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from sports science perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. To develop basic knowledge and attitudes that contribute to self-management through an understanding of how the human body works..
4. To foster health literacy based on scientific evidence in order to be able to discern information about health.
5.　Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
6.　Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

白井　隆長

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、「運動・栄養・休養」という三つの観点から、自身および集団の健康に関する科学的理解を深めることを目的とする。特に、現代日本が直面する少子高齢化、ライフスタイルの変容、生活習慣病の増加などの社会的課題に焦点を当て、それらの背景や疾病の原因を多角的に考察する。さらに、スポーツ科学に関する理論的知識の習得にとどまらず、実践的アプローチとしてエクササイズやメンタルトレーニングを取り入れ、自己の健康を維持・向上させるためのセルフコントロール技法を身につけることを重視する。受講生は、科学的根拠に基づいた運動の効果や心理的アプローチを理解し、それを日常生活に応用することで、生涯にわたる健康管理能力を養うことができる。本講義ではより個人の健康管理に重点を置き、実践的なセルフマネジメント手法を修得することを特徴とする。健康維持・増進のための理論と実践を統合し、科学的な視点に基づいた健康習慣の確立を目指す。単なる知識の習得にとどまらず、個々のライフスタイルに適した運動やメンタルトレーニングの活用方法を探究し、自らの健康を主体的に管理する能力を培うことで、より質の高い生活を実現するための知識と実践力を養う。本講義を通じて、スポーツ科学の知見を活かし、健康的な生活を実現するための具体的な方法を学び、スポーツを通じた生涯健康管理の実践者となることを目指す。

【到達目標】
① スポーツの三要素「運動、栄養、休養」について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を送るために、スポーツ実習を通して自身に合ったコンディショニング法を身につける。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る 。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
　この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については 、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者をする。
　授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験 や レポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
　授業は対面による実技と講義で実施する。
　授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	実技＆講義 ：バドミントン①	ストレッチ・体操（フィットネス） バドミントンの基本的技術とルール
3	実技＆講義 ：バドミントン②	ストレッチ・体操(フィットネス) ダブルスの基本的技術とルール
4	実技＆講義 ：フットサル①	実践的 W-up ストレッチ・体操（フィットネス） フットサルの基本的技術とルール
5	健康とは?（講義）	WHOの健康の概念（Health Tips） JAMA 身体の健康を維持するしくみ
6	生活習慣病とスポーツ医学（講義）	生活習慣病とは（発症とそのメカニズム） スポーツ医学とその応用 運動が疾病を抑制するメカニズム
7	実技＆講義 ：卓球①	ストレッチ・体操（フィットネス） 卓球の基本的技術とルール
8	実技＆講義 ：卓球②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
9	実技＆講義 ：バスケットボール①	ストレッチ・体操（フィットネス） バスケットボールの基本的技術と戦術
10	実技＆講義 ：バスケットボール②	ストレッチ・体操（フィットネス） バスケットボールの応用的技術と戦術 3vs3
11	実技＆講義 ：フットサル②	実践的 W-up ストレッチ・体操（フィットネス） フットサルの応用的技術とルール
12	実技＆講義 ：ニュースポーツ	ストレッチ・体操（フィットネス） ユニホック・インディアカの基本的技術とルール
13	骨格筋の構造と特性を活かしたコンディショニング（講義）	骨格筋の量・質的変化 トレーニング適応 コンディショニング 遺伝とスポーツパフォーマンス
14	授業の総括・簡易テスト	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は、講義および実習を通じて、スポーツ活動が身体的・精神的健康の維持・向上に寄与し、さらに良好な対人関係の構築を促進する役割を担うことについて理解を深めることを目的とする。そのため、日々の身体活動に費やした時間や睡眠時間などの生活習慣を記録し、その内容を振り返ることで、スポーツ活動が自身の健康に与える影響を評価し、今後の課題を明確化することが求められる。また、テレビ・新聞・Webメディアなどを通じて発信される多様なスポーツ関連情報に積極的に触れ、最新の知見や社会的動向を把握する習慣を養うことも重要である。これらの実践的取り組みを通じて、本授業で学ぶ内容への理解が一層深まり、スポーツ活動の意義に関する科学的かつ実践的な洞察を得ることが期待される。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート40％の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。
1.レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2.リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3.リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5.原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6.やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。

7.前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ科学に関するエビデンスをもとにした講義や実習を通してスポーツの楽しさを学びます。運動によって身体が変化していくメカニズムを理解し、自身のライフスタイルに適切な運動・栄養・休養のコンディショニング法を紹介します。スポーツ科学A同様に、競技スポーツの習熟を狙いとしていない授業のため、スポーツ科学に親しんでみたい生徒の受講を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】
　実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
　オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】
1.原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoomなどによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2.授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする。
4.本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること
5.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understood health from the three perspectives of exercise, nutrition, and rest, as well as a multifaceted understanding of the various problems facing Japan (declining birthrate and aging population, changing lifestyles, lifestyle-related diseases, etc.) and the causes of disease. The goal of this course is to learn how to maintain and improve health by practicing exercises and mental training for self-control methods to maintain one's own health.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Deepen understanding of the three elements of sports: exercise, nutrition, and rest, from various perspectives.
2. Acquire conditioning methods suited to themselves through sports and physical activity, to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

武井　敦彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツや日常活動において、身体のパフォーマンスを向上させるための基礎的～発展的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体機能について様々な視点から理解を深める。
2. トレーニング要素(筋力トレーニング、有酸素運動、無酸素運動、柔軟など)を各種スポーツやトレーニングジムでの活動を通じて身に付ける。
3. 各種競技のパフォーマンス向上を図る。
4. スポーツ傷害と予防方法について知識を深める。
5. 自己管理に資する基礎～発展的な知識の習得や態度の育成を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。履修希望者が多数の場合は、事前のガイダンスにおいて抽選をおこない、履修可能者が決定される。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、プレゼンテーション（1回目）の実施（講義及び実習）
2	体力測定1	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
3	体力測定2	体力測定のフィードバック及びレポート作成(講義)
4	個人スポーツ1	卓球を通じた身体機能を学ぶ(講義及び実習)
5	個人スポーツ2	卓球を通じた身体の使い方を学ぶ (講義及び実習)
6	トレーニング理論と実践1	効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ(講義及び実習)
7	健康とトレーニング	正しい身体機能を知る事により「QOL向上」を行う（講義及び実習）
8	スポーツ傷害	スポーツ傷害の理解と予防 (講義及び実習)
9	個人スポーツ3	バドミントンを通じたパフォーマンスエンハンスメント（講義及び実習）
10	個人スポーツ4	バドミントンを通じた傷害予防を学ぶ (講義及び実習)
11	ウォームアップ	球技系種目を通じた効果的なウォームアップの理論と方法を学ぶ (講義及び実習)
12	チームスポーツ	フットサルを通じたパフォーマンスエンハンスメント(講義及び実習)
13	トレーニング理論と実践2	効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ、プレゼンテーション（2回目）の実施(講義及び実習)
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じて身体機能、各種トレーニング、そしてスポーツ傷害の知識を学び、スポーツや日常活動において身体のパフォーマンスを向上させることを目的としています。そのため、日々のトレーニングやリカバリーなどを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ医科学関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】
広瀬統一・泉重樹・福田崇・稲見崇孝. ケガをしないカラダづくり. 東洋館出版社、2023

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況・プレゼンテーション・リアクションペーパー60％、2）課題レポート40％の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
※原則として欠席3回までを評価対象とします。
※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
身体機能、各種トレーニング要素、スポーツ傷害の予防をより理解するために、多様な体験型学習を取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】
1. 授業内容に関する説明およびプレゼンテーションを実施するため、受講希望者は必ず初回授業に参加して下さい。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire basic to advanced knowledge and develop the attitudes required to improve physical performance in sports and daily activities through lectures and practical training.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. Deepen understanding of physical functions from various perspectives.

2. Acquire training elements (strength training, aerobic exercise, anaerobic exercise, flexibility, etc.) through various sports and activities at training gyms.
3. Improve performance in various sports.
4. Deepen knowledge of sports injuries and prevention methods.
5. Acquire basic to advanced knowledge and develop attitudes contributing to self-management.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each. This class aims to learn about physical functions, various training methods, and sports injuries through lectures and practical training, as well as to improve physical performance in sports and daily activities. Therefore, please record your daily training and recovery, reflect on the content, and record the effects and future challenges. Also, please get into the habit of paying attention to various sports medicine-related information from TV, newspapers, the Internet, etc. This will deepen your understanding of the content of this class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1. Participation status for activities during class /Presentation /Reaction paper 60%,
2. Assignments /Reports 40%.
In principle, this grade evaluation method is used, and students with difficulty in regular activities will be treated and evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

武井　敦彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツや日常活動において、身体のパフォーマンスを向上させるための基礎的～発展的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体機能について様々な視点から理解を深める。
2. トレーニング要素(筋力トレーニング、有酸素運動、無酸素運動、柔軟など)を各種スポーツやトレーニングジムでの活動を通じて身に付ける。
3. 各種競技のパフォーマンス向上を図る。
4. スポーツ傷害と予防方法について知識を深める。
5. 自己管理に資する基礎～発展的な知識の習得や態度の育成を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。履修希望者が多数の場合は、事前のガイダンスにおいて抽選をおこない、履修可能者が決定される。なお、最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、プレゼンテーション（1回目）の実施（講義及び実習）
2	体力測定1	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
3	体力測定2	体力測定のフィードバック及びレポート作成(講義)
4	個人スポーツ1	卓球を通じた身体機能を学ぶ（講義及び実習）
5	個人スポーツ2	卓球を通じた身体の使い方を学ぶ（講義及び実習）
6	トレーニングの理論と実践1	効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ(講義及び実習)
7	健康とトレーニング	正しい身体機能を知る事により「QOL向上」を行う（講義及び実習）
8	スポーツ傷害	スポーツ傷害の理解と予防 (講義及び実習)
9	個人スポーツ3	バドミントンを通じたパフォーマンスエンハンスメント（講義及び実習）
10	個人スポーツ4	バドミントンを通じた傷害予防を学ぶ（講義及び実習）
11	ウォームアップ	球技系種目を通じた効果的なウォームアップの理論と方法を学ぶ (講義及び実習)
12	チームスポーツ	フットサルを通じたパフォーマンスエンハンスメント(講義及び実習)
13	トレーニングの理論と実践2	効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ、プレゼンテーション（2回目）の実施(講義及び実習)
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じて身体機能、各種トレーニング、そしてスポーツ傷害の知識を学び、スポーツや日常活動において身体のパフォーマンスを向上させることを目的としています。そのため、日々のトレーニングやリカバリーなどを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ医科学関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】
広瀬統一・泉重樹・福田崇・稲見崇孝. ケガをしないカラダづくり. 東洋館出版社、2023

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況・プレゼンテーション・リアクションペーパー60％、2）課題レポート40％の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
※原則として欠席3回までを評価対象とします。
※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
身体機能、各種トレーニング要素、スポーツ傷害の予防をより理解するために、多様な体験型学習を取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】
1. 授業内容に関する説明およびプレゼンテーションを実施するため、受講希望者は必ず初回授業に参加して下さい。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire basic to advanced knowledge and develop the attitudes required to improve physical performance in sports and daily activities through lectures and practical training.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. Deepen understanding of physical functions from various perspectives.

2. Acquire training elements (strength training, aerobic exercise, anaerobic exercise, flexibility, etc.) through various sports and activities at training gyms.
3. Improve performance in various sports.
4. Deepen knowledge of sports injuries and prevention methods.
5. Acquire basic to advanced knowledge and develop attitudes contributing to self-management.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each. This class aims to learn about physical functions, various training methods, and sports injuries through lectures and practical training, as well as to improve physical performance in sports and daily activities. Therefore, please record your daily training and recovery, reflect on the content, and record the effects and future challenges. Also, please get into the habit of paying attention to various sports medicine-related information from TV, newspapers, the Internet, etc. This will deepen your understanding of the content of this class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1. Participation status for activities during class /Presentation /Reaction paper 60%,
2. Assignments /Reports 40%.
In principle, this grade evaluation method is used, and students with difficulty in regular activities will be treated and evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木1**/Thu.1
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され，バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容（スポーツ心理、栄養、トレーニング等）も含めて授業を進める。
評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ（グループワークおよび実習）
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ（講義及び実習）
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ（講義及び実習）
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア＆ヘアピン、ドロップ＆ロビング、プッシュ＆レシーブ、スマッシュ＆レシーブについて学ぶ（講義及び実習）
6	バドミントンの歴史を知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ（講義および実習）
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ（講義および実習）
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する（講義および実習）
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える(コンディショニング)ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ（講義）
10	シングルス	シングルスのルールと動き方を学ぶ（講義及び実習）
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義および実習）
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ（講義および実習）
13	トリプルス	トリプルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義及び実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート・試験40％の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1.レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2.リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3.リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5.原則として欠席4回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6.やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7.前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1.食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2.多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3.バドミントンの未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1.原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2.授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3.授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。初回のガイダンスに出席してください。
5.授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
(2) Report on the lecture: 40%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**1/Thu.1
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され，バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容（スポーツ心理、栄養、トレーニング等）も含めて授業を進める。
評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ（グループワークおよび実習）
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ（講義及び実習）
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ（講義及び実習）
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア＆ヘアピン、ドロップ＆ロビング、プッシュ＆レシーブ、スマッシュ＆レシーブについて学ぶ（講義及び実習）
6	バドミントンの歴史を知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ（講義および実習）
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ（講義および実習）
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する（講義および実習）
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える(コンディショニング)ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ（講義）
10	シングルス	シングルスのルールと動き方を学ぶ（講義及び実習）
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義および実習）
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ（講義および実習）
13	トリプルス	トリプルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義及び実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート・試験40％の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1.レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2.リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3.リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5.原則として欠席4回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6.やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7.前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1.食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2.多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3.バドミントンの未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1.原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2.授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3.授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。初回のガイダンスに出席してください。
5.授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
(2) Report on the lecture: 40%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

吉田　康伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
２年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向（歴史）やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】
①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。
実習では、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。
なお、本授業は2年生以上を対象としており、A・B連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。
授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第2回	受講者決定、バレーボールのルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第3回	基本技術・パスの技術習得（実習&講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第4回	基本技術・サーブの技術習得（実習&講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第5回	基本技術・スパイクの技術習得（実習&講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第6回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第7回	フォーメーションについて（実習&講義）	コートの位置取りや実際の動き方など、フォーメーションについて理解する。
第8回	集団的技術・各ポジションの役割（実習&講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第9回	集団的技術（三段攻撃使用）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（三段攻撃を用いる）を立ててゲームを行う。
第10回	集団的技術（レシーブのフォーメーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レシーブのフォーメーション）を立ててゲームを行う。
第11回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。
第12回	集団的技術（チームコミュニケーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（チームコミュニケーション）を立ててゲームを行う。
第13回	集団的技術（総合）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。
第14回	授業総括と筆記試験	授業の総括を行った後、筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、基本的なルールや技術に必要な要点等、各自で行った内容を理解しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参画状況（60％）を主な基準として、筆記試験（40%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえるよう努める。

【その他の重要事項】
・対象者は2年生から4年生で公開科目を受講可能な学生とする。
・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.
[Learning Objectives]
1.Learn basic knowledge about volleyball, such as rules and techniques.
2.Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3.You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
4.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.
[Learning activities outside of classroom]
Understand what you have done, such as the basic rules and the main points required for the technique. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/policy]
The participation status in the class is evaluated as 60%, and the written test is evaluated as 40%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

吉田　康伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
２年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ（アウトドア）バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】
①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。
実習では、春学期Aで習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。
なお、本授業（スポーツ科学B）は2年生以上を対象としており、スポーツ科学Aを受講した学生の連続受講が望ましい。
また授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス及びビーチバレーのルールについて（講義）	授業のガイダンスを行い、ビーチバレーの歴史やルールについて資料を配布し説明する。
第2回	基本的な動きとボールに慣れる（実習＆講義）	スポーツ科学Bからの受講者のため各技術の基本を説明する。
第3回	基本技術の復習（実習＆講義）	スポーツ科学Aで行った基本技術を復習する。
第4回	基本技術、集団技術の復習（実習&講義）	スポーツ科学Aで行った基本的技術や集団的技術を復習する。
第5回	各技術の応用（実習&講義）	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第6回	集団的技術・基礎（実習&講義）	スポーツ科学Aとは違うチーム分けをし、チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。
第7回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第8回	集団的技術（レセプション戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レセプション）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第9回	集団的技術（トスアップ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（トスアップ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第10回	集団的技術（ディグ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ディグ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第11回	集団的技術（スパイク戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（スパイク）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第12回	集団的技術（ブロック戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ブロック）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第13回	集団的技術（総合的）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第14回	授業総括とレポート作成、提出	授業の総括を行った後、レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、インドアバレーとビーチバレーとの違い等を理解し、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参画状況（70%）を主な基準として、レポート（30%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえるよう努める。

【その他の重要事項】
・対象者は2年生から4年生で公開科目を受講可能な学生とする。
・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.
[Learning Objectives]
1.Understand the differences between the characteristics of indoor volleyball and beach volleyball.
2.Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3.You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
4.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.
[Learning activities outside of classroom]
Investigate the difference between indoor volleyball and beach volleyball and the physical fitness factors required for competition. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/policy]
The participation status in the class is evaluated as 70%, and the report is evaluated as 30%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

中澤　史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【到達目標】
1.トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2.目標達成に寄与する独自のトレーニングプログラムを考案し、実践する。
3.トレーニング効果を促進する栄養、サプリメントなどに関する知識を習得する。
4.トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する基礎的な理論と方法について学ぶ。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深める。本授業における主な取り組みは次の通りである。①授業から得た知識や気づきなどをリアクションペーパーにまとめる。②各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をレポートにまとめる。③トレーニング効果を促進する栄養、サプリメントなどに関する文献を講読する。④最終授業時に授業内で行ったリアクションペーパー等の課題に関する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定を行う（講義）
2	安全講習	安全講習及び各種機器の使用方法を学ぶ（講義及び実習）
3	目標設定	体組成の測定及びトレーニング目標の設定を行う（講義及び実習）
4	グループワーク１	描画法を用いたグループワークに取り組む（講義）
5	グループワーク２	グループワークを通して「他者からみた私」を知る（講義）
6	トレーニングの理論	トレーニングの理論と実践方法を学ぶ（講義）
7	トレーニングの理論と実習１	サプリメントとその摂取方法について学ぶ（講義及び実習）
8	トレーニングの理論と実習２	栄養不足が招く悪影響について学ぶ（講義及び実習）
9	トレーニングの理論と実習３	スポーツ現場での栄養指導について学ぶ（講義及び実習）
10	トレーニングの理論と実習４	栄養摂取のポイントについて学ぶ（講義及び実習）
11	トレーニングの理論と実習５	アミノ酸の役割について学ぶ（講義及び実習）
12	トレーニングの理論と実習６	脂質の役割について学ぶ（講義及び実習）
13	トレーニングの理論と実習７	糖質の役割について学ぶ（講義及び実習）
14	総括	体組成の測定及びレポートの作成、授業のまとめ（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次の学習活動への取り組みを推奨します。
1. 計画的なトレーニングを実践する。
2. 食事と睡眠時間を記録する。
3. トレーニング、栄養、睡眠に関する資料を読む。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況、リアクションペーパー、レポート等による総合評価。
・授業への参画状況およびリアクションペーパー等の提出物：80％
・レポート課題：20％
1.原則として出席回数が授業実施回数の 2/3（10回出席）以上に満たない場合はE評価となります。
2.授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。また、遅刻3回で欠席1回の扱いとします。
3.やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、怪我、冠婚葬祭等による欠席を指します。
4.急遽、病気、怪我、冠婚葬祭等により欠席することになった場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告するとともに、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。
5.レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
6.リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
7.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
8. 授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事など）は禁止します。指導を受けても改善が見られない場合はE評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1.トレーニングに適した服装と室内用シューズを準備してください。トレーニングウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2.学習支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができる機器を準備してください。

【その他の重要事項】
1.初回授業時に受講者（30名程度）を決定します。本授業の受講希望者は必ず初回授業に参加してください。
2.授業目標の達成にはトレーニングの継続が不可欠となるため、スポーツ科学Ａ・Ｂの通年履修が理想的です。
3.初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館5階の予定です。
4.原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業等に変更される場合があるため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
5.授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】

In this class, students learn the basic theory and methods of physical training that contribute to the achievement of own goals, such as performance enhancement, body makeup, dieting, and health maintenance and improvement, and devise their own training program. Students will also understand that training activities that contribute to physical health can also be a means of contributing to psychological and social health.

【Learning Objectives】

1.to learn the basic theory and methods of training.

2.to devise and implement original training program that contributes to the achievement of own goals.

3.to acquire knowledge of nutrition and supplements to promote the effects of training.

4.to understand that training is a means of contributing not only to physical health but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

1.to practice systematic training.

2.to record your meals and sleeping hours.

3.to read material on training, nutrition and sleep.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1.Participation in class and submission of reaction papers and other materials : 80%.

2.Report assignments : 20%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

中澤　史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ科学Ａでの学びの発展を目的とし、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【到達目標】
1.実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2.目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案し、実践する。
3.トレーニング効果を促進するリカバリー、栄養摂取、睡眠の方法などに関する知識を習得する。
4.トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する実践的且つ効果的な理論と方法について学ぶ。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深め、スポーツ科学Ａにおいて考案したトレーニングプログラムを発展させる。本授業における主な取り組みは次の通りである。①授業から得た知識や気づきなどをリアクションペーパーにまとめる。②各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をレポートにまとめる。③トレーニング効果を促進するリカバリー、栄養摂取、睡眠の方法などに関する文献を講読する。④最終授業時に授業内で行ったリアクションペーパー等の課題に関する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明及び受講者の決定を行う（講義）
2	安全講習	安全講習及び各種機器の使用方法を学ぶ（講義及び実習）
3	目標設定	体組成の測定及びトレーニング目標の設定を行う（講義及び実習）
4	トレーニングに関する教養教育1	スポーツ傷害に関する予備知識を習得する（講義）
5	トレーニングに関する教養教育2	トレーニング効果を高める予備知識を習得する（講義）
6	トレーニングに関する教養教育3	栄養、発汗、睡眠に関する予備知識を習得する（講義）
7	トレーニングの理論と実習1	睡眠の質について学ぶ（講義及び実習）
8	トレーニングの理論と実習2	睡眠時間と就寝法について学ぶ（講義及び実習）
9	トレーニングの理論と実習3	リカバリーとトレーニングの関係について学ぶ（講義及び実習）
10	トレーニングの理論と実習4	生体リズムと体内時計について学ぶ（講義及び実習）
11	トレーニングの理論と実習5	最終目標から逆算した栄養戦略について学ぶ（講義及び実習））
12	トレーニングの理論と実習6	減量のポイントについて学ぶ（講義及び実習）
13	トレーニングの理論と実習7	増量のポイントについて学ぶ（講義及び実習）
14	総括	体組成の測定及びレポートの作成、授業のまとめ（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次の学習活動への取り組みを推奨します。
1. 計画的なトレーニングを実践する。
2. 食事と睡眠時間を記録する。
3. トレーニング、栄養、睡眠に関する資料を読む。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況、リアクションペーパー、レポート等による総合評価。
・授業への参画状況およびリアクションペーパー等の提出物：80％
・レポート課題：20％
1.原則として出席回数が授業実施回数の 2/3（10回出席）以上に満たない場合はＥ評価となります。
2.授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。また、遅刻3回で欠席1回の扱いとします。
3.やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、怪我、冠婚葬祭等による欠席を指します。
4.急遽、病気、怪我、冠婚葬祭等により欠席することになった場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告するとともに、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。
5.レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
6.リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
7.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
8. 授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事など）は禁止します。指導を受けても改善が見られない場合はＥ評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
・新規的人間関係の構築を目的とした体験型学習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1.トレーニングに適した服装と室内用シューズを準備してください。トレーニングウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2.学習支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができる機器を準備してください。

【その他の重要事項】
1.初回授業時に受講者（30名程度）を決定するため、本授業の受講希望者は必ず初回授業に参加してください。なお、授業目標の達成にはトレーニングの継続が不可欠となるため、スポーツ科学Ｂの履修者は春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用します。
2.初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館地下にあるトレーニングセンターの予定です。
3.原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業等に変更される場合があるため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
4.授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
With the aim of developing learning in sports science A, students will learn practical theories and methods of physical training that will help them achieve their goals, such as performance enhancement, body makeup, dieting, and health maintenance and improvement, and devise their own training program. Students will also understand that training activities that contribute to physical health can also be a means of contributing to psychological and social health.
【Learning Objectives】
1.to acquire practical training theory and methods
2.to devise and implement effective and practical training program that contribute to the achievement of own goals.
3.to acquire knowledge of recovery, nutrition and sleep methods that promote the effects of training.
4.to understand that training is a means of contributing not only to physical health, but also to psychological and social health.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.
1.to practice systematic training.
2.to record your meals and sleeping hours.
3.to read material on training, nutrition and sleep.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1.Participation in class and submission of reaction papers and other materials : 80%.
2.Report assignments : 20%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

魚住　智広

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。バドミントンと卓球を主な競技として、道具を用いた運動を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生の受講も十分に可能です。

【到達目標】
1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 現代社会におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を提出する必要があります。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	（講義）授業概要、目的、成績評価、安全上の注意事項
2	バドミントン①	ラケット操作
3	バドミントン②	フットワーク
4	バドミントン③	基礎動作
5	卓球①	ラケット操作（バドミントンとの違い）
6	卓球②	基礎動作（バドミントンとの違い）
7	バドミントン④	ダブルスルール・ゲーム
8	バドミントン⑤	サーブ
9	教育とスポーツ	（講義）体育とスポーツの違い、体罰、やりがい搾取
10	科学とは何か	（講義）スポーツを科学するとは
11	レクリエーションとは何か	（講義）労働と余暇、スポーツを消費することの是非
12	バドミントン⑥	シングルスゲーム
13	卓球③	ダブルスルール・ゲーム（バドミントンとの違い）
14	テクノロジーとスポーツ	（講義）テクノロジー介入の争点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】
特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】
授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】
1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
・課題の内容を理解したものであるか
・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
・レポートの体裁をなしたものであるか
・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】
スポーツに関する最新の人文社会科学の研究を取り入れながら、授業内容を随時更新しています。

【学生が準備すべき機器他】
課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】
この授業は定員制です。履修希望者は履修登録をした上で、初回ガイダンスに必ず出席してください。履修希望者が定員を超えていた場合、以下の優先順位をもとに抽選と受講許可をおこないます。
①履修登録者かつ初回ガイダンス出席者
②初回ガイダンス出席者
③履修登録者かつ初回ガイダンス欠席者
④履修登録者かつ第2回授業の出席者（欠員補充の場合）
なお教場の都合により授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
This course aims to acquire the knowledge and skills to exercise with others through habitual physical activity. Students will deepen their understanding of the significance of recreation in daily life while exercising with equipment, with badminton and table tennis as the main sports. The exercise load involved in this class is not heavy, so students who do not have an exercise habit can take this course.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. to acquire knowledge of safe exercise through physical activity.
2. to acquire the skills to exercise with others according to individual abilities.
3. to recognize changes in one's body and physical condition while engaging in sports.
4. to understand the significance and issues of recreation in modern society.
Students are expected to complete assigned tasks after some sessions, with a recommended study time of at least four hours per class. The final grade will be determined through the evaluation of goal achievement(68%)and these assigned tasks(32%).
This course has a limited enrollment. Students who wish to take the course must complete course registration and attend the first guidance session.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

魚住　智広

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。バドミントン、ネオテニス、卓球を主な競技として、道具を用いた運動を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生の受講も十分に可能です。

【到達目標】
1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 現代社会におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を提出する必要があります。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	（講義）授業概要、目的、成績評価、安全上の注意事項
2	バドミントン①	ラケット操作
3	バドミントン②	フットワーク
4	バドミントン③	基礎動作
5	ネオテニス①	ラケット操作
6	ネオテニス②	フォアハンド
7	ネオテニス③	サーブ
8	ネオテニス④	ダブルスルール・ゲーム
9	多様な性とスポーツ	（講義）性別二元制、性別役割分業、スポーツ界の課題
10	メガスポーツイベント	（講義）メガイベントの定義、レガシー、ナショナリズム
11	地域の生活とスポーツ	（講義）開発、ショックドクトリン、ツーリズム
12	卓球①	ラケット操作（バドミントンとの違い）
13	卓球②	基礎動作（バドミントンとの違い）
14	暴力・差別とスポーツ	（講義）定義、構造的差別、「中立性」の政治性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】
特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】
授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】
1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
・課題の内容を理解したものであるか
・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
・レポートの体裁をなしたものであるか
・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】
スポーツに関する最新の人文社会科学の研究を取り入れながら、授業内容を随時更新しています。

【学生が準備すべき機器他】
課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】
この授業は定員制です。履修希望者は開講曜日の春学期初回授業日までに履修登録を完了してください。履修登録者が定員を超えていた場合、春学期1週目に抽選を実施します。抽選の結果は、春学期1週目に学習支援システムに掲示します。
受講許可者となった場合は、秋学期の初回ガイダンスに必ず出席してください。また秋学期が始まるまで、履修登録を外さないでください。初回ガイダンスを無断欠席した場合や、初回授業時点で履修登録が外れていた場合は、優先的な受講を取り消す場合があります。
詳しい日程は学習支援システムから確認してください。
なお教場の都合により授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
This course aims to acquire the knowledge and skills to exercise with others through habitual physical activity. Students will deepen their understanding of the significance of recreation in daily life while exercising with equipment, with badminton, neo-tennis and table tennis as the main sports. The exercise load involved in this class is not heavy, so students who do not have an exercise habit can take this course.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. to acquire knowledge of safe exercise through physical activity.
2. to acquire the skills to exercise with others according to individual abilities.
3. to recognize changes in one's body and physical condition while engaging in sports.
4. to understand the significance and issues of recreation in modern society.
Students are expected to complete assigned tasks after some sessions, with a recommended study time of at least four hours per class. The final grade will be determined through the evaluation of goal achievement(68%)and these assigned tasks(32%).
This course has a limited enrollment. Students who wish to take this course must complete their registration by the first class of the spring semester. If the number of applicants exceeds the limit, a lottery will be conducted in the first week of the spring semester.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

西村　一帆

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。
全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック 健康とは	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動 フィットネス	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ニュースポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、パラスポーツのボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。
8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60％、期末レポート20％、授業への参画状況20％の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。
使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】
問い合わせ　教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.
【到達目標（Learning Objectives）】
(1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
(2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
(3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
(4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
(5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.
It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

西村　一帆

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。
全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システム(Hoppii)を通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック 健康とは	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る (講義)。
4	筋力アップ運動 フィットネス	トレーニング機器や自重による運動を行う (講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ニュースポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、またパラスポーツとしてボッチャを行う (講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う (講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える (講義)。
8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う (講義と実習)。
9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う (講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う (講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策 (講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う (講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う (講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る (講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど)60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が 授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。
教場の使用状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】
問い合わせ　教員連絡先: kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【授業の概要(Course outline)】In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.
【到達目標(Learning Objectives)】
(1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
(2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
(3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
(4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
(5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).
【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.
【授業の概要と目的(何を学ぶか)】
It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class. 【成績評価の方法と基準(Grading Criteria /Policy)】Assignments
(reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

朝比奈　茂

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の研究により、身体活動が健康の維持や疾病予防に及ぼす影響が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度に関する解釈は人によって異なり、運動の利点と欠点についても十分に認識されていないのが現状である。
本講義では、日常的に取り組みやすい運動である「ウォーキング」と「ヨーガ」に焦点を当て、それらが健康促進や疾病予防にどのような影響を及ぼすのかを考察する。また、実践を交えながら、効果的な運動方法について具体的に解説する。

【到達目標】
1.人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2.スポーツウォーキングについて説明できる。
3.スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4.スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5.ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6.ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7.呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8.Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。
9.スポーツ傷害について説明できる。
10.ウォーキングおよびヨーガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本講義は対面授業を基本として実施する。
・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。
・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。
・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。
・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス （対面）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。 体格・身体組成の測定を行う。
2	体力測定 （講義および実習）	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 （講義）	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	ヨーガの哲学とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
5	ヨーガの起源とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。 単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨーガと呼吸 （講義および実習）	ヨーガの呼吸法を身に付ける。 呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要 （講義および実習）	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを説明する。 スポーツウォーキングが健康に及ぼす影響やその役割を理解し実践する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 （講義および実習）	歩行姿勢や膝の伸ばし、適正なストライドを意識しながら、バランスを取る技術、惰性を損なわずに推進力を高める技術、さらに重心を上下左右にぶれさせないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢 （講義および実習）	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクス的特徴と正確な歩行を理解し実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 （講義および実習）	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。 走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康 （講義および実習））	スポーツウォーキングが生活習慣病の改善に果たす役割やその効果について説明する。 また姿勢と速度を意識しながら実践する。
12	ヨーガとMeditation（瞑想） （講義および実習）	Meditationについて概説し、ヨーガを実践することでMeditationの状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨーガと健康 （講義および実習）	ヨーガが生活習慣病の改善に及ぼす役割や効果について説明する。 また、基本ポーズを組み合わせて、連続した一連のヨーガとして実践する。
14	まとめ （講義：課題の提示）	スポーツウォーキング及びヨーガを実践した結果、心身にどのような変化が生じたかについて、ディスカッションを通じて総合的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に参加すること。
毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。
レジュメ及び資料は学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし授業に持参すること。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて授業中に伝達する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
佐保田鶴治．ヨーガ根本経典．平河出版社，１９８６
佐保田鶴治．ヨーガ根本経典（続）．平河出版社，１９８６

【成績評価の方法と基準】
以下の内容で総合的に評価する。

1）毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60％
2）期末レポート 20％
3）授業への参画状況 20％

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためDもしくはE評価とする。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】
授業に関する質問や相談は、授業中または授業の前後に受け付ける。それ以外については、随時メールにて対応する。
オフィスアワーとして毎週月曜日の16時50分～18時30分までの100分を設ける。
オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールで連絡を取ること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.
【Learning Objectives】
1. To be able to understand the significance of " walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.
【Learning activities outside of classroom】
Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
The overall evaluation will be based on the following distribution.
1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
2) Final report: 20%.
3) Participation in class activities (not attendance): 20%.
If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.
If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be “D” or “E“.
This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

朝比奈　茂

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の研究により、身体活動が健康の維持や疾病予防に及ぼす影響が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度に関する解釈は人によって異なり、運動の利点と欠点についても十分に認識されていないのが現状である。
本講義では、日常的に取り組みやすい運動である「ウォーキング」と「ヨーガ」に焦点を当て、それらが健康促進や疾病予防にどのような影響を及ぼすのかを考察する。また、実践を交えながら、効果的な運動方法について具体的に解説する。

【到達目標】
1.人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2.スポーツウォーキングについて説明できる。
3.スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4.スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5.ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6.ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7.呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8.Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。
9.スポーツ傷害について説明できる。
10.ウォーキングおよびヨーガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本講義は対面授業を基本として実施する。
・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。
・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。
・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。
・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス （対面）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。 体格・身体組成の測定を行う。
2	体力測定 （講義および実習）	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 （講義）	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	ヨーガの哲学とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
5	ヨーガの起源とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。 単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨーガと呼吸 （講義および実習）	ヨーガの呼吸法を身に付ける。 呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要 （講義および実習）	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを説明する。 スポーツウォーキングが健康に及ぼす影響やその役割を理解し実践する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 （講義および実習）	歩行姿勢や膝の伸ばし、適正なストライドを意識しながら、バランスを取る技術、惰性を損なわずに推進力を高める技術、さらに重心を上下左右にぶれさせないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢 （講義および実習）	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクス的特徴と正確な歩行を理解し実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 （講義および実習）	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。 走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康 （講義および実習））	スポーツウォーキングが生活習慣病の改善に果たす役割やその効果について説明する。 また姿勢と速度を意識しながら実践する。
12	ヨーガとMeditation （瞑想） （講義および実習）	Meditationについて概説し、ヨーガを実践することでMeditationの状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨーガと健康 （講義および実習）	ヨーガが生活習慣病の改善に及ぼす役割や効果について説明する。 また、基本ポーズを組み合わせて、連続した一連のヨーガとして実践する。
14	まとめ （講義：課題の提示）	スポーツウォーキング及びヨーガを実践した結果、心身にどのような変化が生じたかについて、ディスカッションを通じて総合的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に参加すること。
毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。
レジュメ及び資料は学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし授業に持参すること。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて授業中に伝達する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
佐保田鶴治．ヨーガ根本経典．平河出版社，１９８６
佐保田鶴治．ヨーガ根本経典（続）．平河出版社，１９８６

【成績評価の方法と基準】
以下の内容で総合的に評価する。

１）毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60％
２）期末レポート 20％
３）授業への参画状況 20％

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためDもしくはE評価とする。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】
授業に関する質問や相談は、授業中または授業の前後に受け付ける。それ以外については、随時メールにて対応する。
オフィスアワーとして毎週月曜日の16時50分～18時30分までの100分を設ける。
オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールで連絡を取ること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.
【Learning Objectives】
1. To be able to understand the significance of " walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.
【Learning activities outside of classroom】
Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
The overall evaluation will be based on the following distribution.
1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
2) Final report: 20%.
3) Participation in class activities (not attendance): 20%.
If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.
If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be “D” or “E“.
This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

法政大学
HOSEI University